JFA news

公益財団法人日本サッカー協会 機関誌

JFA副女子委員長対談
今井純子×能仲太司

中学校女子サッカー部フェスティバル
~参加チーム活動紹介

山口県サッカー協会の取り組み

「好きを諦めない。中学女子サッカーの部活動を考える」
パネルディスカッション

特集

女子U-15年代の環境整備

4月 NO.456 2022.

情報号

世界をつなぐ旅が、
ここからはじまる。
AL RIHLA
アル・リフラ
FIFA WORLD CUP
Qatar2022

No.456
JFA news
2022 4月情報号

CONTENTS

003 【巻頭言】田嶋幸三 会長

特集
女子U-15年代の環境整備

005 JFA副女子委員長対談
今井純子×能仲太司

010 中学校女子サッカー部フェスティバル
牧之原市立榛原中学校
熊本県なでしこプロジェクト
神奈川県合同チーム

013 山口県サッカー協会の取り組み

015 「好きを諦めない。中学女子サッカーの部活動を考える」パネルディスカッション

【日本代表】
062 アジア最終予選(Road to Qatar)
SAMURAI BLUE vs オーストラリア代表
SAMURAI BLUE vs ベトナム代表
064 FIFAワールドカップカタール2022
組み合わせ決定

【連載】
054 日本全国FAコーチ巡り
長野県サッカー協会
「みんなで目指す姿を共有し長野県の未来をつくっていく」
056 隔月連載 日本サッカータイムスリップ
「FIFAワールドカップへの挑戦(2)」
057 新・隔月連載 フットサル語り場
小森隆弘JFAフットサルナショナルチームダイレクター
「勇気あるトライをすることで見える世界がある」
058 隔月連載 サッカー心育論
中山雅雄
「体を動かそう」
060 いつも心にリスペクト
大住良之
「悲劇の中、勝者を称える」

【REPORT】
072 JFAフットサルGKプロジェクト
内山慶太郎プロジェクトリーダーに聞く

【大会・試合】
066 第24回日本フットボールリーグ開幕
067 2022プレナスなでしこリーグ開幕
069 JFA 第33回O-40女子サッカーオープン大会
070 JFA 第27回全日本フットサル選手権大会
071 JFA 第18回全日本女子フットサル選手権大会

018 月刊レポート～JFAリリースインフォメーション&活動報告
026 会議レポート
042 DATA BOX
050 蹴球通信
061 日本サッカーミュージアム
075 サッカーファミリー広場
076 次号予告

JFAの理念
サッカーを通じて豊かなスポーツ文化を創造し、
人々の心身の健全な発達と社会の発展に貢献する。

JFAのビジョン
サッカーの普及に努め、スポーツをより身近にすることで、
人々が幸せになれる環境を作り上げる。
サッカーの強化に努め、日本代表が世界で活躍することで、
人々に勇気と希望と感動を与える。
常にフェアプレーの精神を持ち、国内の、さらには
世界の人々と友好を深め、国際社会に貢献する。

JFAのバリュー
エンジョイ◉スポーツの楽しさと喜びを原点とすること
プレーヤーズファースト◉選手にとっての最善を考えること
フェア◉オープンかつ誠実な姿勢で公正を貫くこと
チャレンジ◉成長への高い志と情熱で挑戦を続けること
リスペクト◉関わりのあるすべてを大切に思うこと

※本誌の記事・写真・図表などの無断転用を禁じます。
表紙・目次および本誌内のクレジットの記載のない写真
ⒸJFA、ⒸJFA/PR、ⒸJ.LEAGUE、ⒸWE LEAGUE、ⒸF.LEAGUE、ⒸWalnix

アスパス!
JFAは社会課題解決に向けた活動「アスパス!」に取り組んでいます。これは"地球(earth)の未来(明日)のために私たち(us)がつなぐパス"の意を込めた造語でサッカーファミリーが世代や時代を超えて"パスを繋いでいく"という強い決意を表現しています。

ALFRED DUNHILL LTD.
dunhill
DUNHILL.COM

巻頭言 田嶋幸三 会長

次の100年に向けて、新たなJFAをつくる

3月27日に開催された日本サッカー協会（JFA）定時評議員会において理事として選任され、その後の新理事会で4期目となる会長職を拝命しました。

2年前の3月29日、私は新型コロナウイルスに感染して入院中の病院からリモートで理事会に出席し、会長に再任されました。しかし、それからの2年間はコロナとの闘いでした。緊急事態宣言下で日本代表チームもJリーグも興行ができない時期があり、また、グラスルーツの活動や選手育成、指導者／審判養成の各種事業も中止や延期を余儀なくされました。サッカーの灯を消すまいと、2020年5月に5億円を拠出して財政的に困窮するクラブなどへの支援に乗り出しました。サッカーに例えるなら、守備をしっかり固めて点を取られないようにする戦いの連続だったと思います。それでも4種年代を対象にした登録制度改革もようやく緒に就き、メンバーシップアプリ（仮称）の開発も順調に進んでいます。厳しい状況下ではありましたが、次の100年を見据えて思い切った改革にトライできたとも思っています。

JFAはアソシエーションです。営利を目的とした事業会社とは異なり、9地域サッカー協会、47都道府県サッカー協会、各種連盟、そして全国のサッカーファミリーの集まりです。つまり、一つの〝政府〟と言ってよいでしょう。そのことをしっかり認識し、与えられた財産や得たものをスポーツや地域社会の発展のために有効に活用していく――。それがわれわれの存在意義だと思います。引き続き、サッカー発展のための投資をしなければなりませんし、さらなる改革を進めていかなければなりません。私が長く関わってきた代表強化や育成、グラスルーツなどが本当に正しい方向に進んでいるか検証する必要がありますし、シーズン制のことだけではありませんが〝世界〟を目指すためのカレンダーを作っていくということも非常に重要なミッションだと考えています。女性役員の登用やSDGs（持続可能な開発目標）の達成のための各種活動も積極的に推し進めていく考えです。

3月18日には、三井不動産レジデンシャル株式会社と「JFAハウスの土地建物に関する売買契約」を締結しました。サッカーを通じて培った経験や知見、財産など持てる資産を社会に還元することは公益財団法人としての責務です。働き方改革の推進、JFAの文化と歴史を継承してエンゲージメントを向上すること、そして、サッカー関係者やパートナー企業との連携強化などを進めながら、さらなるスポーツの発展と地域のために取り組んでいきます。

これからの2年間は、次の100年に向けたスタートの始まりです。守るべきものはしっかり守り、変えるべきところは変えていく、それを理事、評議員と議論しながら進めていく考えです。私にとって最後の任期となりますが、最後までしっかりJFAのかじ取りをして新しいJFAをつくっていきたいと考えています。

FIFAワールドカップ出場 これまで以上の成績を

サムライブルー（日本代表）は7大会連続7度目のFIFAワールドカップ出場を決めました。埼玉スタジアム2002での最終戦は残念ながら引き分けで終わってしまいましたが、スタンドの応援はチームに力を与えてくれました。

森保一監督、選手、スタッフをはじめ、これまで代表選手たちを送り出してくれたJクラブやヨーロッパ各国のクラブ、少年時代から彼らを育ててくださった全国の指導者の皆さん、苦しい時も支えてくれたファン・サポーターの皆さんに心からお礼を申し上げます。コロナ禍の厳しい中で予定通り開催できたことは、日本政府や埼玉県をはじめとする開催地の自治体、ボランティアなど多くの関係者の努力のおかげと感謝しています。

FIFAワールドカップカタール2022の組み合わせも決まり、日本は、スペイン、大陸間プレーオフ勝者（コスタリカまたはニュージーランド）、ドイツが同居するグループEに入りました。

ドイツは、1960年のデットマール・クラマーコーチの時代から実に多くのことを学んできました。スペインとは2010年にパートナーシップ協定を結んでから指導者養成やユース育成などにおいて協力関係にあります。両者共にワールドカップ優勝経験国ですし、コスタリカもニュージーランドも力をつけてきています。日本はまだ第3ポットのチーム、どのグループに入っても厳しい戦いを強いられることに変わりはありません。初戦で自分たちの実力を発揮して勝ち点を取ることが重要です。強豪国ぞろいですが、チャンスはあると確信しています。

本大会まであと約8カ月、新たな金字塔を打ち立てるべく、多くの皆さんと心を一つにして良い準備を進めてまいります。これからもご支援いただきますようお願い申し上げます。

女子選手に選択肢がある環境を

日本サッカーにとって、女子中学生（U-15）年代の環境整備は長年の課題となっている。女子サッカーの発展には、女子選手が継続してサッカーをプレーできる環境が必要だ。

今号の特集では、日本サッカー協会（JFA）女子委員会が推し進めるさまざまな施策について、今井純子、能仲太司の両JFA副女子委員長に聞く。そのほか、昨年度実施された中学校女子サッカー部フェスティバルに参加したチームの活動状況、山口県サッカー協会の技術委員会と女子委員会の連携における取り組みを紹介。3月30日にJFA女子サッカーデーの事業の一環として開催されたパネルディスカッションの様子もレポートする。

今井純子 JFA女子委員会副委員長 × 能仲太司 JFA女子委員会副委員長 対談

日本の女子サッカーにおいて、U-15（中学生）年代の登録選手数の減少は長年の課題となっていた。日本サッカー協会（JFA）は、2020年にJFA U-15女子サッカーリーグを創設し、2021年は中学校女子サッカー部フェスティバルを再開、今年は国民体育大会で初の少年女子（U-16）の部が開催されるなど、この年代を対象とした新たな取り組みが続いている。
JFA女子委員会で代表強化や選手育成、普及活動、各リーグの活性化、女性指導者養成などをけん引する今井純子、能仲太司の両副委員長に、女子U-15年代の実態と施策について話を聞いた。

○対談日：2022年3月11日

JFA女子委員会の体制と連携

情報共有しながら活動の活性化を

――JFA女子委員会は昨年12月に佐々木則夫委員長が就任され、新体制になりました。佐々木委員長がなでしこジャパン（日本女子代表）や全体を統括されていますが、副委員長お二人のご担当についてあらためて教えてください。

今井　大きく分けると代表強化と選手育成を能仲（太司）さん、リーグの活性化や普及、指導者養成、女性の人材活用は私が中心に動いています。とはいえ、実際には、普及も育成もゲーム環境、指導者養成もどれもきれいに担当を分けることはできませんから、それぞれ連携して取り組んでいます。

能仲　これまでは前委員長の今井さんと前副委員長の手塚（貴子）さんの二人で多くのことを推し進めてきました。今度は副委員長二人体制にしてさらに活性化させていこうということです。

――二人三脚で推進されていくということですね。能仲副委員長は、2007～2012年にテクニカルスタッフとして日本女子代表に携わられ、その後はアルビレックス新潟のレディース監督、男子トップチームのコーチを歴任されました。現在はJFAコーチ（女子担当）のサブチーフコーチも務められています。副委員長に就任され、ご自身の役割をどう捉えられていますか。

能仲　なでしこジャパンとアンダーカテゴリー日本女子代表、そして、JFAアカデミー、エリートプログラム、トレセン活動など、それぞれの情報をより循環させて縦横のつながりを強固にしながら、その輪を広げていくことです。2020年からJFAコーチの関東チーフとして2年間活動していた経験を生かして、会議や研修会などでJFAからの発信や説明をしたり、逆に現場で起きていることを吸い上げてJFAで議論したりなど、役割の一つとして、人と人、現場とJFAをつないで活性化させることに尽力していきます。

――今井副委員長が能仲副委員長に期待することはどのようなことでしょうか。

今井　能仲さんは、JFAの女子代表テクニカルスタッフとしてなでしこジャパンでの活動経験も豊富な方です。日本の女子サッカーを強くするためには、国内や海外での活動を評価・分析して普段の活動に反映するというサイクルがとても大事になりますから、そ

うしたテクニカルスタディグループ（TSG）の機能を充実させるという部分で大いに期待しています。私は主に都道府県サッカー協会（FA）の委員長やクラブの代表者の立場にある方々と接する機会が多いので、能仲さんにはチームや現場の人たちと良い関係性を築いていただくという面でこれまでの経験を生かしてもらえたらと思っています。

能仲副委員長は、日本女子代表テクニカルスタッフ、アルビレックス新潟レディース監督、同トップチームコーチを歴任してきた

女子U-15（中学生）年代の実態
非登録選手へのアプローチ 男女共にプレーできる環境を

――「女子サッカー発展のためのマスタープラン」では、2030年までに女子選手の登録数を20万人（全体の約20％）にすることを目指しており、中期目標として2024年に10万人到達を掲げています。

今井　マスタープランを策定した当初は、2020年の東京オリンピック、2021年のWEリーグ開幕、2022年の国体少年女子の部開始、2023年のFIFA女子ワールドカップ招致の流れの中で、24年までには10万人に達したいという狙いがありました。30年に20万人を達成するためにはそれが必要だろうと。10万人という数字は全選手登録数の約10％に当たります。これは今、世界で女子サッカーを発展させようと目標に掲げている数字です。現在の登録数は約5万人、6％（図1、2）。コロナ禍に見舞われたり、23年女子ワールドカップの招致を断念せざるを得なかったり、いろいろな影響は受けていますが私たちの目標は変わりません。

――日本の女子サッカーの一つの課題として、中学生年代の受け皿と女子選手の登録数減少が挙げられていました。現状はいかがでしょうか。

今井　中体連（日本中学校体育連盟）の加盟生徒数調査（図3）を確認すると、中体連加盟校のサッカー部に全国で約5500人の女子が所属していることが分かりました。その中でJFA登録数は推定2000人ほど、それを差し引いて約3500人が男子サッカー部で活動していると考えられます。つまり、われわれが把握できていなかった潜在的な数がそれだけいるということです。

U-15年代の受け皿を増やすとはいっても、JFAが中学生年代の個々のクラブの創設に直接的に関わることはできません。ですから、この数字を見たときに、男子と一緒にサッカーをしている女子をサポートする機会を、JFAとして提供し充実させることが重要だと考えました。同時に、サッカーをしたくても男子サッカー部で女子を受け入れていない学校はまだあると聞いていますので、女子を受け入れてもらい、男女混合で活動しつつ、女子だけの活動もできる環境を増やすことも中学生年代では大事にしていきたいと思います。

――部活動は普及面でも重要な場となります。

今井　学校の部活動は子どもが最も安心して身近にサッカーができる場所です。金銭的な負担や時間的な負担もないので誰もが平等にサッカーと出合い、楽しめるという点も大きな意義で、不可欠な環境です。現在は、47FAに情報を共有して、男子サッカー部にいる女子を把握してもらえるようにお願いしています。また、全国技術委員長会議では、男子とミックスの環境でプレーしている女子選手もいることをぜひ認識してほしいと伝えています。男子の3種委員会やトレセンコーチとも連携して、女子選手が活動しやすい環境を整えていこうとしているところです。

中学校女子サッカー部フェスティバルの意義
サッカーを楽しめる場を続けられる環境を提供する

――昨年、「中学校女子サッカー部フェスティバル」を再開したこともそのアプローチの一つでしょうか。

図1　全国の登録女子選手数

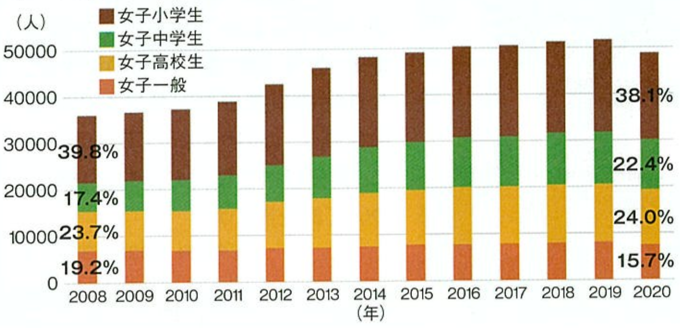


図2　年齢別登録女子選手数 2005-2020年

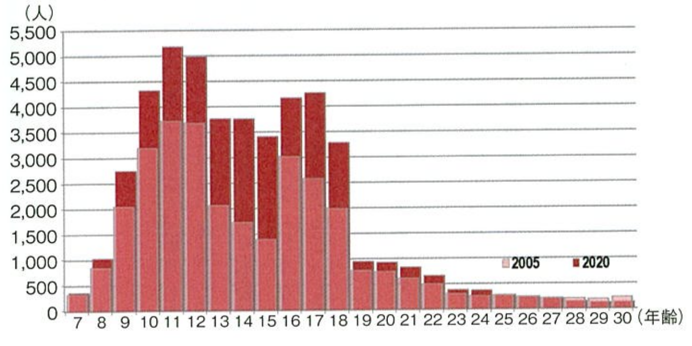
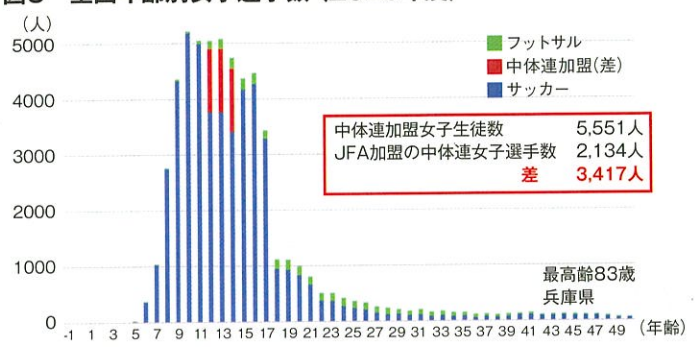


図3　全国年齢別女子選手数（2020年度）



今井　中学校女子サッカー部フェスティバル（表1）は2013年から2015年まで実施していました。当時の参加者の中には「あの時にフェスティバルがあったから今も大学で続けています」という選手もいて、われわれがとても大事にしていた事業です。女子中学生の活動の場を増やし、応援することを目的とした事業で、人数が少なくてまだ大会に参加できない女子サッカー部や、普段は男子サッカー部で活動している女子選手たちが集まって活動しています。昨年復活させるにあたって、以前は2泊3日だったものをコロナ禍でも参加しやすいよう日帰りに変更し、全国2カ所から4カ所に増やしました（うち1回は中止、1回はオンラインに切り替えて実施）。われわれとしては、年1回のプログラムに参加するだけでなく、このフェスティバルを目指して月1回でも、2週間に1回でも地域で集まって定期的に練習会を実施してもらうなど、日常のサッカー活動を活性化させてもらうことも狙いとしてあります。

――目標とする場があると日々の活動にも熱が入りますね。昨年の参加チームは、その成り立ちや背景もさまざまでした。

今井　中学校の先生方が協力して合同チームを編成したり、高校の先生方の協力があったり、各FAの女子サッカー普及コーディネーターやFAコーチ等が中心になって女子選手を集めたり、さまざまなケースがあります。皆さんがいろいろ工夫して女子選手の活動の場をつくってくださっていることは大変ありがたいですし、さまざまなタイプの好事例があることはプラスであり、広めやすいと思っています。

――このフェスティバルをきっかけに、互いに連絡を取り合って練習試合を組んだり、合同練習をしたりする事例が出てくるといいですね。

能仲　10月の高円宮記念JFA夢フィールドで開催されたフェスティバルを視察した際、現場では指導者間でいろいろな情報を共有されていました。あるチームは何チームかで集まってフェスティバルをしているとか、そこに今度自分たちも参加できないかといった話ですね。フェスティバルを機に新たなつながりや活動が生まれているようです。神奈川県のFAコーチの中村元彦さんもいらっしゃっていて、各学校の先生とお話しされていました。FAコーチとして女子にも目を向けてくださり、神奈川県でさまざまな活動に取り組まれています。FAコーチと普及コーディネーターが連携していく形も増えていくといいなと思っています。

――全国大会やトレセンでは把握できていなかった選手を発掘する場にもなるのでしょうか。

能仲　JFAのトレセンシステムで全国の選手を把握する流れはできていますが、各FAでは今まで中学校男子サッカー部に所属している女子選手を把握しきれていませんでした。昨年のフェスティバル参加者の中にも能力の高い選手がいて、その選手がトレセンに参加するようになったという話も聞いています。今後は、男子サッカー部の女子選手にも各地域・都道府県のトレセンに参加してもらえるようアプローチしていかなければなりません。

今井　男子サッカー部の中で頑張ってサッカーを続けている女子の大変さは、本人も指導者も感じているところだと思います。普段は

表1　中学校女子サッカー部フェスティバル

●概要

目的	・中学校女子サッカー部の存在および活動を広く知ってもらう ・創部して間もない、人数が少ないなど、大会や公式試合に出場できないチームの選手でもサッカーを楽しみ、サッカーを通じて仲間ができる機会をつくる
対象	・JFAに加盟登録している、もしくは将来の加盟登録に向けて活動している中学校女子サッカー部。中高一貫校、近隣中学校の合同チーム、男子と一緒のサッカー部（第3種）に所属している女子選手だけを集めた合同チームも対象に含まれる
日程・参加チーム	・1会場（1日）で8チーム程度 ・1チーム選手8名以上、指導者（引率者）1名以上 ・原則、日帰り参加とする（どちらか1日のみ、または両日とも参加）

●中学校女子サッカー部フェスティバル 2021年度応募チーム

日程・会場	チーム名	所属	事業主体
7月22日（木祝）・23日（金祝） Jヴィレッジ　※中止	岩手県合同チーム	岩手	岩手県サッカー協会（FAコーチ）、中体連委員長
9月18日（土）・19日（日） J-GREEN堺 ※緊急事態宣言の影響により、オンラインセミナーを実施	広島蹴命FC	広島	広島県サッカー協会（FAコーチ）
	大阪市女子アカデミー	大阪	大阪市中体連
	京都府中体連女子合同チーム	京都	京都府サッカー協会、京都府中体連
	和歌山市女子中学生合同チーム	和歌山	和歌山県サッカー協会
	VERSUS徳島	徳島	徳島県サッカー協会（女子サッカー普及コーディネーター）
	神戸市立中学校女子サッカー活動	兵庫	神戸市、神戸市サッカー協会
	HYOGO JHS Girls	兵庫	兵庫県中体連
10月2日（土）・3日（日） 熊本甲佐総合運動公園	宇土市立鶴城中学校	熊本	学校
	Amakusaシーガルズ	熊本	天草市サッカー協会
	熊本県なでしこプロジェクト	熊本	熊本県サッカー協会（女子サッカー普及コーディネーター）
	長崎なでしこU-15	長崎	長崎県サッカー協会（女子サッカー普及コーディネーター）
10月16日（土）・17日（日） 高円宮記念 JFA夢フィールド	さいたま市立常盤中学校	埼玉	学校
	さいたま市合同部活動	埼玉	さいたま市
	文京学院大学女子中学校	東京	学校
	神奈川県中学校サッカー部女子	神奈川	神奈川県中体連
	牧之原市立榛原中学校	静岡	学校

男子とプレーしている女子選手も、女子だけでプレーする機会をつくるといきいきとした表情でプレーしているという声は指導者から多く聞かれます。ただし、大事なことは、身近に日常的にサッカーができる環境があるということです。そういう意味では、男子サッカー部で活動する場、女子だけで活動する場など、いろいろなプレー環境をつくってあげることが必要です。女子選手が続けやすいように活動の選択肢を増やすということですね。高校で初めてサッカーを始める女子も今は増えていますから、サッカーを続けやすい環境をつくっていきたいと考えています。

JFA U-15／U-18女子サッカーリーグの創設

実力が拮抗したリーグ戦で選手も指導者も切磋琢磨を

――U-15年代の地域リーグも2020年からスタートしました。経緯を教えてください。

今井　構想としては、私が女子委員長に就任して2年目に立ち上げた女子のゲーム環境改革が基になります。各年代でリーグ戦を整備するため、20年にU-15を開始し、今年はU-18の準備中です（表2）。

能仲　U-15リーグのスタート時は、私も関東チーフとして関わっていました。それまで夏に開催していたJFA全日本U-15女子サッカー選手権大会を冬（12月）に移行して年間を通したリーグ戦を導入したわけですが、長丁場のリーグ戦は、選手と指導者がトライ&エラーを繰り返しながら成長し、経験を積む場となります。12月の全国大会では、チームの特色が表れていたり、セットプレーの質が上がるなど、成長を見て取ることができました。初年度は8月まではコロナ禍でほとんどリーグ戦ができず、半分ほどしか実施できませんでしたが、この2年だけでもいろいろな部分でサッカーの質に変化が起きていると感じます。

今井　リーグ戦の重要性は男子でも示されているところです。女子の場合、U-15の選手数は少ないのですが、一般の女子チームに所属している選手は、大人と一緒に地域や都道府県リーグに出たり、各大会の予選大会に出たりと実はとても忙しい年代です。しかし、将来に向けても年代別のリーグ戦をしっかりと整備して、実力が拮抗した中で同年代と切磋琢磨できる環境をつくることで、選手たちがより刺激を受けて成長できるようにしたい。それがサッカーを継続できる環境づくりにもつながります。

表2　女子のゲーム環境改革

第1フェーズ	2020年　JFA全日本U-15女子サッカー選手権大会の冬への移行 2020年　JFA U-18女子サッカーファイナルズ創設（2020、2021年は中止） 2020年　JFA U-15女子サッカーリーグの開始
第2フェーズへの準備	・トレセンマッチ／トレセンリーグの展開・検討 ・U-18女子地域リーグ整備、全国リーグの検討　など

国体・少年女子の部創設

各都道府県での選手育成トレセン活動を活性化

――次は国民体育大会についてです。少年女子の部（表3）が今年いよいよ初開催となります。国体に向けて各FAで活性化されている取り組みもあるのでしょうか。

今井　少年女子の部は、サッカー界全体の協力を得て実現に至りました。成年男子と成年女子の部が隔年開催となり、少年女子の部は毎年の開催となります。やはり国体は国民スポーツの祭典ですので、各都道府県のスポーツ協会から強化費が出たり、指導者が配置されたり、サッカー協会の枠を超えたパワーを得られる機会です。各FAでは国体を目指して早くからトレセン活動を始めたりとそれぞれが指導者を配置したりと強化に取り組んでいます。その中で男子のトレセンとの連携を進めているところも出てきています。

能仲　高校生年代の指導者が中学生のトレセンに関わる機会が増えているという話は聞きます。中学生年代で女子選手を増やしていこうという目的もある中で、中学1、2年生から高校生年代の指導者も関わって上の年代につなげようという動きがあったり、年代を超えた連携がなされるようになって選手の情報共有もできるようになったり、大きな相乗効果が生まれていると聞いています。

今井　女子に限った話ではないのですが、中学校を卒業したら他県の強豪校に進学する選手が多く、それが課題になっているFAはたくさんあります。トレセン活動を活性化させるだけでなく、各年代が連携して、自分たちの県の中で選手を育成できるようにしてもらえたらと思っています。

表3
国体・少年女子の部創設の目的

- ●U-12からの種別を超えた継続的活動開始
- ●各都道府県での種別を超えた計画的な一貫指導の促進
- ●各都道府県で中学生年代の環境充実
- ●各都道府県での男子との連携の深まり
- ●地域内でのトレセンマッチの充実

――男子ではU-15やU-16のトレセンリーグを実施しています。女子もその構想はあるのでしょうか。

今井　地域・都道府県でのトレセン活動のほか、地域内での交流戦はしてほしいと伝えています。男子では地域トレセンリーグの結果を、全国大会出場チームを決める際の条件にしている地域も増えています。女子も各地域で検討、整備を進めていただいています。

能仲　関東の女子の場合、地域の選手たちを集めてしっかりトレーニングしていくことに重点を置いていたので、まだU-15年代トレセンリーグという形式ではできていません。選手の成長や今後の変化を踏まえて、トレセンでもリーグ戦をやっていくことを検討する必要はあるのかなと思います。

女性指導者の養成

ライセンス取得を促進し、女性指導者に活躍の場を

――普及、育成を推進する上では女性指導者の存在も不可欠です。指導者ライセンスの取得と上位級のライセンス取得を促進され

ていますが、現状と目標を教えてください。

今井　B級コーチ養成講習会は、47FAでコースも開催されていますので、各FAの皆さんにはそこに女性を1割迎えてほしいと伝えています。女性指導者を増やすことに関しては、声を掛ける、背中を押して受講を促すということが必要です。そして、指導者として経験を積んで自信をつけてもらうためにも、ライセンス取得後にぜひ活動機会を持ってほしいと考えています。

また、女性指導者の養成を積極的に進める上でも、女性インストラクターを増やしていきたい。女性はまだ指導者として活動するイメージを持てない人が多いんですね。指導者やインストラクターとして活躍する女性が増えることで、そのイメージは持ちやすくなると思いますし、女性養成促進を積極的に進める人材となってほしいと考えています。各FAに女性インストラクターを増やしてほしいと呼びかけて、20年には8人だったものが現在40人まで増えました。全国に100人配置することが目標です（図5参照）。

能仲　自分が教わっていた指導者に憧れる人は多いですよね。もう一つの入口として、若い指導者が身近にいることも、指導者を目指すきっかけになるのかなと思っています。男子だとOBが指導者として後輩を教えることはありますし、女子もOGがチームで指導したり、大学でサッカーをしながら時間のあるときに近くのクラブで女の子たちにサッカーを教えたりするような機会が増えていくといいのかなと思いますね。現役のうちに指導者ライセンスを取得しておくと視野が広がって選手として成長できます。将来的にも指導者という選択肢があることは大きいです。

U-15年代の地域リーグ創設に伴い、JFA全日本U-15女子サッカー選手権大会は冬開催に（写真は2020年第25回大会決勝）。リーグ戦の成果が表れる場となった

現在、女性指導者の皆さんは各現場でものすごく熱心に情熱を持って取り組んでくださっています。われわれJFAコーチとしても、女性指導者をフォローアップしていきたいと考えています。

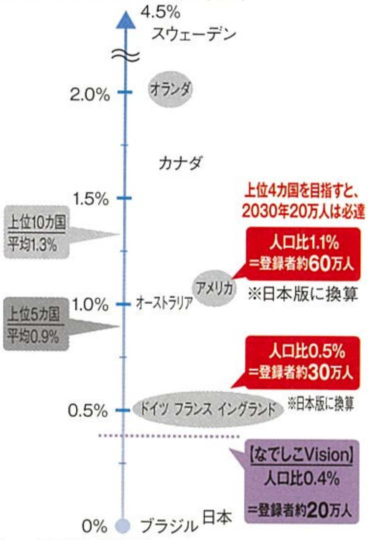
――今回はU-15年代に焦点を当ててお話をお伺いしました。環境を充実させていくためにも全国の指導者、関係者の皆さんの力が必要になります。

今井　まずは2024年を目標年として、大きな変化を生み出していきたいと考えています。今回お話しした以外にも、男子のクラブチームで女子U-18やU-15のカテゴリーを新設してもらったり、カテゴリーを増やしたりしてもらえるようなアプローチもしています。U-15年代に限らず、いろいろな方々と連携して女子サッカーの可能性を探っていきたいと考えています。

能仲　今年はFIFA U-20／U-17女子ワールドカップ、そして来年にはFIFA女子ワールドカップが控えています。女子サッカーに関心を持ってもらったり、女子の競技人口を増やすためにも代表チームの活躍は重要です。各地域・都道府県で尽力してくださっている皆さんの励みとなり、活動促進につながる結果を残さなければならないと強く感じています。代表チームのみならず、普及、育成、指導者養成とそれぞれ相乗効果を生み出しながら、日本女子サッカーの発展に向けて取り組んでいく考えです。

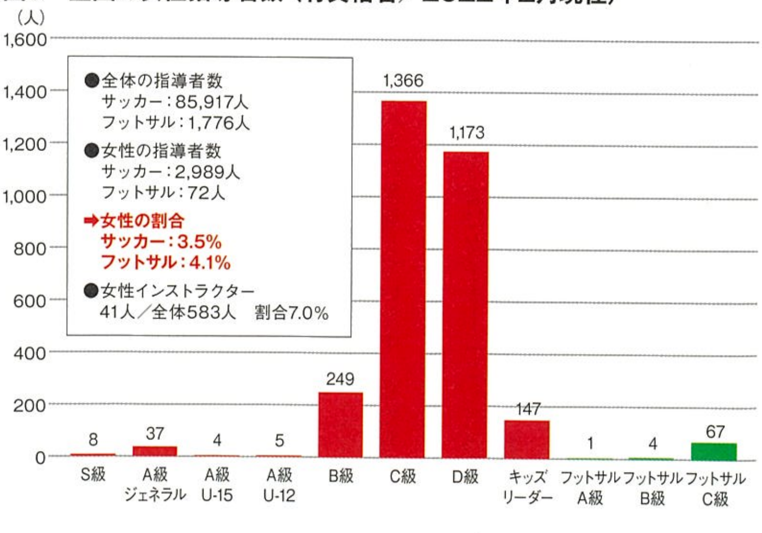
図4　上位10カ国の女性選手登録者数の人口比（2019年時点）

順位	国	女性登録者※1（2019年度）	女性人口※2（2019年度）	人口比
1	アメリカ	160.0万人	14,888万人	1.1%
2	ドイツ	19.8万人	3,678万人	0.5%
3	フランス	14.2万人	2,924万人	0.5%
4	イングランド	12.1万人	2,517万人	0.5%
5	オランダ	16.2万人	766万人	2.1%
6	カナダ	29.0万人	1,690万人	1.7%
7	スウェーデン	19.7万人	441万人	4.5%
8	オーストラリア	11.3万人	1,125万人	1.0%
9	ブラジル	0.3万人	9,770万人	0.0%
10	**日本**	**5.1万人**	**5,547万人**	**0.1%**



※1：Women's Football Member Associations Survey Report 2019（FIFA）
※2：各国の2019年度女性人口を、5～79歳間の人口数に絞って記載

図5　全国の女性指導者数（有資格者／2022年2月現在）



日本サッカー協会（JFA）は2021年、女子U-15年代の環境整備の一環として、中学校女子サッカー部フェスティバルを開催した。参加チームの榛原中学校、熊本県なでしこプロジェクト、神奈川県合同チームの引率者にそれぞれの活動内容や実情を聞いた。

中学校女子サッカー部フェスティバル 参加チームの声

「場所がないからやめる」という選択肢をなくす

○オンライン取材日：2022年3月9日

牧之原市立榛原中学校
宮部真崇 先生

榛原中女子サッカー部の選手たち。写真前列中央が宮部真崇先生

周囲が温かい目で見守っていてくれた

榛原中学校は静岡県中西部の牧之原市にある公立中学校です。近隣の藤沢市と比べ、地域のサッカー熱が特別高いと感じたことはありませんが、私が榛原高校の生徒だった1993年頃には同校に女子サッカー部がありました。女子サッカーの強豪として有名な藤枝順心高校（当時、藤枝南高校）に女子サッカー部がなかった時代だったので、今思うと、県内でも早くから女子サッカーを取り入れていた地域だったと思います。

榛原中の女子サッカー部は97年に創部し、それから25年間、一度も休部することなく活動しています。2021年の部員数は3年生と2年生が6人ずつ、1年生が9人で計21人でした。部員確保のために何か施策を打っているわけではありません。強いて言うならば、この地域には昔から榛南マリーンズという女子のサッカースポーツ少年団があるので、榛原中に進学したとき、女子サッカー部に入部しやすい、ということくらいでしょうか。保護者を含め、周囲の皆さんが女子サッカーと選手たちを温かい目で見守ってくれることもプラスに働いているように感じます。例えば、榛原中女子サッカー部に所属していた選手の娘さんが今年、同サッカー部に入部してきます。また、社会人チームと練習試合をすると、選手のお姉さんがそのチームにいて、お父さんは試合の審判を務めている、ということもあります。

私が19年度から榛原中の女子サッカー部の顧問になって強く思うのは、中学校の部活動が初心者の受け皿でなければ、サッカーの競技人口はどんどん減っていくだろうということです。今、小学校のチームは8人制で試合をします。そのチームの選手が中学校に進んだとき、11人をそろえるにはあと3人が必要になるので、中学校からサッカーを始めてみようと思った生徒をどれだけ受け入れられるかがポイントだと思っています。榛原中の女子サッカー部は、競技力より育成と普及を大切にし、全ての生徒に門戸を開いてきたからこそ、今日まで存続できたのだと思います。

つないできたバトンを次に渡さなければ

中学校女子サッカー部フェスティバルは、地域サッカー協会を通じて知りました。自分たちは強豪ではないので、それまで遠征も合宿もしていませんでした。でも、フェスティバルの概要を読むとJFAが移動費を負担し、しかも選手は高円宮記念JFA夢フィールドでプレーができると書いてありました。チームとして何か大きなイベントができないか悩んでいたところ、JFAが太っ腹な企画を立ててくださった（笑）。これに全てを懸けようと選手たちに作文を書いてもらい、応募しました。

フェスティバルは本当に充実していました。まず、選手たちが素晴らしい施設でサッカーができました。日本代表のロッカールームにも入らせていただきました。次に、同年代の女子選手とミックスで試合や練習をしたことも得難い経験でした。

フェスティバルから戻った後、選手たちの「サッカーを楽しもう」という姿勢が強くなったと思います。私自身も、選手たちがより楽しめる環境を整えたいという思いを強くしました。他県が合同チームでフェスティバルに参加していた中、私たちは単独の女子チームとして加わりました。当たり前に女子チームとして活動できることのありがたさに気づきましたし、これまで自分たちの地域でつないできた女子サッカーのバトンを次に渡さなければ、という使命感も増しました。

これを機に今年4月、地域の関係各所の協力を仰いで、中高生の女子を対象としたクラブチーム、SC ThetisHAIBARAを立ち上げました。このクラブチームの発足によって、榛原中の生徒でない女子もサッカーができるようになります。女子サッカー部のない高校に進学した選手たちも、同じチームでサッカーを続けられます。選手のための受け皿をつくり、「場所がないからやめる」という選択肢をなくしたい。昨年、選手たちがフェスティバルで得たような経験を次の年代も味わえるような環境づくりをしたいなと思っています。

少しでも門戸を広げたい

熊本県なでしこプロジェクト
大石七美さん（女子サッカー普及コーディネーター）

○オンライン取材日：2022年3月22日

中学校女子サッカー部フェスティバルに参加した選手たち。熊本県内と長崎県から女子選手が集い、共にボールを蹴った

参加した女子選手全員が普段は男子とプレー

U-15年代の女子へのサッカーの普及や育成、強化において、今年度から国体に少年女子の部（U-16）が開催される影響は大きいです。「熊本県なでしこプロジェクト」を立ち上げたのもその一環でした。熊本県では、女子のトレセンをさらに充実させるために選手育成と指導者養成の2本柱でその体制を強化しているところです。U-15年代だけでは難しいため、ジュニア年代（4種）の活動にも指導者を派遣し、小中一貫体制で進めています。年代別のトレセンを整備しながら、女性指導者を少しずつでも増やしていく構えです。2年前には女性を対象としたJFA公認C級コーチ養成講習会を実施し、その中の2人が現在はB級ライセンスを取得しています。

昨年10月には熊本甲佐総合運動公園で九州では初となる「第3回中学校女子サッカー部フェスティバル」を開催しました。コロナ禍の影響で規模を縮小せざるを得なかったのですが、フェスティバルに対する九州の女子サッカー関係者の認知度は高まったと思います。

当日は県内のほか長崎からも選手が駆け付けました。参加した女子選手たちはみんなポジティブな感想を口にしていました。彼女たちは普段、中学校の部活動で男子たちとボールを蹴っていますが、「今日は遠慮なくプレーできた」と顔をほころばせていたのが印象的です。サッカーの面白さを再認識し、「女子同士でプレーするとこんなに楽しいんだ」と話す選手もいました。その選手は中学生でサッカーに一区切りをつけるつもりだったようですが、「サッカー部のある高校を探したい」と言ってくれました。今回のフェスティバルがサッカーを続けるきっかけになったのであればうれしいですよね。一方で中学校からサッカーを始めた初心者も数人参加していました。そういった選手たちのためにも、少しでも門戸を広げたいと思います。

横のつながりをつくり理解を得ることが第一歩

フェスティバルの企画趣旨として、女子サッカーの部活動をさらに充実させてもらいたいという思いがあります。現状、熊本県内で活動している中学校女子のチームは一つだけです。そのほかの女子は普通のサッカー部に所属し、男子に交じってプレーしています。私が把握しているだけでもそういう選手が県内に88人いて、チームによっては男子の中に女子1人という環境でサッカーを続けています。部活動でプレーする女子のレベルは決して低くなく、むしろ意識の高い選手が多い。家庭の事情、地理的な問題でクラブチームに通えず、部活動で男子と一緒にプレーしている選手もいますので、女子が1人という状況だとしても、サッカーを続けられる環境を整備していきたいと思っています。

中学校の部活動に女子サッカー部を新設してもらうことが理想ですが、一足飛びにはいきません。まずは地域で女子の合同チームをつくりたい。チームとしての活動を続けることができれば、地域対抗戦という形で女子チーム同士の試合を組むこともできます。もちろん、簡単ではないことは分かっていますが、地域で横のつながりをつくり、少しでも周囲に理解してもらえるように働きかけることがその第一歩です。U-15年代の女子チームにこだわる理由は、学年を重ねていくと男子と共に試合をするのが難しくなるからです。中学2、3年生では男女の体格差、身体能力の差が顕著に表れます。女子同士でプレーできる環境を整えることが、彼女たちがサッカーを続けていく大事な要素になります。

昨年、WEリーグがスタートしたことで、プロを目指そうという選手も出てきました。九州には女子のプロサッカークラブはまだありませんが、熊本県出身のプロ選手を集めたフォーラムを開催するなど、女子サッカーを少しでも身近に感じてもらえるように活動しています。女子サッカー発展のためにも、今後もさまざまな取り組みを行っていきます。

できる限りプレーする機会をつくりたい

○オンライン取材日：2022年3月23日

神奈川県合同チーム
林 透 先生（横須賀市立衣笠中学校）

第4回中学校女子サッカー部フェスティバルには、神奈川県合同チームのほか、牧之原市立榛原中学校と埼玉県合同チームが参加した

フェスティバルでの経験が互いの励みになった

昨年10月、千葉県の高円宮記念JFA夢フィールドで開催された「第4回中学校女子サッカー部フェスティバル」に県合同の「神奈川県チーム」として参加しました。ピッチに立った女子選手たちは素晴らしい環境でボールを蹴ることができ、とても喜んでいました。同じ境遇ですので、分かり合えることも多かったのでしょう。コミュニケーションを取っているときの目は、きらきらと輝いていました。いつもとは異なるコミュニティーだからこそ話せることもあると思います。女子サッカーの輪が神奈川だけでなく、関東に広がったと感じましたし、日常の部活動で男子と一緒にプレーしている選手にとっては、今回の経験が励みになったようです。

フェスティバルは県合同チームとして参加しましたが、横須賀ブロックでは2014年からブロック内の女子選手を集めて中学校合同女子チームをつくり、活動しています。年に20回程度、練習や試合をしています。基本的に平日は部活動で男子と一緒にボールを蹴り、週末に複数の中学校から女子が集まります。土日限定のクラブチームのようなイメージです。11人がそろわないときは8人制で試合をすることもあります。現在は三浦学苑高校のグラウンドを使用させてもらい、高校生たちも一緒に練習しています。地域で中高のつながりができてきたのは素晴らしいことです。

中体連のチームに所属する女子選手のレベルはさまざまです。小学生の頃からサッカーに慣れ親しんでいる選手もいれば、中学校から始めた選手もいます。全員一緒にトレーニングするので、個々に応じて声かけをしています。女子だけの環境で少しでも自信をつけてもらい、男子と共に練習するときにも意欲的に取り組んでくれればうれしいですね。これまではクラブチームばかりでしたが、中体連から女子の神奈川県トレセンに選ばれる選手も出てきました。

サッカーを続けられると周知するようにしている

横須賀ブロックの中学校には、サッカー部に所属する女子選手がいるチームが数校あります。私が勤める衣笠中学校にも女子選手が3人います。ただ、男子と一緒に練習していると、どうしても差が出てきます。女子には通用しても、男子を相手にするとうまくいかないこともあります。なるべくポジティブになれるように、例えばドリブルを仕掛けて相手を抜けなかったときは「今の判断は間違っていないよ」と声を掛けるようにしています。一方で男子の中でプレーすることで、女子にはないスピード感、当たりの強さに鍛えられて成長する選手もいます。女子を特別扱いはしませんが、彼女たちが孤立しないように意識しています。

横須賀では女子サッカーの環境整備に力を入れているのですが、まだ周知されていない現状もあります。小学校から中学校に進学するとき、競技から離れる子どもが一定数います。その理由の一つとして、中学校でもサッカーが続けられることを知らないといったケースが多く、小学校のチームでは「この先も継続して活動できるんだよ」とアナウンスするようにしています。女子の合同チームもありますし、中学校のサッカー部で男子に交じって練習や試合ができ、そこで活躍している選手もいます。できる限りプレーする機会をつくりたいと考えています。

部活動の現場で感じる課題は、女性の指導者があまりいないことです。やはり、女性ならではのアプローチがありますし、男性指導者では分からないこともあります。仮に女子選手が体調不良のときなどは、女性指導者がいてくれると私たちも安心します。幸い、横須賀市内の中学校サッカー部には、女性の顧問で、一生懸命合同チームに携わっていただいている方が一人います。選手たちの信頼も大きいです。合同チームで活動するときには、その顧問に来てもらっています。また、横須賀の合同チームが一緒に練習することもある三浦学苑高には、かつてノジマステラ神奈川相模原に在籍していた森田有加里監督がいるので、私たち男性指導者も勉強になっています。学校の部活動で指導するのは教員ですので、必ずしもサッカー経験者がいるわけではありません。今後は柔軟に外部コーチを活用していくのも一つの方法かもしれません。

特集 女子U-15年代の環境整備

山口県サッカー協会の取り組み

女子選手が当たり前にサッカーができる環境づくり

山口県サッカー協会（FA）は、技術委員会が中心となって「中体連女子育成スクール」を創設し、中学校サッカー部で男子選手と共に活動している女子選手を対象とした練習会を実施している。また、女子サッカーの環境改善に加えて、女性指導者の養成にも力を入れている。これらの取り組みについて、山口県FAの東原秀一技術委員長に話を聞いた。

○オンライン取材日：2022年3月22日

女子選手は女性指導者が育てるべき

――山口県FAの技術委員会として、女子の活動に注力するようになったきっかけを教えてください。

東原　2011年から技術委員長を務めてきましたが、女子サッカーや女子委員会の活動に目を向け始めたのは数年前からです。一昨年に日本サッカー協会（JFA）と山口県FAの女子委員会でオンラインミーティングをする機会があり、そこに私も参加しました。山口県の女子サッカーの現状などの話をする中で、女子全体へのアプローチが足りていない、技術委員会としての認識が甘いことを強く実感しました。そして、「女子サッカーもしっかりと確立させなければいけない」と動き出したのが始まりです。

山口県FA 東原秀一技術委員長

――具体的に、どのような部分に課題があると認識していましたか。

東原　まず、絶対的に女性指導者の数が不足していることです。私自身、女子選手は女性指導者が見る方がよいと考えていますが、女子サッカーが男子から発展したものであることは否めず、男性指導者が引っ張る素地が組織的にもできてしまっている。いかに女性指導者を育て、彼女たちが主体となって女子選手を育てられるか。そして、そのシステムづくりを女子委員会に全て委ねるのではなく、共に取り組むべきだと思いました。

――どのように連携していったのでしょうか。

東原　大きなきっかけとなったのは、山口県FAの前技術委員長であり、現在は山口県FAコーチをされている小野明さんがナショナルトレセンコーチ（現、JFAコーチ）の中国地域担当として女子に関わるようになったことです。小野さんを通じて、それまで以上に女子の情報が入ってくるようになり、技術委員会と女子委員会のつながりも強固になっていきました。

加えて、女性指導者の養成事業でも変化がありました。昨年、A級ジェネラルの女性コースを受講された方が2人いるのですが、そのうちの1人は平川由美さんで、現在は中国地域のJFAコーチ女子担当として活躍されています。山口県の女性指導者を先導する立場の人が出てきたのは良い兆候だと感じています。

――女子の取り組みを進める上で良い流れができていると。

東原　そうですね。A級ジェネラルの前期と後期の間に「間の学習」というのがあるのですが、彼女たちの指導実践のトレーニングをわれわれ技術委員会スタッフが行いました。それまで関係性が希薄だった男性指導者と女性指導者がつながる良いきっかけになったと思います。彼女たちのような女性指導者がたくさん生まれることで、最終的には女性指導者が女子委員会を引っ張っていく形になってほしい。委員会自体、まだ男性が多いので、女性活躍を含めてそうした組織になっていかなければならないと思っています。

――女子選手のプレー環境という部分ではいかがですか。

東原　山口県FAには以前、U-12女子委員会が置かれていて、女子選手に対して先進的な活動をしていました。それが4種委員会に吸収されたこともあり、女子選手の登録者数が減少したり、なかなか上のU-15、U-18年代につながらないという問題を抱えています。男女の身体的な差が出てくる時期に男子と一緒にサッカーをしなければならない女子選手がいる、というのは大きな課題だと言えます。

――女子選手の受け皿不足は全国的にも課題になっています。

東原　レノファ山口FCレディースのアカデミーができましたし、徳山大学（周南公立大学）には女子サッカー部があります。高川学園中学校・高校にも共に女子サッカー部が創設されました。各チームが山口県の女子サッカー界をけん引していますが、受け皿としてはまだ足りないですね。

サッカーが好きな気持ちを この活動でつないでいきたい

中体連の男子サッカー部でプレーする女子選手は100人以上に上る。プレーできる環境がなく、苦労している女子選手も多い

――「中体連女子育成スクール」を立ち上げた経緯を教えてください。

東原　私は中学校の教員でもあるので、サッカー部で男子に交じってプレーする女子選手を実際に見てきました。学年が上がってくると、体格差などが顕著になってくると、試合に出る機会がない。高校に上がってもプレーできる場が少なく、サッカーは好きだけど諦めざるを得ない。そういう子たちをたくさん見てきて、どうにかしてあげたいとずっと思っていました。そこで、山口県中学校体育連盟（中体連）のサッカー専門部や3種委員会に協力いただき、各学校に声を掛けてその実数を調査したところ、県内で100人近い女子選手がそういう環境にあることが分かったのです。

――大きな数字ですね。

東原　本来は多くの選択肢があってその中から選べることが理想ですが、女子においては男子サッカー部を選ぶしかないといった実情があります。何とか彼女たちに、女子同士でプレーできる環境、サッカーを思い切り楽しめる環境をつくってあげたい、サッカーに対する思いをつないであげたい。それを一つの目的として、定期的に女子選手を集めて行うスクールを立ち上げました。

――昨年7月に第1回、11月に第2回を開催しました。実際に活動してみていかがでしたか。

東原　当初は月1回の開催を計画していましたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響で中止などを余儀なくされました。第1回は約40人が集まり、2回目も20人ほどで活動しました。その約半数は高校の女子サッカー部の選手でしたが、U-15からU-18へのつながりという点で、中高生が一緒にプレーすることで生まれるメリットもあるだろうということで参加してもらいました。

――選手もさまざまな刺激を受けたのでは？

東原　女子選手同士による活動を通じて、普段できない経験ができたと思います。男子の中でプレーしていると遠慮することがあったり、フィジカルや技術面で通用しないこともあるでしょう。でも女子同士であれば通用する部分、逆に女子が相手でも通用しない部分があることが分かる。選手からも「自分の立ち位置が分かった」という声が上がっていました。

これまで3回開催した中体連女子育成スクール。「個人で取り組めるトレーニングを知ることができた」など選手からポジティブな感想が多く聞かれる

――チームに戻ってからも生かせる経験を得られたわけですね。

東原　サッカー選手としての成長はもちろん、「一人の人間としての成長」もこのスクールの目的なので、そうした経験をさせてあげられたのではないかと思っています。

中体連のスクールとしていますが、クラブチームに所属する女子選手も参加できます。高校生にも参加してもらったように、まずは女子選手の「サッカーが好きだ」という気持ちをつないでいきたいという思いが根底にあります。全てウェルカムで、多くの女子選手がプレーできる場を創出できたらと思っています。

――女性指導者のための活動という意味合いもあるのでしょうか。

東原　このスクールも女性指導者による運営を目指しています。女子選手を育てる一方で、女性指導者を養成する場にもしたい。その観点から、大勢の女性指導者に参加してもらっています。

最初は慣れないこともあるので、第1回は小野FAコーチにプランニングをお願いし、4人の女性指導者にサポートとして入ってもらいました。そして、第2回は平川さん主導とし、小野コーチにはサポートに回っていただきました。今年からは平川さんをチーフに据え、多くの女性指導者が加われるような形を考えています。

――将来につなげていくという意味でも重要な取り組みですね。

東原　この活動からなでしこジャパン（日本女子代表）に選ばれる選手が出てくれたらうれしいですね。けれど、目先のことだけでなく、10年後、20年後に、スクールに参加した女子がサッカーを大好きなまま大人になり、また子どもたちにサッカーを教えるような良いスパイラルが生まれることが一番です。

この活動の意義は、リレーションシップをつくることでもあります。参加した選手同士がつながり、選手と指導者、そして指導者同士もつながる。技術委員会と女子委員会の連携、男性指導者と女性指導者の連携もそうです。もちろん活動の中心は選手ですが、選手を良くしようという思いが、いろいろな物事や人を結ぶことになっていくのだと思います。女子トレセンの充実や女子委員会の活性化にも波及していますので、このスクールを開催して、良いことが何倍にもなって返ってきている、そんな印象があります。

――今後どのように発展させていきたいとお考えですか。

東原　山口県FAのトレセンデーに定めている第4日曜日に、毎月活動できるようにしていきたいと思います。近隣県のスクールと合同での実施や、交流試合の開催も検討しています。

男子も女子も、当たり前にサッカーができる環境をつくること、それが大きな目標です。その環境をつくるために人材を育成していく。女子サッカーは課題が多くありますが、逆に言えば伸びしろがあるということ。現状に満足せず、常に疑問符を持ち、これでいいのかと考えながら取り組みを広げていく。そして多くの人を巻き込んで、山口県全体のサッカーを発展させていけたらと思います。

中体連女子育成スクールは女性指導者の活躍の場にもなっている。「女子サッカーのさまざまな課題の解決に向けても女性指導者が鍵になる」と東原技術委員長は話す

「好きを諦めない。中学女子サッカーの部活動を考える」

パネルディスカッションを実施

日本サッカー協会（JFA）は３月30日、JFA女子サッカーデーの一環として、中学生年代の女子選手の部活動について考えるパネルディスカッションをオンラインで実施した。その内容を要約してお届けする。

登壇者

- ■影山雅永（JFA技術委員会ユース育成ダイレクター）※進行役
- ■播戸竜二（JFA SDGs推進メンバー／WEリーグ理事）
- ■熊谷健太郎（神奈川県中学校体育連盟サッカー専門部副部長）
- ■山本悠祐（石川県中学校体育連盟サッカー競技専門部委員長）

多くの女子選手が中学校部活動に所属

影山　（1975年に）国際連合が定めた3月8日の国際女性デーに合わせ、ＪＦＡは「世界でいちばんフェアな国になろう」をスローガンに掲げて、２０１９年からこの日を「ＪＦＡ女子サッカーデー」としました。性差、年齢、人種、障がいの有無などにかかわらず誰もがサッカーを「する」「見る」「参加する」機会を享受できる環境づくりに取り組んでおり、その一環として今回、皆さんと中学生年代の女子選手の環境についてお話ししたいと思います。

日本における年齢別のＪＦＡ登録選手数を見ると、小学生年代では多くの女子が登録していますが、中学生年代の13歳から15歳はその数が減少しています。プレー環境の少なさがその原因だと考えていましたが、実はＪＦＡ登録者が少ないだけで、日本中学校体育連盟（中体連）に加盟している選手は一定数いるということが分かりました。

山本　石川県では必ずＪＦＡに登録することになっていますが、他県では中体連には加盟しているがＪＦＡには登録していない選手がいるようです。

熊谷　ＪＦＡ登録は、競技志向が高い選手やチームが行うもの、という先入観があるのかもしれません。神奈川県には部活動で一生懸命やっている選手は一定数いますし、女子選手たちを受け入れようと努力してくださっている先生が大勢いらっしゃるので、受け皿が少ないとは思っていません。その（受け皿があるという）事実が保護者の方や選手に伝わっていないことが課題だと思います。

影山　もっと多くの方に女子の活動を知っていただき、ＪＦＡに登録するメリットについて発信していかなければならないですね。

熊谷さん、山本さんにそれぞれの取り組みを紹介していただきたいと思います。

熊谷　私は普段、神奈川県の横須賀ブロックで子どもたちに携わっており、10年以上前から学校の枠を超えた学年ごとの選抜チームという形で年に15回ほど活動しています。サッカー部の先生方を学年ごとに割り振って指導していただいており、中にはサッカーが専門ではない方、指導者ライセンスを取得していない方もいらっしゃいますが、普及や育成の場であると同時に、教員の情報交換や指導者研修の場としても機能させています。その活動を通じて各学校で1、２人の女子が男子に交じって活動していることを知り、声を掛けてみたところ20人ほどが集まったので、8年前から

女子を集めた指導も行っています。男子は選抜チームですが、女子は希望があれば誰でも参加できます。今では横浜ブロックをはじめ、他の地区でも同じような選抜活動や普及活動が行われています。

播戸　部活で男子の中に女子が交じってサッカーをしていることを知らなかったので驚きました。男女別々に活動しているイメージがありましたし、僕自身、男女一緒にプレーするという経験を今までしてこなかったので、どういう形で活動しているのかすごく気になります。

熊谷　特別な感じではなく、男子も女子を自然な形で受け入れ、同じ仲間として活動しています。今は少子化の影響で11人のチームを組めない部活も増えていますので、女子であっても部の存在を守る、もしくは戦力として活躍してくれる大事な仲間という感覚です。

影山　神奈川県全体では何人ぐらい女子選手がいるのでしょうか。

熊谷　部活動だけに所属している女子選手が１７０人近くいるのは確認しています。昨日も横浜ブロックと横須賀ブロックの女子の交流戦を実施しました。

山本　交流戦などで他のブロックと関わりを持つと、高校に進学した時に横のつながりができているのでいいですね。

男女が入り交じってプレーすることは選手にとっては"普通"

影山　チームとしてトレーニングしたことを発表する場があるのは選手にとって励みになりますよね。石川県では合同練習会を行っているそうですね。

山本　石川県はサッカー部のある中学校が45校しかなく、そこに所属している女子が15人います。ハードルを下げて女子選手が入部しやすくしようと、２０２１年度に女子選手の合同練習会を立ち上げました。縦と横のつながりを深めたいので高校女子サッカー部にも来てもらって一緒に練習しています。冬は降雪で屋外での活動ができなくなるので、幅広い年齢の選手が所属している女子フットサルチームとも合同練習をしています。今後はどこかのフェスティバルなどに参加して、活動の成果を発揮できる場をつくりたいと考えています。

影山　中学生になると、男子に交じって活動することに対して二の足を踏んでしまうのではないかという懸念がありますが、実際はいかがですか。

山本　小学生の時から一緒でしたので、選手たちは当たり前の感覚を持っているようです。練習も普通にしますし、練習後は盛んに会話もしています。

影山　山本さんから働き掛けはしているのでしょうか。

山本　新年度になると新入生向けの部活動紹介があるので、そこで必ず「男子サッカー部ではないので、女子も大歓迎です」と呼び掛けています。男女関係なく、もちろん経験者も初心者も関係なく、誰でも入れる部活という形で活動しています。

女子選手を増やすため情報発信が重要

影山　お二人の話を聞いていて、女子選手が男子に交じって活動することへのハードルはそれほど高くはないと感じました。今後の展望として考えていることはありますか。

山本　石川県ＦＡとは、いかに情報を発信していくかを話し合っています。サッカーをするにはどうすればいいか、中学校のサッカー部に女子は入部できるのか、という情報をこちらから発信していかないと、受け取る側は何も知らない状態です。多くの情報をどう発信していくか、その方法を検討しているところです。それから、女子選手の人数を増やして近隣の県との対抗戦や交流戦をしたいという思いもあります。

熊谷　"チーム神奈川"として、一堂に会したトレーニングセッションや活動ができたらいいなと思っています。そこから能力の高い選手を県のトレセンに入れるなど、強化にもつなげていきたい。普及の面でも、小学生や高校生との合同トレーニングや指導者同士の交流を図りたいと考えています。

播戸　お二人からＪＦＡに対する要望はありますか。

熊谷　昨年10月の「第4回中学校女子サッカー部フェスティバル」は高円宮記念ＪＦＡ夢フィールドで開催され、きれいな芝生でプレーができて子どもたちはもちろん、指導者にとっても素晴らしい経験となりました。ＪＦＡから抗原キットを事前に送っていただいたり、バスを出していただいたりしたのがとてもありがたかったです。次回は播戸さんや影山さんにも参加していただきたいですね。

播戸　盛り上げコーチとしてぜひ参加したいですね。影山さん、一緒に行きましょう（笑）。山本さんは何かありますか。

山本　石川県の場合、都心まで行くのは物理的に難しいので、各地域でフェスティバルが開催されるようになってほしいです。そうすればより多くの県で女子活動が普及していくと思います。

播戸　熊谷さん、山本さんのお話を聞き、女子サッカーの人口がどんどん増えていくと期待が持てました。そのための活動を自分もしていきたいですし、増えることでサッカーファミリー全体が盛り上がってほしいですね。

影山　サッカーをしたいけれどどうすればいいのか分からない女子選手、サッカー部には男子しか入れないのではないかと最初から諦めている女子選手が大勢いらっしゃると思います。部活でサッカーをする女子選手を増やしていくためにも、ＪＦＡとして積極的にサポートしていきたいと思います。

左から進行役を務めた影山ダイレクター、パネリストの播戸氏、熊谷氏、山本氏

JAPAN NATIONAL TEAM

Japan National Team would like to thank its partners for their support.

SAMURAI BLUE

©JFA／アジア2次予選兼アジアカップ中国2023予選 対タジキスタン代表戦 先発メンバー（2021.6.7）

OFFICIAL PARTNER

KIRIN

OFFICIAL SUPPLIER

adidas

SUPPORTING COMPANIES

朝日新聞

SAISON CARD

大東建託

FamilyMart

JAPAN AIRLINES

au

MIZUHO

MS&AD

TOYO TIRES

日本サッカー協会

「JFA小学校体育サポート研修会」実施校の募集開始 JFAインストラクターを派遣、ボール10球・テキストを贈呈

JFAは、登録制度改革の一環として、「小学校体育サポート研修会」の取り組みを強化しており、2022年から小学校にJFAインストラクター（原則として現役小学校教員）を講師として派遣し、校内や地区の体育授業に関わる研修会・研究会として活用できる「JFA小学校体育サポート研修会」を開催する。

「小学校体育サポート研修会」は体育授業を行う教員を支援することを目的として2014年から実施しているもので、「新学習指導要領」に沿った内容。特に体育や運動の苦手な先生に推奨している研修会で、子どもたちが「体育の授業でやったスポーツが楽しかった」と実感でき、また先生がサッカーの楽しさを知り、「これならできる」と感じられる内容となっている。

外部コーチによるサッカーの授業ではなく、教育の専門職である教員自身によるサッカー（ボール運動およびゴール型）の授業実践にJFAは大きな期待を持っている。

3月9日からは、JFA公式ウェブサイトを通じて研修会を希望する小学校を募集。実施した小学校には、体育などで使用できるボール10球（モルテン社製ソフトスポンジボール4号）とテキスト2冊を贈呈する。

JFAは、スポーツの楽しさに出合い、生涯にわたってスポーツやサッカーに親しみ続ける人を増やしていきたいと考えており、学校体育はスポーツと出合う大事な場であると捉えている。今後もスポーツ、サッカーと触れ合う機会を創出しながら、未就学児・小学生年代を対象にした施策をさらに展開していく。同時に、子どもたちが年齢や成長に合った指導が受けられるよう指導者の養成を推し進めるとともに、キッズ巡回指導やキッズフェスティバルの活性化、スモールサイドゲームの推進、校庭の芝生化、JFAセーフガーディングポリシーの周知徹底を図るなど、子どもたちが安全に、安心して、サッカー /フットサルに打ち込める環境を広げていく。

【実施概要】

事業名：JFA小学校体育サポート研修会「サッカー（ボール運動・ゴール型）の授業づくり」

主催：公益財団法人日本サッカー協会

対象期間：2022年4月1日（金）～ 2023年3月31日（金）※2023年度以降も継続予定

募集期間：2022年3月9日（水）～ 実施希望日1カ月前まで

実施条件：参加者　小学校教員12人以上30人未満（人数は応相談）
会場　体育館と教室など講義ができる場所
情報公開　研修会当日の様子やコメントをJFA公式ウェブサイトに掲載

派遣講師：JFA小学校体育サポートインストラクター（原則として現役小学校教員）
※講師にかかる経費は全てJFA負担

贈呈品：ボール10球　ソフトスポンジボール4号（モルテン社製）
テキスト2冊『新・サッカー指導の教科書』（発行：東洋館出版）

申込方法：申請フォームに以下の内容を入力の上、申し込み。
受信後に担当者よりご連絡。
申請フォーム
https://forms.gle/VnNDRquZsyBpMKHP9
①学校名 ② 担当者氏名・電話番号・メールアドレス
③実施希望日時（複数回答可）
④質問・相談（質問・相談のみの申請も可）

【JFA小学校体育サポート研修会の流れ】

実技（60分）：小学校体育の全学年に対応した内容。45分の授業でウォーミングアップから活動①、活動②、ゲームと4段階の流れをつくることをベースに、ノウハウを紹介。

講義（30分）：実際の授業を計画・研究する上でのポイントや単元の狙い、領域目標、児童の発育発達に即したプログラム全体の考え方を紹介。

テキスト：『小学校体育 新・サッカー指導の教科書』
（発行：東洋館出版）
体育授業で行う「ボールけりゲーム」「ミニサッカー」「サッカー」指導をイラスト・図解を交え4段階で分かりやすく解説。単元は全部で9つ掲載。この1冊で全学年のサッカー授業に対応することができる。
※参考 https://www.toyokan.co.jp/products/3651

●研修会に参加した教員のコメント
- 運動は苦手だが、新聞ボールを使うことでとてもやりやすくなった。運動が苦手な子でも、得意な子と一緒に楽しめる工夫がなされていた。
- 褒め言葉やポジティブな言葉が多く、研修会の雰囲気がとても明るかった。
- 早く子どもたちと体育がしたい、そう思えるような研修だった。

【JFAの学校体育への取り組み～背景】

2014年、「小学校体育サポートプロジェクト」を発足。

2014年6月、『サッカー指導の教科書』を発刊（2019年に改訂版『新・サッカー指導の教科書』を発行）。「サッカー授業の進め方がわからない」という教員の声や意見を受け、年代ごとの授業の展開を具体的に提示。体育の授業を苦手とする先生へのサポートとして、「小学校体育サポート研修会」をスタート。文京区のJFAハウスなどで希望者を対象に開催してきた。

上記を中学校に広げるべく、2021年12月に「中学校体育サポート研修会」をJFA夢フィールド（千葉）で初開催。2022年1月、『中学校体育 サッカー指導の教科書』を刊行。

2022年、JFAの登録制度改革に連動して「サッカー、スポーツへの入口を広げる」ことを目的に、小学校体育への取り組みも強化。JFAインストラクターを小学校に派遣して研修会を開催する。

※体育の授業は学習指導要領にその目標や内容が定められている。学校体育では1958年からサッカーは必須だったが、2008年に学習指導要領が全面的に改訂された。
ボール運動はゴール型、ネット型、ベースボール型に分類され、ゴール型はサッカー、ハンドボール、タグラグビーなど複数種目から選択する形となっている。

ロールモデルコーチとして阿部勇樹氏と契約

JFAは3月16日、元日本代表の阿部勇樹氏のロールモデルコーチ就任を発表した。内田篤人氏、中村憲剛氏に続いて3人目。

阿部氏にはアンダーカテゴリーの日本代表チームをはじめ、JFAが取り組む若年層の強化および普及に関わる活動に参加し、その経験や知見を後進の育成に生かしてもらう。

【プロフィール】

名前　：阿部 勇樹（あべ ゆうき／ ABE Yuki）
生年月日：1981年9月6日
出身地　：千葉県
選手歴　：2000～2006年 ジェフユナイテッド市原／ジェフユナイテッド千葉
2007～2010年 浦和レッズ
2010～2012年 レスターシティ FC
2012～2021年 浦和レッズ
※日本代表53試合出場3ゴール（2010FIFAワールドカップ南アフリカ出場、AFCアジアカップ2007出場）
指導歴　：2022年～ 浦和レッズユースコーチ
資格　：JFA B級コーチライセンス

●阿部勇樹氏コメント

この度、ロールモデルコーチをさせていただくことになりました。自分が経験してきたことを伝えていくことはもちろんですが、サッカーの楽しさ、面白さ、難しさも伝えていけたらと思っています。選手と共に楽しんでいきたいと思います。

JFA女子サッカーデー2022の取り組み

JFAは、3月8日に「JFA女子サッカーデー」を迎えるにあたり、3月を女子サッカーの普及活動強化月間と位置づけ、「女子サッカーの普及」と「女性活躍推進」をテーマにさまざまな取り組みを実施した。

JFAは2019年度第5回理事会で、国際連合が制定している「国際女性デー」、そしてアジアサッカー連盟（AFC）の「AFC女子サッカーデー」である3月8日を「JFA女子サッカーデー」に制定。2020年から47都道府県サッカー協会と共にこの活動をスタートさせた。

JFA女子サッカーデーのスローガンは「世界でいちばんフェアな国になろう」。このスローガンには、誰もがフェアに輝ける社会、夢に向かってチャレンジできる社会を、スポーツ、サッカーの力で実現していこうという決意が込められている。女子サッカーを文化にするためにJFAは「なでしこvision」を掲げ、その下に三つの目標を定めた。一つ目の目標は「サッカーを女性の身近なスポーツにする」こと。それらの目標を達成した先に「女性が輝く社会の実現」がある。

女子および女性がサッカーを楽しむことは特別なことではなく、女性が自分らしさを存分に発揮して活躍することも決して特別なことではない。2022年度はこれまで以上に男女の性差を超えて女性の活躍を願い、理解し、支え、そして歩みを共にする、そんなフェアな社会の実現に向けて広くサッカーファミリーに賛同を呼びかけた。

●田嶋幸三JFA会長コメント

昨年の東京2020オリンピック・パラリンピック、そして先日閉幕したばかりの北京2022オリンピックでは、世界各国のアスリートらが躍動し、感動と興奮を届けてくれました。限界への挑戦、前人未到の記録に挑む姿、勝者を称え、勝利や敗北を分かち合う光景にスポーツが持つ寛容性と高潔性を再発見した思いでした。彼らのチャレンジに新たな希望を見出した人たちも少なくないでしょう。

JFAは3月8日の国際女性デーに合わせ、その日を「JFA女子サッカーデー」としています。老若男女を問わず誰もがサッカーに親しむ中で喜びや活力を得、目標や夢を持って生きられる社会を広げたいと考えています。スポーツは年齢や性差、障がいの有無を超えて、その素晴らしさを享受できるものです。私たちは女子サッカーを通じて、一人一人が自立し、互いに認め合う社会の実現を目指します。

●佐々木則夫JFA女子委員長コメント

JFAが3月8日を「JFA女子サッカーデー」に定めてから今年で3年目となります。この2年間での取り組みには、各地域・都道府県サッカー協会の協力の下に実施した普及イベントや、女性リーダーシップシンポジウムの開催などがあり、地道ながらも着実に「誰もがサッカーを楽しめて、誰もが輝ける社会の実現」に向けた活動を行ってきました。昨年は女子サッカー界待望のプロリーグ「WEリーグ」が開幕しました。このWEリーグもまた「夢や生き方の多様性にあふれ、一人ひとりが輝く社会の実現・発展に貢献する」ことを理念としており、日本の女子サッカー／スポーツにとって大きな一歩となりました。一方でこの2年間は新型コロナウイルスに立ち向かう時間でもあり、今なお続いています。それでも一度灯したあらゆる人々の情熱の火を絶やさぬよう、今年も私たちは創意工夫のもとにさまざまな活動に取り組んでまいります。

なでしこジャパンはもとより、各女子カテゴリーの大会で躍動する選手たちの姿は誰にでも輝く場所があることを表してくれています。そして、ボールを追いかける彼女たちを輝かせているのは、彼女たちの家族や友人の理解や支えであることを忘れてはいけません。老若男女を問わず全ての人がフェアに充実した人生を送れるよう、女子サッカー界がその道を体現していきたいと思います。

■JFA女子サッカーデー2022公式ウェブサイト
http://www.jfa.jp/women/womensfootballday2022/

一般財団法人日本ビーチサッカー連盟と連携協力に関する協定を締結

JFAと日本ビーチサッカー連盟（JBSF）は「高円宮記念JFA夢フィールドに係る連携協力に関する協定」を締結した（3月17日発表）。

2021年6月、JBSFから砂の寄付を受け、高円宮記念JFA夢フィールドにビーチサッカーピッチ（ピッチ・カリオカ）が完成した。これを契機に、JFAとJBSFはピッチ・カリオカを活用し、代表活動のみならずビーチサッカーの育成、普及のより一層の推進を図るため、両者間で本協定を取り交わした。JFAによる代表活動やJBSFによる競技会などのほか、関東ビーチサッカー連盟による競技会、普及活動を高円宮記念JFA夢フィールドで実施していく。

【概要】
目的　：相互に連携協力することでJFAの理念実現を目指し、ビーチサッカーのチーム同士の研さん、ならびにビーチサッカー競技の普及と発展を図る。
協定内容：ビーチサッカーの選手強化、指導者養成、選手育成、競技の普及。その他相互に連携し、協力することが必要と認められることに取り組む。
期間　：2022年12月末日までとし、以降解約の申し入れのない限り、1年間継続する

●田嶋幸三JFA会長コメント
JFAによる代表活動や普及・育成活動の他に、日本ビーチサッカー連盟また関東ビーチサッカー連盟による大会や普及活動などでぜひ、ピッチ・カリオカを活動の拠点としていただけること、とても楽しみにしております。
ビーチサッカー日本代表は世界大会で2位、アジア大会での優勝が3度と、世界的レベルで輝かしい成績を収めています。ビーチサッカー連盟とより深い連携を持つことにより、世界チャンピオンになることができるよう、力を合わせてまいります。

●長與博典JBSF会長コメント
このような素晴らしい機会をいただき、感謝を申し上げたいと思います。 ありがとうございます。今回の協定締結により、より一層ビーチサッカーの強化、普及、振興活動にまい進してまいりたいと思います。

田嶋幸三JFA会長（右）と長與博典JBSF会長

U-21日本代表

ドバイカップU-23への出場が決定

2024年のパリオリンピックを目指すU-21日本代表が、アラブ首長国連邦（UAE）のドバイで開催されるドバイカップU-23に出場することが決定した（3月3日発表）。

【大会概要】
名称　：ドバイカップU-23（DUBAI CUP U-23）
期間　：2022年3月23日～29日
マッチスケジュール（日本戦のみ）：
3月23日　第1戦 U-21日本代表 vs U-23クロアチア代表
3月26日　第2戦 U-23カタール代表 vs U-21日本代表
3月29日　順位決定戦
出場チーム：UAE、サウジアラビア、ウズベキスタン、カタール、ベトナム、イラク、クロアチア、中国、タイ、日本

●大岩剛U-21日本代表監督コメント
世界中でコロナ禍が続く状況下ではありますが、今回ドバイカップU-23に出場できることになりました。これも関係各所のご理解とご協力のおかげと心から感謝しています。このカテゴリーに与えられた活動回数や日数は限られており、毎回の活動が非常に重要なものとなります。この2年間かなわなかった海外遠征を行えることをうれしく思うと同時に、全員を無事に帰国させる責任も強く感じています。監督という立場で国際大会に出場する以上、結果にこだわります。
全ての試合に勝つために行動し、その行動を通じて参加する選手たちが成長の速度を高めること、そしてチームとしても経験値を上積みすることがこの活動の大きな目的になります。与えられたこの貴重な機会を無駄にしないよう、一つでも高い順位で終えて、全員が無事に帰国できるようチームをマネジメントしたいと思います。

Jリーグ（日本プロサッカーリーグ）

Jリーグ百年構想クラブ 審査結果

Jリーグは2月28日に開催した理事会で、コバルトーレ女川、東京23FC、高知ユナイテッドSC、沖縄SVを「Jリーグ百年構想クラブ」として認定した。
おこしやす京都ACについては普及活動に関して条件が未充足であると判断され、認定には至らず、併せて財務状況とガバナンス体制にも課題が挙げられた。クラブが申請内容を大きく変更して再申請する意向を示し、同日付で新たな申請を受理したため、審査を継続し、今後あらためて書類審査、ヒアリング審査などを経て5月末までの理事会で審査結果を決議する予定。認定されたクラブ概要は右記の通り。

【コバルトーレ女川】
法人名　：株式会社コバルトーレ
代表取締役社長：近江 弘一
所在地　：宮城県牡鹿郡女川町女川2－7－4
所属　：東北社会人サッカーリーグ1部
ホームタウン　：女川町

【東京23FC】
法人名　：株式会社TOKYO 23
代表取締役社長：西村 剛敏

所在地　：東京都新宿区上落合2－22－23－203
所属　：関東サッカーリーグ1部
ホームタウン　：江戸川区

【高知ユナイテッドSC】
法人名　：株式会社高知ユナイテッドスポーツクラブ
代表取締役社長　：武政 重和
所在地　：高知県高知市大谷公園町21-6
所属　：日本フットボールリーグ（JFL）
ホームタウン　：高知市を中心とする全県

【沖縄SV】
法人名　：沖縄SV株式会社
代表取締役CEO　：高原 直泰
所在地　：沖縄県豊見城市豊埼3-59 トヨプラ311
所属　：九州サッカーリーグ
ホームタウン　：豊見城市、うるま市、沖縄市を中心とする全県

鈴鹿ポイントゲッターズのJリーグ百年構想クラブ資格

Jリーグは2月28日に開催した理事会で、鈴鹿ポイントゲッターズのJリーグ百年構想クラブの資格について下記の通り決定した。

【鈴鹿ポイントゲッターズのJリーグ百年構想クラブ資格について】
Jリーグ百年構想クラブ資格の解除条件付き資格停止

<解除条件付き資格停止に至る理由>
JFL規律委員会による調査の結果、鈴鹿ポイントゲッターズにおいて懲罰の対象となりうる行為が発覚した。また、適切ではないと考えられる金銭のやり取りが存在していたことなど、クラブのガバナンス体制に不備があると判断しうる複数の事情が認められた。これらについて、Jリーグ百年構想クラブ規程第7条第1項第1号に定める「Jリーグの目的に反する行為」と判断すべきとの結論に至ったため、資格を停止することとした。

一方、クラブがガバナンス体制を改善する意思があり、2022年6月のJ3ライセンス申請期限までに入会を認め得る状況に改善する可能性があることを前提に、解除条件を付すこととした。

<解除条件>
下記の全ての事項が実効的に機能し実践されているとJリーグ理事会において判断されること
1. ガバナンス体制の改善
2. ステークホルダーからの支援継続
※鈴鹿ポイントゲッターズが2023シーズンJ3クラブライセンス申請を行うためには、2022年6月に開催する理事会までに資格停止が解除される必要がある

株式会社電通と「Jリーグ マーケティングパートナー」契約に基本合意

Jリーグは、2023年からの4年間、「Jリーグ マーケティングパートナー」として、株式会社電通との契約締結に基本合意した（2月28日発表）。

契約先　：株式会社 電通
契約期間　：2023～2026年
会社概要　：株式会社 電通（代表者：取締役社長執行役員 榑谷典洋）
・資本金：100億円
・創業：1901（明治34）年7月1日
・本社：〒105-7001 東京都港区東新橋1-8-1
・事業内容：広告開発、顧客体験のデザイン、マーケティング基盤および事業全体の変革推進、統合ソリューションの提供

第6代Jリーグチェアマンに野々村芳和が就任

Jリーグは3月15日、2022年度第1回社員総会および臨時理事会を開催し、社員総会にてJリーグ理事に選任された野々村芳和が、その後開催された臨時理事会において第六代チェアマン（理事長）に選任され、同日就任した。新チェアマンを含めて選任された理事、監事、特任理事一覧は下記の通り。

なお、前Jリーグチェアマンの村井満は、3月15日付で同職を退任し、同日付でJリーグ名誉会員に選任された。

理事・監事、特任理事

役職		名前		所属
※	チェアマン（常勤）（旧理事（非常勤））	野々村 芳和	ののむら よしかづ	公益社団法人　日本プロサッカーリーグ
	理事（常勤）	窪田 慎二	くぼた しんじ	公益社団法人　日本プロサッカーリーグ
※	理事（常勤）	髙田 春奈	たかた はるな	公益社団法人　日本プロサッカーリーグ
※	理事（常勤）	並木 裕太	なみき ゆうた	公益社団法人　日本プロサッカーリーグ
※	理事（常勤）	馬場 浩史	ばば ひろし	公益社団法人　日本プロサッカーリーグ
※	理事（非常勤）	大倉 智	おおくら さとし	株式会社いわきスポーツクラブ 代表取締役社長
※	理事（非常勤）	小泉 文明	こいずみ ふみあき	株式会社鹿島アントラーズ・エフ・シー 代表取締役社長、株式会社メルカリ 取締役会長
※	理事（非常勤）	水谷 尚人	みずたに なおひと	株式会社湘南ベルマーレ 代表取締役社長
※	理事（非常勤）	森島 寛晃	もりしま ひろあき	株式会社セレッソ大阪 代表取締役社長
※	理事（非常勤）	杉本 勇次	すぎもと ゆうじ	ベインキャピタル・プライベート・エクイティ・ジャパン LLC 日本代表
	理事（非常勤）	立石 敬之	たていし たかゆき	シント=トロイデン CEO
※	理事（非常勤）	辻井 隆行	つじい たかゆき	ソーシャルビジネス・コンサルタント
	理事（非常勤）	馬場 渉	ばば わたる	パナソニック株式会社 参与

	役職	名前		所属
※	理事（非常勤）	平野 拓也	ひらの たくや	Microsoft Corporation Vice President Global Service Partners
※	理事（非常勤）	宮本 恒靖	みやもと つねやす	プロサッカー指導者
※	監事（常勤）	鈴木 秀和	すずき ひでかず	株式会社Ｊリーグ 取締役専務執行役員
※	監事（非常勤）（旧理事（非常勤））	榎 徹	えのき とおる	株式会社大分フットボールクラブ 代表取締役
※	監事（非常勤）	小林 久美	こばやし くみ	Tokyo Athletes Office 株式会社 代表取締役、株式会社スポカチ 取締役 株式会社コーセー 社外監査役
※	特任理事(非常勤)	内田 篤人	うちだ あつと	公益財団法人日本サッカー協会 ロールモデルコーチ、シャルケ04 チームアンバサダー
※	特任理事(非常勤)	中村 憲剛	なかむら けんご	Frontale Relations Organize 公益財団法人日本サッカー協会 ロールモデルコーチ JFA Growth Strategist
	特任理事(非常勤)	夫馬 賢治	ふま けんじ	株式会社ニューラル 代表取締役CEO

※：新任、役職変更

・任期は2022年3月15日から2024年3月に開催予定の定時社員総会終結の時までの２年間（定款第25条〔役員の任期〕：選任後２年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時社員総会の終結の時まで）

・役員は、就任する年の４月１日現在で、満65歳未満でなければならない

・公益財団法人日本サッカー協会（JFA）推薦枠はJFA側の人事をもって推薦されるものとし、選任者が決定次第あらためて公表する

2021年度（令和3年度）決算

Jリーグは3月15日の社員総会で、2021年度（令和3年度）の公益社団法人日本プロサッカーリーグの決算を承認した。

（単位:百万円）
百万円未満を四捨五入、端数調整なし

科目	2021決算（A）	2020決算（B）	増減（A-B）
Ⅰ 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
（1） 経常収益			
基本財産運用益	0	0	0
受取入会金	45	5	40
受取会費	1,403	1,351	52
協賛金収益	4,882	5,389	▲507
Ｊリーグ主管試合入場料収益	167	128	39
公衆送信権料収益	18,612	19,942	▲1,330
商品化権料収益	787	677	110
その他	2,670	2,325	345
経常収益計	28,566	29,818	▲1,251
（2） 経常費用			
① 事業費	26,367	24,606	1,761
リーグ運営経費	2,890	2,232	658
クラブへの配分金	15,273	14,324	949
その他	8,205	8,051	154
② 管理費	1,794	1,853	▲59
経常費用計	28,161	26,459	1,701
当期経常増減額	406	3,358	▲2,952
2. 経常外増減の部			
（1）経常外収益	0	0	0
（2）経常外費用	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	406	3,358	▲2,952
一般正味財産期首残高	6,224	2,866	3,358
一般正味財産期末残高	6,630	6,224	406
Ⅱ 指定正味財産増減の部			
受取寄付金	5	5	▲1
一般正味財産への振替額	▲1	▲1	0
当期指定正味財産増減額	4	5	▲1
指定正味財産期首残高	34	29	5
指定正味財産期末残高	38	34	4
Ⅲ 正味財産期末残高	6,668	6,258	410

「Project DNA」Jリーグアカデミークオリティースタンダード（JAQS）4クラブが1つ星に認定

Ｊリーグは3月28日に開催した第3回理事会で、Ｊクラブのアカデミー組織が段階的にステップアップするために開設した新しい認定制度「Ｊリーグアカデミークオリティースタンダード（J.LEAGUE Academy Quality Standards／略称：JAQS（ジャックス）」の初の認定を行い、モンテディオ山形、AC長野パルセイロ、FC今治、FC琉球のアカデミー1つ星の付与を決定した。

Jリーグは2019年から「Project DNA」を推進している。これは2030フットボールビジョンの達成に向け、日本独自の育成システムを構築し、優秀な選手やスタッフが持続的に育つワールドクラスのアカデミーを増やすことを目的としたもの。JAQSはこの施策の1つで、現在は4つ星を最上位に、1つ星から4つ星までの認定段階がある。全てのＪクラブが、目指す星を定めて申告している。

4クラブの認定は、評価プロセスを経て23のクオリティースタンダードに紐づく1つ星の基準を全て充足したことによるもの。

【概要】

●1つ星認定クラブ：モンテディオ山形、AC長野パルセイロ、FC今治、FC琉球

●Ｊリーグアカデミークオリティースタンダード

1. 名称　日本名　：Ｊリーグアカデミークオリティースタンダード
　　　　英語名　：J.LEAGUE Academy Quality Standards
　　　　略称　：JAQS（ジャックス）

2. 内容

①Ｊリーグアカデミークオリティースタンダードとは：世界で活躍する、クラブで活躍する選手を育成するために、クラブで必要な事柄、過程は何かを言語化し、物差しとなる23のクオリティースタンダード（1～4つ星まであり）を設け、クラブが自己評価し、クラブ独自の目指す姿を長期スパンでＪリーグがサポートする仕組み。

②スキーム：クラブは自ら目指す星を決め、クオリティースタンダードに基づき自己評価する。星の認定まで（また、認定後も）、Ｊリーグは経験豊富なASM（アカデミーサポートマネジャー）等によりクラブをサポートする。Ｊリーグにて評価チームを結成し、第一段階：評価チーム（Ｊリーグフットボール本部所属のスタッフで構成）にて、クラブを直接ヒアリングし、確認する。第二段階：シニア評価チーム（Ｊリーグ役員、およびフットボール本部スタッフで構成）にて、評価チームの報告内容を確認、決定する。第三段階：理事会にて星が承認される。

③サイクル：3年を1サイクルとし、それぞれのサイクルでクラブは目指す星を決め、取り組む（2021～2023年第1サイクル、2024～2026年第2サイクル、2027～2029年第3サイクル）

④星の認定：第1サイクルにおいて、2021年に1つ星を目指すクラブ、2022年に2つ星を目指すクラブ、2023年に3つ星・4つ星を目指すクラブのヒアリングを実施。クオリティースタンダードを達成したクラブより順次、認定、公表する。

⑤目指す基準・23のクオリティースタンダード：23のクオリティースタンダードがあり、それぞれに1つ星、2つ星、3つ星、4つ星の基準がある。

3. 認定までのフロー
①クラブが目指す星を自ら決定し、セルフアセスメントに取り組む
②評価チームによるインタビュー実施
③評価チームによる中間レポート作成。評価チームおよびシニア評価チームでミーティングを実施し、同レポートを承認
④クラブへ、アクションプラン付き中間レポートを提示し、同レポートに基づきクラブと評価チームとのミーティングを実施
⑤クラブは、アクションプランに基づき未充足の箇所に取り組む
⑥評価チームによる2回目のインタビュー実施
⑦評価チームによる最終レポート作成。評価チームおよびシニア評価チームでミーティングを実施し、同レポート承認
⑧理事会承認

4. 第1サイクルにおける進捗
その他の1つ星を目指すクラブは、中間レポートに基づき引き続きアクションプランに取り組んでいる。1つ星獲得に向けＪリーグはサポートを継続し、アクションが完了したクラブより認定、承認のフローへ移る。2つ星を目指すクラブは、2022年インタビューを実施。3つ星・4つ星を目指すクラブは、現在、自己評価に取り組んでおり、2023年インタビュー実施。

〔目指す基準〕

星	目指す基準、または輩出する選手例
★ 1つ星	・Ｊクラブライセンスを含む1つ星の基準を満たしている ・Ｊクラブのアカデミーとして、最低限クリアしたいレベル ・セーフガーディングなど、現行のクラブライセンス制度にはない大事な要素が含まれた、新評価制度の導入とも言える基準
★★ 2つ星	・2つ星の基準を満たしている ・アカデミーから、トップチームで活躍できるレベルの選手を毎年輩出している状態
★★★ 3つ星	・3つ星の基準を満たしている ・アカデミーから、トップチームで活躍できるレベルの選手を毎年複数輩出している状態
★★★★ 4つ星	・4つ星の基準を満たしている ・国内最高のレベル、グレートアカデミー ・世界で活躍できるレベルの選手を輩出している状態

〔23のクオリティースタンダード〕

1	セーフガーディング	13	選手に求められる要素
2	組織構造	14	スタッフの資質能力
3	アカデミーパフォーマンスプラン	15	コーチングカリキュラム
4	クラブのフットボールフィロソフィー	16	GK用コーチングカリキュラム
5	アカデミーのプレーイングフィロソフィー	17	アカデミーのコーチングフィロソフィー
6	ビジョン＆ストラテジー	18	ゲームプログラム
7	アカデミーの財務経理	19	タレント発掘プログラム
8	アカデミーの運営管理	20	昇格経路＆プラン（パスウェイ）の構築
9	指導者育成プログラム	21	技術委員会
10	若年層を対象とした普及活動	22	選手ケア＆教育
11	個別育成プラン（選手用）	23	分析部門
12	個別育成プラン（スタッフ用）		

WEリーグ（日本女子プロサッカーリーグ）

TREホールディングスと「シルバーパートナー」契約を締結

WEリーグは3月1日、TREホールディングス株式会社とシルバーパートナー契約を締結した。

TREホールディングスは、「地球の環境保全に貢献する。」を企業理念に掲げ、「総合環境企業」としてリサイクル事業やエネルギー事業を推進している。WEリーグはスポーツ界からジェンダー課題を、TREホールディングスは資源リサイクルの技術力で環境問題を解決するという高い志を持っており、SDGsの目標達成に向けた互いのアクションで相乗効果を生み出し、サステナブルな社会の実現を目指す。

【WEリーグシルバーパートナー】
TREホールディングス株式会社
設立　：2021年10月1日
事業内容：廃棄物処理・再資源化事業、資源リサイクル事業、再生可能エネルギー事業、その他環境事業
本社所在地：東京都千代田区大手町一丁目7番2号 東京サンケイビル15階
代表取締役会長 CEO：松岡 直人
代表取締役社長 COO：阿部 光男
URL：https://tre-hd.co.jp/

●岡島喜久子WEリーグチェアコメント
TREホールディングスは、株式会社タケエイとリバーホールディングス株式会社が経営統合し、2021年10月に設立されました。私たちWEリーグはスポーツ界からジェンダー課題を解決するという社会的意義を持って誕生しました。一方、TREホールディングスは環境問題の解決を目指し「地球の環境保全に貢献する。」という企業理念を掲げて誕生しました。持続可能な社会の実現をけん引していくTREホールディングスと共に、これからどのような取り組みを展開できるのか期待を膨らませています。共に手を携え、両社の行動力を持って、SDGsの目標達成の一翼を担っていきたいと思います。

11クラブのホームスタジアムを回るYogibo WEリーグトロフィーツアー

WEリーグが主催する「Yogibo WEリーグ トロフィーツアー」の開催日程が決定した（3月3日発表）。

日本初の女子プロサッカーリーグとして、「ジェンダー平等」「多様性社会の実現」を目標に掲げているWEリーグは、さまざまな固定概念を壊し、そこから生まれる「未来の可能性」「エンパワーメント」を象徴するWomen Empowerment Leagueならではの優勝トロフィー「Women Empowerment Trophy」（ウーマンエンパワーメントトロフィー）を制作した。トロフィーツアーはシーズン再開と合わせて3月6日にNACK5スタジアム大宮でスタートし、4月末までに全11クラブのホームスタジアムを回る。展示ブースでは、優勝トロフィーと写真撮影もできる。

開催日		ー	会場
2月27日	日	皇后杯 JFA 第43回全日本女子サッカー選手権大会 決勝	サンガスタジアム by KYOCERA

開催日		2021-22 Yogibo WE リーグ			会場
3月6日	日	大宮 V	vs	N 相模原	NACK5 スタジアム大宮
3月12日	土	千葉 L	vs	I 神戸	フクダ電子アリーナ
3月13日	日	AC 長野	vs	新潟 L	長野 U スタジアム
3月20日	日	新潟 L	vs	大宮 V	デンカビッグスワンスタジアム
3月27日	日	S 広島 R	vs	浦和	広島広域公園第一球技場
4月3日	日	浦和	vs	大宮 V	浦和駒場スタジアム
4月16日	土	N 相模原	vs	S 広島 R	相模原ギオンスタジアム
4月17日	日	EL 埼玉	vs	東京 NB	熊谷スポーツ文化公園陸上競技場
4月23日	土	東京 NB	vs	千葉 L	味の素スタジアム
4月24日	日	マイ仙台	vs	EL 埼玉	ユアテックスタジアム仙台
4月29日	金祝	I 神戸	vs	S 広島 R	ノエビアスタジアム神戸

※上記のほか、タイトルパートナー「Yogibo」の店舗でも展示予定。今後の日程は、決定次第WEリーグ公式WebサイトやSNSをご参照

※内容や日程は予告なく変更する可能性あり。新型コロナウイルスの感染状況や政府方針、自治体の判断により、入場制限や運営方法等変更となる場合あり
※撮影したトロフィーの写真はSNSアカウントで投稿可能

●SNSキャンペーン概要：各ホームスタジアムの展示ブースで撮影したトロフィーの写真に「#Yogibo #WE リーグ」をつけて、Twitter もしくはInstagram に投稿した方の中から抽選で、素敵なグッズが当たるキャンペーンを実施。詳細は展示ブースで紹介。
●特設ページ：https://weleague.jp/trophy/

第21節INAC神戸レオネッサ対浦和レッズレディースでWEリーグ初の国立競技場開催

5月10日に予定されている2021-22 Yogibo WEリーグの第21節INAC神戸レオネッサ対三菱重工浦和レッズレディースの試合を、国立競技場（東京都）で開催することが決定した（3月4日発表）。WEリーグにとって、初の国立開催となる。

3月8日国際女性デー～“ウーマンエンパワーメント月間”のアクションを発表

WEリーグは、3月8日の国際女性デーに合わせて、3月を“ウーマンエンパワーメント月間”とし、それにまつわるさまざまなアクションを実行した。選手、クラブ、パートナーが参加した「WE ACTION MEETING」で集まったジェンダー課題をサッカー界から少しずつ解決することにチャレンジした。

「国際女性デー」は1904年3月8日にニューヨークで婦人参政権を求めたデモが起源となり、国連によって1975年に制定された。女性たちの勇気と決断を称える日とされている。女性の地位向上や男女平等を目指すだけではなく、さまざまなジャンルで活躍する女性をサポートすることで、男性も含めた全ての人々が暮らしやすい世界を目指している。WEリーグは、3月8日が理念に掲げる「一人ひとりが輝く社会」の実現に通じる意義ある日としている。

【3月 ウーマンエンパワーメント月間 WEリーグが展開する取り組み】

●WE ACTION ～選手・クラブ・パートナーが参加した「WE ACTION MEETING」のまとめ動画、課題BOOKを公開

WE ACTIONは、WEリーグのビジョンの一つ「世界一アクティブな女性コミュニティへ」を実現するための行動・活動。今シーズンは、選手、クラブ、パートナーの三者で、自身や社会を見つめ、互いに課題を共有するために2021年12月14日、2022年1月18日、2月22日と計3回のWE ACTION MEETINGを開催。ジェンダーにまつわる課題を「〇〇問題」として紹介し、選手やクラブ関係者、パートナー関係者が感じている課題について意見交換した。その結果、200以上の課題が集まり、それらを『ジェンダー課題BOOK』としてまとめた。

・まとめ動画：ダイジェスト編
https://youtu.be/DS71QMMSMj8

・ジェンダー課題BOOK
https://jfa.box.com/s/xcur6xeb2lilnnmb8363eammlry7xms4

日本女子サッカーリーグ

なでしこリーグ1部の新たな優勝トロフィーとメダルが完成

日本女子サッカーリーグは3月14日、完成した新しい1部優勝トロフィーとメダルを発表した。

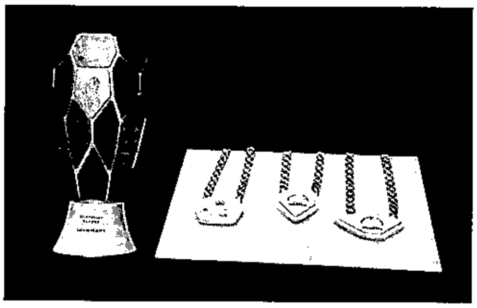
従来のトロフィーやメダルは、勝者の証という以外の意味合いは特に込められておらず、リーグの魅力が十分伝えられていなかった。アマチュアの最高峰として2シーズン目を迎えたこのタイミングで、大会を象徴する1部の優勝トロフィーを刷新し、新たな意味を持たせることで「なでしこリーグならではの魅力」を伝えていきたいという思いで制作された。

●コンセプト：さまざまな背景を持つ選手たちの活躍を祝いたいという思いからコンセプトワードは「Convivial（コンビビアル）」。元はラテン語のconvivereに由来しconは「共に」、vivereは「生きる」「共に生きる」を意味している。

●新トロフィーに込めた思い：チームプレーであるサッカーは、同時に選手一人一人の自立した個としての働きが必要不可欠となる。日常でも、ピッチ上でも、さまざまな役割を担った選手たちが個性を発揮している。その一人一人にスポットを当て、それが一つのトロフィーになる。トロフィーは、選手一人一人を表すメダルが集まってできており、勝利に向かって一つになる姿であり、全体と個が響き合っている。トロフィーとメダルにそのような新しい思いを吹き込み、なでしこリーグが大事にしている多様性を体現した。

●トロフィー・メダルの構造：トロフィー全体の形は、サッカーボールを原型にしており、選手たちがサッカーのために集まった様子を想起させる。トロフィーは、チームの選手一人一人を表すメダルが集まって一つになることで完成する。
メダルを取ると、内側には優勝の証と共に中心にナデシコ科のさまざまな花が描かれている。世界には約300種のナデシコ科の花があり、そ

れらを模して描かれた花々は選手一人一人の多様性を表している。メダルの形と柄の組み合わせは一つとして同じものがない。メダルをかける首紐には日本の伝統的な組紐を使用。古来より着物の帯締、茶道具や刀の留め具などさまざまなものに使われていた組紐で、今回使用した素材は上質な絹糸でリーグのアイデンティティーを表す「なでしこリーグのカラー」で染め上げられている。
サッカーを通じてチームメンバー全員が一つになって得た勝利を形にした、新しい1部優勝トロフィーとなっており、これからのなでしこリーグの在り方を体現したものとなっている。


優勝トロフィーとメダル

2022プレナスなでしこリーグの公式テーマソングが決定

日本女子サッカーリーグは3月14日、2022プレナスなでしこリーグの公式テーマソングを発表した。

【2022プレナスなでしこリーグ 公式テーマソング概要】
・楽曲：One Day
・アーティスト：ZILLION（ジリオン）
・所属：ソニー・ミュージックレーベルズ
・背景：なでしこリーグは、選手みんな個性豊かで、女性活躍、多様性を尊重し、チャレンジし続けるリーグである。「ZILLION」の若さ溢れるエネルギッシュな姿、多様性、全員主役を体現する考え方に共感し、双方がひかれ合って今回のテーマソングが決定。なでしこリーグのための書き下ろし楽曲。
・アーティスト情報：「ZILLION」は男女混成9人組の新人ダンスボーカルグループ。シンガーソングライター清水翔太氏が審査委員長を務めたソニーミュージック主催オーディション“ONE in a Billion”を経て、2021年に結成され、同12月22日にデジタルシングル「Timeless」でプレデビューを果たす。Z世代のネオスタンダードとして、多様性を重んじ、全員主役の価値観を体現すべく活動中。
・アーティスト公式HP：https://www.zillion-official.com/
・アーティストからのメッセージムービー：https://youtu.be/rb6S4DSanqo
・使用用途：YouTube「なでしこリーグチャンネル」にて配信される、「2022プレナスなでしこリーグ1部」の試合中継におけるオープニングムービーやハイライト映像で使用予定。
・オープニングムービー：https://youtu.be/HblkCPY52l4

2022プレナスなでしこリーグ1部全132試合を実況付きLIVE配信

日本女子サッカーリーグは、3月19日、20日に開幕する2022プレナスなでしこリーグ1部の試合をYouTubeで全試合実況付きLIVE配信することを決定した（3月14日発表）。

●2022プレナスなでしこリーグ1部
YouTube「なでしこリーグチャンネル」で全試合実況付きライブ配信（各節6試合、全22節計132 試合）
URL: https://www.youtube.com/user/nadeshikoleague1

日本フットサルリーグ（Fリーグ）

Fリーグ2021-2022 ディビジョン1・2各賞の受賞者が決定

■Fリーグ2021-2022 受賞一覧
【チーム表彰】
●ディビジョン1
優勝　：名古屋オーシャンズ ※5年連続14回目
準優勝　：湘南ベルマーレ
フェアプレー賞：ペスカドーラ町田 ※初受賞

●ディビジョン2
優勝　：しながわシティ ※2年連続2回目
（昨シーズン：トルエーラ柏）
フェアプレー賞：ヴィンセドール白山 ※初受賞

【個人表彰】
最優秀選手賞：ディビジョン1　ロドリゴ（湘南ベルマーレ）※初受賞
ディビジョン2　白方秀和（しながわシティ）※初受賞
ベストファイブ：GK フィウーザ（湘南ベルマーレ）※2年連続2回目
FP ロドリゴ（湘南ベルマーレ）※4年ぶり2回目
FP オリベイラ　アルトゥール（名古屋オーシャンズ）※2年連続4回目
FP ペピータ（名古屋オーシャンズ）※3年連続3回目
FP 星翔太（名古屋オーシャンズ）※7年ぶり2回目
得点王　：ディビジョン1
ロドリゴ（湘南ベルマーレ、22得点）
※初受賞
ディビジョン2
白方秀和（しながわシティ、14得点）
※初受賞
新人賞　：東出脩椰（バルドラール浦安）
最優秀審判員賞：常國広平（フットサル1級）※初受賞

公益財団法人日本サッカー協会　2022年度第3回理事会

公式URL　https://www.jfa.jp/

日本サッカー協会（JFA）は2022年3月10日、2022年度第3回理事会をオンラインで開催した。決議、報告された事項は、下記の通り。

決議事項

1　定時評議員会開催 …… P26
2　ウクライナサッカー協会への支援 …… P26
3　利益相反取引等管理規則 改正 …… P26
4　1級勇退審判インストラクター 表彰 …… P26

定時評議員会開催

下記の通り、定時評議員会を開催する。
なお、決議事項第3号議案の候補者は3月15日開催の臨時理事会にて最終決定予定。

1. 開催日時：2022年3月27日（日）13:00～
2. 会場：ウェブ会議システム
3. 議題：

◆決議事項
（1）定款変更の件
（2）評議員8名 選任の件
（3）理事および監事 選任の件
（4）一般社団法人日本フットサルトップリーグ加盟の件
（5）司法機関（規律委員会、裁定委員会及び不服申立委員会）の委員選任の件

◆報告事項
（1）理事会で選定・選出する役員等予定者の件
（2）2021年度 決算の件
（3）2021年度 事業報告の件

ウクライナサッカー協会への支援

ウクライナ情勢が悪化する中、ウクライナのサッカーファミリー支援のために、ヨーロッパサッカー連盟（UEFA）を経由して、ウクライナサッカー協会に対してUS $10万の支援金を送ることとした。

利益相反取引等管理規則 改正

利益相反取引等管理規則について、下記の通り改正する。

（1）改正概要
①適用範囲に「評議員、評議員の配偶者及び一親等の親族並びにこれらの者が代表者を務める法人（評議員が代表者を務める加盟団体及び加盟チームを除く。）」を追加する。
②評議員が、利益相反取引等に該当するまたは該当する可能性がある取引を行う場合には、その取引について重要な事実を開示し、事前に専務理事の承認を必要とする。

（2）改正理由
公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律第5条（公益認定の基準）第1項第3号に「その事業を行うに当たり、社員、評議員、理事、監事、使用人その他の政令で定める当該法人の関係者に対し特別の利益を与えないものであること。」と規定され、社会通念に照らして合理性を欠く不相当な利益を供与することなどを禁止されており、本協会と評議員が利益相反取引等をする場合においても不相当な利益供与がなされる蓋然性があるため、本規則の対象に評議員およびその関係者を追加する。
ただし、評議員が代表者を務める加盟団体及び加盟チームとの取引は、一定のルールに従った取引が主であり、特別な利益供与がなされる蓋然性が評議員本人と比して著しく低いため、本規則の対象から除外する。

（3）改正日
2022年3月10日

1級勇退審判インストラクター 表彰

2021年をもって引退した下記審判インストラクターに対し、長年にわたりトップカテゴリーにおいて指導活動をするなど、審判技術の向上等に著しく貢献のあったことに対して感謝の意を表するため、「審判員及び審判指導者等に関する規則 第12節 第30条〔表 彰〕」に基づき、表彰する。

1. 2021年をもって引退した審判インストラクター

（1）1級審判インストラクター
夏井正彦（なつい まさひこ）氏
福岡幹男（ふくおか みきお）氏
宮成武人（みやなり たけひと）氏

（2）フットサル1級審判インストラクター
宮成武人（みやなり たけひと）氏
垣内理伸（かいと まさのぶ）氏

2. 表彰内規（第7節 第22条［定年による引退］）
サッカー1級審判インストラクターおよびフットサル1級審判インストラクターは、満70歳となった日が属する年度の最終日（3月31日）に定年により引退する。

参考:
【表彰規則】
（表彰者の決定）

左ページ左上へ続く↖

第6条 表彰者の決定は、理事会において行う。
【審判員及び審判指導者等に関する規則】
第12節 審判員及び審判指導者の表彰並びに懲罰

第30条〔表 彰〕
本協会は、審判技術の向上等に著しく貢献のあった審判員及び審判指導者を表彰する。

報告事項

1 第18回FIFAカウンシル会議(2月24日開催) ………… P27
2 JFAアジア貢献事業 海外指導者派遣(継続) ………… P27
3 天皇杯 JFA 第102回全日本サッカー選手権大会 開催概要、決勝会場、VAR ………… P27
4 指導者ライセンス適格性再審査 ………… P28
5 社会貢献委員会 ………… P28
6 2022年度新規JFAマッチコミッショナー ………… P28
7 JFAサッカー施設整備助成事業 ………… P28
8 JFAロングパイル人工芝ピッチ公認(新規) ………… P29
9 JFAロングパイル人工芝ピッチ公認(更新) ………… P29
10 JFA・Jリーグ特別指定選手制度 ………… P29
11 女子委員会 委員退任 ………… P30
12 審判員・審判指導者 海外派遣 ………… P30
13 フットサル競技規則:「第3条－競技者」の暫定的改正の延長 ………… P30
14 ビーチサッカー競技規則:「第3条－競技者」の暫定的改正の延長 ‥ P31
15 裁定委員会における懲罰 ………… P31

第18回FIFAカウンシル会議(2月24日開催)

第18回FIFAカウンシル会議が2月24日にオンライン上で行われた。主な決定・報告事項は下記の通り。

(1)第72回FIFA総会(2022年3月31日にカタールのドーハで開催)について、総会アジェンダおよび2021年FIFA年間活動報告、2021年財務諸表、2023年予算を承認した。
(2)ケニアサッカー連盟およびジンバブエサッカー協会について、第三者の介入を理由に資格停止処分を決定した。

JFAアジア貢献事業 海外指導者派遣(継続)

JFAアジア貢献事業の一環として海外に派遣している指導者1名を引き続き選任する。

●対象者
(1)カンボジア／審判ダイレクター
名前：唐木田徹
保有資格：JFA1級審判インストラクター、AFC Regional Referee Instructor
●契約期間：2022年4月1日～2023年3月31日

天皇杯 JFA 第102回全日本サッカー選手権大会 開催概要、決勝会場、VAR

天皇杯実施委員会を開催し、第102回大会について下記の通りとした。

(1) 開催概要
① 競技会形式：
7回戦、ノックアウト方式
88チーム出場
② シード：※昇格を反映した前年2021シーズンの成績に基づく
◆2回戦より出場
J1：18チーム(前年2021シーズン J1・1～16位、J2・1～2位)
J2：22チーム(前年2021シーズン J1・17～20位、J2・3～18位、J3・1～2位)
◆1回戦より出場
アマチュアシード：1チーム(HondaFC ／ JFL)
③ 都道府県代表：47チーム
④ 日程：
1回戦 2022年5月21日(土)、22日(日)〔予備日：5月23日(月)〕
2回戦 6月1日(水)〔予備日：6月8日(水)〕
3回戦 6月22日(水)〔予備日：6月29日(水)〕
ラウンド16(4回戦) 7月13日(水)〔予備日：7月20日(水)〕
準々決勝 9月7日(水)〔予備日：9月28日(水)〕
準決勝 10月5日(水)
決勝 10月16日(日)

(2) 決勝会場
日産スタジアム(神奈川)
※天皇杯決勝の日産スタジアムでの開催は、第94回大会以来の開催となり、通算2度目

(参考：これまでの決勝会場・第93回～)
第101回大会 国立競技場(東京)
第100回大会 国立競技場(東京)
第99回大会 国立競技場(東京)
第98回大会 埼玉スタジアム2002(埼玉)
第97回大会 埼玉スタジアム2002(埼玉)
第96回大会 市立吹田サッカースタジアム(大阪)
第95回大会 味の素スタジアム(東京)
第94回大会 日産スタジアム(神奈川)
第93回大会 国立競技場(東京)

(3) VAR(ビデオアシスタントレフェリー)
準々決勝(4試合)、準決勝(2試合)および決勝にて採用する。

(参考：VAR 採用実績)
第101回大会 準決勝(2試合)および決勝にて採用
第100回大会 採用見合わせ
※準決勝(2試合)、決勝での採用を予定していたが、新型コロナウイルスの影響による競技会形式変更に伴い、適用を見合わせた
第99回大会 決勝にて採用

指導者ライセンス適格性再審査

指導者ライセンス適格性の再審査を行った。

社会貢献委員会

2021年度の社会貢献活動の実施状況を報告した。詳細はJFA公式ウェブサイト参照。

2022年度新規JFAマッチコミッショナー

「JFAマッチコミッショナー認定制度」に基づき、157名を新規JFAマッチコミッショナーとして認定する。都道府県サッカー協会の推薦を受け、eラーニングによる講習会の受講を完了している。

<2022年度新規JFAマッチコミッショナー認定者一覧>

北海道	赤間奈津美、秋山康平、五十嵐友人、伊藤一志、宇野和哉、香川智則、加藤伸侍、管野博、工藤博道、佐々木琢至、佐藤秀斗、菖蒲友幸、戸田心、中田大夢、平澤浩二、牧内勝哉、村岡信明、山口浩太朗、山田卓良、吉田琢也
岩手県	髙橋美保
宮城県	菅野浩佳、去田俊博、宍戸清一、末長幸洋、高橋紀幸、橋本俊一
山形県	井上勝人、高橋孝
茨城県	宮川直也、宮崎聖大
栃木県	上野哲、北島博、菅谷昌広、鈴木貴誉生、直井規男、橋本勤、藤田美好
群馬県	佐藤誠、中野知之
埼玉県	加藤紘一、島田景、白田武士、田中龍太郎
千葉県	宇田川剛、大石康、山本一広
東京都	大西正幸、河野正人、栗原鏡成、滝本寛、前田光洋、松本匡央、三井耕
神奈川県	金子勝、黒川祐、鈴木祐史、山本春美、米山稔
山梨県	岩崎雄治、仁科信久、堀内伸一
長野県	麻田記良、卯之原勇輝、唐澤亮、桑原健吾、佐藤哲、塩沢勝吾、武内英郎、立石越史、田中幸紀、箱山浩史、横田真
新潟県	岡野宇広、榊原玄、里見純一、下村昌昭、山添大地
富山県	油谷秀隆、中島亨、藤崎康行
石川県	石田哲、桶野勝、神田和穂、小畠悠大、平井佐利、二口佑貴、安江誠二
静岡県	内山嘉之、坂本臣、中井浩行
愛知県	北辻耕司、湯浅章江
三重県	池田良仁、池山和秀、坂本克則、谷口鯉司、米村美昭
京都府	和家良康
大阪府	相沢政裕、岩橋寿明、北波直人、齋藤寿和、多田雅征
兵庫県	来住健次
奈良県	川合宏明、西村陽一、畑野秀夫、藤本憲一郎、山口幸司
鳥取県	池田洋二、永林昭
島根県	上野敏夫、岡崎賢一、角英利、宅野和巳、秦秀司
岡山県	竹原章文、水流伸治、三宅一弘
広島県	麻生賢一、酒井克典、刀山雅彦、長谷川祥一、平尾淳、前田政幸、森近和代、山上登、山口崇、山田宏治、山西博文
山口県	國村明宏、村中秀二
徳島県	富永賢、細川誠治、森誠二
愛媛県	鹿島順子
高知県	市川省二、沖原広行
福岡県	稲光健太郎、猿渡洋平、中岡誠、野田龍也、安永陽一
佐賀県	野田一成
長崎県	法澤光毅、本田寿也、宮崎正信、宮本達成
大分県	南佳織
宮崎県	永徳智彦、中武潤弥、西村典
鹿児島県	有川健一、碇山伸一、上原俊郎、古薗功詞郎

JFAサッカー施設整備助成事業

「JFAサッカー施設整備助成金 交付要項」に基づき、助成金交付要望のあった下記の案件について、審査し交付を決定した。

[申請概要]

1. 徳島県
(1)申請者：一般社団法人徳島県サッカー協会
(2)申請区分：[助成区分2]地区サッカー施設整備助成事業
(3)助成対象事業：人工芝（新設1面）、夜間照明（新設）
(4)施設名：板野町田園パーク 町民スポーツガーデン
(5)計画地：徳島県板野郡板野町犬伏鶴畑37
(6)総事業費：111,860千円
(7)助成金申請額：50,296千円
(8)完了時期：2022年1月
(9)交付決定日：2021年11月10日

2. 茨城県
(1)申請者：公益財団法人茨城県サッカー協会
(2)申請区分：[助成区分1]都道府県フットボールセンター整備助成事業
(3)助成対象事業：人工芝（新設2面）、夜間照明（新設2面）
(4)施設名：（仮称）JAスポーツパーク
（公益財団法人茨城県サッカー協会フットボールセンター）
(5)計画地：茨城県水戸市下国井町2201-1（JAグループ茨城教育センター）
(6)総事業費：609,008千円 うち助成対象経費268,202千円
(7)助成金申請額：100,000千円
(8)完了時期：2022年12月
(9)交付決定日：2021年12月14日

3. 青森県
(1)申請者：十和田市（青森県）
(2)申請区分：[助成区分1] 都道府県フットボールセンター整備助成事業
[助成区分3] 施設改修助成事業
(3)助成対象事業：クラブハウス（新設）、人工芝（改修）
(4)施設名：高森山人工芝多目的グラウンド
(5)計画地：青森県十和田市大字深持字梅家ノ下56番7
(6)総事業費：242,577千円
(7)助成金申請額：31,388千円
(8)完了時期：2023年11月 ※期限延長の特例措置適用
(9)交付決定日：2021年12月16日

JFAロングパイル人工芝ピッチ公認(新規)

【新規】
申請者(施設所有者):南足利市
施設名:南足利市体育センター(神奈川県南足柄市和田河原1030)
使用製品:積水樹脂株式会社 ドリームターフ PT2055RS+U
公認期間:2022年3月10日～2025年3月9日
公認番号:第255号

<特記事項>
・使用製品は、JFAロングパイル人工芝公認規程に基づく製品検査(ラボテスト)を完了している。
・当該施設は、JFAロングパイル人工芝公認規程に基づく現地検査(フィールドテスト)を実施し、基準を満たしている。

JFAロングパイル人工芝ピッチ公認(更新)

【更新】
申請者(施設所有者):新宮市
施設名:新宮市民運動競技場(やたがらすサッカー場)
(和歌山県新宮市佐野1501)
使用製品:泉州敷物株式会社 セーフティターフ MFJ-65Ze
公認期間:2022年2月7日～2025年2月6日
公認番号:第073号

申請者(施設所有者):愛南町
施設名:愛南町あけぼのグラウンド(愛媛県南宇和郡愛南町増田5446番地)
使用製品:住友ゴム工業株式会社 ハイブリッドターフ XXP-62HP
公認期間:2022年2月18日～2024年2月17日
公認番号:第184号

申請者(施設所有者):姶良市
施設名:姶良フットボールセンター(鹿児島県姶良市平松2392)
使用製品:積水樹脂株式会社 ドリームターフ PT2065RS+U ACS85-CF(Br)
公認期間:2022年3月7日～2025年3月6日
公認番号:第230号

<特記事項>
・使用製品は、JFAロングパイル人工芝公認規程に基づく製品検査(ラボテスト)を完了している。
・当該施設は、JFAロングパイル人工芝公認規程に基づく現地検査(フィールドテスト)を実施し、基準を満たしている。

JFA・Jリーグ特別指定選手制度

●認定日:2022年2月3日
(1)選手名 : 山﨑大地(やまさき たいち)
所属チーム : 順天堂大学蹴球部
受入先 : サンフレッチェ広島
所属歴 : 廿日市FCジュニア
サンフレッチェ広島F.Cジュニアユース
順天堂大学蹴球部

(2)選手名 : 中野就斗(なかの しゅうと)
所属チーム : 桐蔭横浜大学サッカー部
受入先 : サンフレッチェ広島
所属歴 : AZ'86東京青梅ジュニア
AZ'86東京青梅
桐生第一高校
桐蔭横浜大学FC
桐蔭横浜大学サッカー部

(3)選手名 : 木村勇大(きむら ゆうだい)
所属チーム : 関西学院大学体育会サッカー部
受入先 : 京都サンガF.C.
所属歴 : YN キッカーズ
東京ヴェルディジュニア
ヴィッセル神戸U-12
ヴィッセル神戸U-15
大阪桐蔭高校

(4)選手名 : 平河悠(ひらかわ ゆう)
所属チーム : 山梨学院大学サッカー部
受入先 : FC町田ゼルビア
所属歴 : 明倫JSC
FCレヴォーナU-15
佐賀東高校サッカー部
山梨学院大学サッカー部
山梨学院大学サッカー部ブレーブス

●認定日:2022年2月8日
(5)選手名 : 荒井悠汰(あらい ゆうた)
所属チーム : 昌平高校サッカー部
受入先 : FC東京
所属歴 : 白岡南サッカースポーツ少年団
FC白岡南
FC LAVIDA
昌平高校

(6)選手名 : 寺山翼(てらやま つばさ)
所属チーム : 順天堂大学 蹴球部
受入先 : FC東京
所属歴 : 新座片山FC少年団
FC東京U-15むさし
FC東京U-18
順天堂大学蹴球部

(7)選手名 : 西堂久俊(にしどう ひさとし)
所属チーム : 早稲田大学ア式蹴球部
受入先 : FC東京
所属歴 : 三井千葉サッカークラブ・ジュニア
三井千葉サッカークラブ・ジュニアユース
船橋市立船橋高校
早稲田大学ア式蹴球部

●認定日:2022年2月9日
(8)選手名 : 三浦颯太(みうら そうた)

次ページ左上へ続く

所属チーム　：日本体育大学学友会サッカー部
受入先　　　：ヴァンフォーレ甲府
所属歴　　　：FCゴロアーズ
FC東京U-15むさし
帝京高校
日本体育大学学友会サッカー部

●認定日：2022年2月15日
(9)選手名　：芳賀日陽（はが あさひ）
所属チーム　：作新学院大学サッカー部
受入先　　　：いわきFC
所属歴　　　：板橋少年サッカークラブ
FC東京U-15深川
FC東京U-18
作新学院大学サッカー部

(10)選手名：鶴野怜樹（つるの れいじゅ）
所属チーム　：福岡大学サッカー部
受入先　　　：アビスパ福岡
所属歴　　　：FCヴィラノーバ水俣U-12
DESAFIO2009
FCヴィラノーバ水俣U-12
NPO法人ヴィラノーバ水俣U-15
立正大学淞南高校
福岡大学サッカー部

(11)選手名：落合陸（おちあい りく）
所属チーム　：東京国際大学体育会サッカー部
受入先　　　：柏レイソル
所属歴　　　：浦和尾間木サッカースポーツ少年団
柏レイソルU-12
柏レイソルU-15
柏レイソルU-18
東京国際大学体育会サッカー部
VONDS市原FC
東京国際大学体育会サッカー部

(12)選手名：泉柊椰（いずみ とおや）
所属チーム　：びわこ成蹊スポーツ大学サッカー部
受入先　　　：ヴィッセル神戸
所属歴　　　：八尾太陽リンクスサッカークラブ
柏田サッカークラブ
ヴィッセル神戸U-18
びわこ成蹊スポーツ大学サッカー部

女子委員会 委員退任

下記の女子委員会委員が3月26日付で退任する。

名前：小林美由紀（こばやし みゆき）
【退任の理由】
1月29日（土）に開催されたJFA臨時評議員会にて、公益社団法人日本女子プロサッカーリーグ（WEリーグ）が評議員推薦加盟団体となった。
WEリーグから小林氏を評議員候補者として推薦することとなり、3月27日（日）開催予定の定時評議員会に付議される予定となっている。
評議員は、常設委員会の委員を兼ねることが禁じられているため、常設委員会である女子委員会の委員をこの度退任するもの。

審判員・審判指導者 海外派遣

委員会、大会、試合など	役職	名前	試合日または派遣期間	場所
AFC女子アジアカップインド2022	審判員	山下良美、坊薗真琴、手代木直美、小泉朝香	1月20日～2月6日	インド
2022FIFAワールドカップカタール アジア地区最終予選 グループA UAE vs シリア	審判員	飯田淳平	1月27日	ドバイ
2022FIFAワールドカップカタール アジア地区最終予選 グループA シリア vs 韓国	審判員	佐藤隆治、木村博之、荒木友輔、飯田淳平、三原純、野村修	2月1日	ドバイ
AFC女子アジアカップインド2022	アセッサー	山岸佐知子	1月20日～2月6日	インド
2022FIFAワールドカップカタール アジア地区最終予選 グループA UAE vs シリア	アセッサー	石山昇	1月27日	ドバイ
2022FIFAワールドカップカタール アジア地区最終予選 グループA イラン vs UAE	アセッサー	石山昇	2月1日	テヘラン

フットサル競技規則：「第3条ー競技者」の暫定的改正の延長

国際サッカー連盟（以下、FIFA）のコリーナ審判委員会委員長から、2022年2月15日付文書をもって、フットサル競技規則「第3条ー競技者」の暫定的改正の延長について通達があった。通達自体の日本語訳は、下記の通り。
今回の通達により、FIFAは2021年2月26日付の通達「第3条ー競技者の暫定的改正の延長」（本協会より2021年3月5日付日サ協発第210035号にて発信）で示された2021年内に終了予定の競技会に適用できるとしたものをさらに延長して、2022年12月末までに終了予定の競技会においても適用できるとした。
本通達について、各協会、連盟等において、加盟クラブ、チーム、審判員等関係者に周知徹底を図られるようお願いしたい。

●フットサル競技規則：「第3条ー競技者」の暫定的改正の延長について
昨年、FIFAは2021年2月26日付文書に示すよう、第3条（競技者）に関する暫定的改正を2021年12月31日まで延長した。暫定的改正の導入の主たる理由はCOVID-19のフットサルに及ぼす影響への対応であり、現在の状況では、交代で退く競技者や第3審判にビブスを手渡す行為が感染のリスクとなりかねないからである。
FIFAは、フットサルのステークホルダーからのフィードバックを含めて引き続き検証したが、依然として暫定的改正は合理的であり、効果的であることを確認したことから、2022年12月31日までに終了予定の国内/国際のクラブの競技会および代表チームの競技会にこの暫定的改正を延長して適用することとした。
暫定的に改正した文章は、次のようになっている。
「交代は、交代要員が完全に自分のチームの交代ゾーンからピッチに入ることにより完了する。」
この情報について、貴協会におけるフットサル競技会の主催者に共有していただくことをお願いする。
FIFA審判委員会委員長 ピエルルイジ・コリーナ

ビーチサッカー競技規則：「第3条－競技者」の暫定的改正の延長

国際サッカー連盟（FIFA）のコリーナ審判委員会委員長から、2022年2月15日付文書をもって、ビーチサッカー競技規則「第3条－競技者」の暫定的改正の延長について通達があった。通達自体の日本語訳は、下記の通り。

今回の通達により、FIFAは2021年7月8日付の通達「第3条－競技者の暫定的改正について」（JFAから2021年7月20日付日サ協発第210106号にて発信）で示された2021年内に終了予定の競技会に適用できるとしたものを延長して、2022年12月末までに終了予定の競技会においても適用できるとした。

本通達について、各協会、連盟等において、加盟クラブ、チーム、審判員等関係者に周知徹底を図られるようお願いしたい。

●ビーチサッカー競技規則：「第3条－競技者」の暫定的改正の延長について

2021年7月8日付文書に示すよう、第3条（競技者）に関する暫定的改正の導入の主たる理由はCOVID-19のビーチサッカーに及ぼす影響への対応であり、現在の状況では、交代で退く競技者や第3審判にビブスを手渡す行為が感染のリスクとなりかねないものである。

FIFAは、ビーチサッカーのステークホルダーからのフィードバックを含めて引き続き検証したが、依然として暫定的改正には合理的であり、効果的であることを確認したことから、2022年12月31日までに終了予定の国内／国際のクラブの競技会および代表チームの競技会にこの暫定的改正を延長して適用することとした。

暫定的に改正した文章は、次のようになっている。

「交代は、交代要員が完全に自分のチームの交代ゾーンからピッチに入ることにより完了する。」

この情報について、貴協会におけるビーチサッカー競技会の主催者に共有していただくことをお願いする。

FIFA審判委員会委員長 ピエルルイジ・コリーナ

裁定委員会における懲罰

裁定委員会（委員長：本林徹）より報告された懲罰案件について報告する。

【事案1】

1.当事者　：加盟団体 役員
2.懲罰の種類　：6カ月間の公的職務（本協会、加盟団体および加盟チームにおける一切の公的職務）停止
3.懲罰の起算日：2022年1月31日
4.懲罰の理由　：懲罰規程第34条1項（4）に該当
5.事案の概要：不正な手当の受領

【事案2】

1.当事者　：加盟団体 元役員
2.懲罰の種類　：譴責
3.懲罰の起算日：2022年1月31日
4.懲罰の理由　：懲罰規程第34条1項（4）に該当
5.事案の概要　：不正な手当の受領

公益財団法人日本サッカー協会　2022年度第4回理事会

公式URL　https://www.jfa.jp/

日本サッカー協会（JFA）は2022年3月15日、2022年度第4回理事会をオンラインで開催した。決議された事項は、下記の通り。

決議事項

1　JFAハウスの有効活用検討 ………… P31
2　各種委員会組織運営規則 改正 ………… P31
3　役員等予定者選出 ………… P31
4　定時評議員会 議題変更 ………… P32

JFAハウスの有効活用検討

JFAハウスの有効活用を検討した。関連情報はこちら http://www.jfa.jp/news/00029209/

各種委員会組織運営規則 改正

各種委員会組織運営規則について、右記の通り改正する。
詳細はJFA公式ウェブサイト参照。

改正概要：専門委員会に表彰委員会を新設する。

役員等予定者選出

定時評議員においてそれぞれ右記の予定者として承認されたリスト掲載者を、それぞれ選定する。
※詳細は32～38ページ参照

1. 理事予定者
2. 監事予定者
3. 常設委員会委員長予定者
4. 各委員会委員長予定者
5. 名誉役員予定者

定時評議員会 議題変更

下記の通り、定時評議員会の議題のうち、決議事項第2号議案および第3号議案を変更する。

1. 開催日時：2022年3月27日（日）13:00～
2. 会場：ウェブ会議システム
3. 議題：

●決議事項

（1）定款変更の件
（2）評議員9名 選任の件
（3）理事28名および監事3名 選任の件
（4）一般社団法人日本フットサルトップリーグ加盟の件
（5）司法機関（規律委員会、裁定委員会及び不服申立委員会）の委員選任の件

●報告事項

（1）理事会で選定・選出する役員等予定者の件
（2）2021年度 決算の件
（3）2021年度 事業報告の件

公益財団法人日本サッカー協会　2022年度定時評議員会

公式URL　https://www.jfa.jp/

日本サッカー協会（JFA）は2022年3月27日、2022年度定時評議員会をオンラインで開催した。決議・報告された事項は、下記の通り。

決議事項

1　定款変更 …… P32
2　評議員9名 選任 …… P32
3　理事28名および監事3名 選任 …… P33
4　一般社団法人日本フットサルトップリーグ加盟 …… P36
5　司法機関（規律委員会、裁定委員会、不服申立委員会）の委員選任 … P37

定款変更

定款を下記の通り変更する。

第17章 補則

6. 次に掲げる団体は、この法人の評議員推薦加盟団体とする。

（13）一般財団法人日本ビーチサッカー連盟
（14）公益社団法人日本女子プロサッカーリーグ
（15）一般社団法人日本障がい者サッカー連盟
（16）特定非営利活動法人日本サッカー指導者協会

※1月29日（土）に行われた臨時評議員会にて評議員推薦加盟団体として認定済み

評議員9名 選任

下記の通り9名の評議員を選任する。

（1）退任する評議員、および退任する評議員に代わり選任する評議員

①一般社団法人新潟県サッカー協会
退任する評議員：中澤雄一（なかざわ ゆういち）副会長
選任する評議員：渡邊滋（わたなべ しげる）副会長兼事務理事

②株式会社コンサドーレ
退任する評議員：野々村芳和（ののむら よしかづ）前代表取締役会長
選任する評議員：三上大勝（みかみ ひろかつ）代表取締役GM

③株式会社川崎フロンターレ
退任する評議員：藁科義弘（わらしな よしひろ）代表取締役社長
選任する評議員：吉田明宏（よしだ あきひろ）副社長

④株式会社エスパルス
退任する評議員：大榎克己（おおえのき かつみ）クラブ・リレーションズ・オフィサー
選任する評議員：杉山敏（すぎやま さとし）取締役管理本部長

⑤公益社団法人日本プロサッカーリーグ
退任する評議員：木村正明（きむら まさあき）専務理事
選任する評議員：窪田慎二（くぼた しんじ）理事

なお、任期の満了前に退任した評議員に代わり選任する評議員の任期は、定款第18条第2項の規定により、退任する評議員の任期満了の時までとなるため、2022年度に関する定時評議員会（2023年3月）の終結の時までとなる。

（2）新規評議員推薦加盟団体から推薦され選任する評議員

①一般財団法人日本ビーチサッカー連盟
選任する評議員：河原塚毅（かわはらづか たけし）理事

②公益社団法人日本女子プロサッカーリーグ
選任する評議員：小林美由紀（こばやし みゆき）理事兼理念推進部長

③一般社団法人日本障がい者サッカー連盟
選任する評議員：山本康太（やまもと こうた）事務総長

④特定非営利活動法人日本サッカー指導者協会
選任する評議員：石川慎之助（いしかわ しんのすけ）事務局長

なお、選任する評議員の任期は、定款第18条第1項の規定により、選任後4年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時までとなるため、2025年度に関する定時評議員会（2026年3月）の終結の時までとなる。

1.理事（会長・副会長・専務理事・常務理事・理事）予定者

【会長】
（1）田嶋幸三（たしま こうぞう）／64歳
現　職：公益財団法人日本サッカー協会 会長
生年月日：1957（昭和32）年11月21日
出身地：熊本県天草郡苓北町
学　歴：1980年3月　筑波大学体育専門学群 卒業
職　歴：1980年4月　古河電気工業株式会社 入社
1983年～1986年　西ドイツ ケルンスポーツ大学 留学
1987年3月　筑波大学大学院修士課程体育研究科 修了
1988年～1995年　立教大学一般教育学部 講師、助教授
1996年～2004年　筑波大学 客員助教授
2002年9月～2006年9月　財団法人日本サッカー協会 技術委員長
2006年7月　財団法人日本サッカー協会 専務理事
2010年7月～2012年6月　財団法人日本サッカー協会 副会長（専務理事兼務）
2012年6月～2016年3月　公益財団法人日本サッカー協会 副会長
2016年3月～　公益財団法人日本サッカー協会 会長
2006年8月～2010年7月　社団法人日本プロサッカーリーグ 理事
2007年4月～2019年6月　財団法人日本オリンピック委員会 理事／常務理事（2013年6月～）
2019年6月～2021年6月　公益財団法人日本オリンピック委員会副会長
2011年10月～2012年　国際サッカー連盟（FIFA）タスクフォーストランスペアレンシー&コンプライアンスメンバー
2015年6月～　国際サッカー連盟（FIFA）理事／カウンシルメンバー（2016年～）
2011年1月～2015年6月　アジアサッカー連盟（AFC）理事
2011年3月～　アジアサッカー連盟（AFC）技術委員会委員長
2011年8月～2013年　アジアサッカー連盟（AFC）評価特別委員会委員長
2011年3月～　東アジアサッカー連盟（EAFF）副会長
2016年3月～2018年3月　東アジアサッカー連盟（EAFF）会長
サッカー歴：1976年　浦和市立南高校 全国高校サッカー選手権大会優勝
1979年　筑波大学蹴球部 全日本大学サッカー選手権大会優勝
日本学生選抜選手 ユニバーシアード大会、ムルデカカップ等出場
1979年～1980年　日本代表選手 国際Aマッチ7試合出場
1980年～1983年　古河電気工業株式会社 サッカー部
日本サッカーリーグ 39試合出場、6得点、3アシスト
1985年～1989年　西ドイツサッカー指導者資格B級ライセンス取得
1996年　財団法人日本サッカー協会公認S級コーチライセンス取得
1983年～1986年　ブンデスリーガ1部 バイヤー・レバークーゼンにてコーチ研修
1999年～2000年　U-16日本代表チーム監督
2001年　U-17日本代表チーム監督 FIFA U-17サッカー世界選手権大会
2002年　U-19日本代表チーム監督 AFCユースサッカー選手権

【副会長】
（2）岡田武史（おかだ たけし）／65歳
現　職：公益財団法人日本サッカー協会 副会長
生年月日：1956（昭和31）年8月25日
出身地：大阪府大阪市
学　歴：1980年3月　早稲田大学政治経済学部 卒業
職　歴：1980年4月～1994年1月　古河電気工業株式会社 入社
2014年11月～　FC今治.夢スポーツ 代表取締役会長
サッカー歴：1972年4月　大阪天王寺高校 サッカー部
1974年　ユース日本代表
1978年　総理大臣杯全日本大学サッカートーナメント優勝
全日本大学サッカー選手権大会優勝
1979年　ユニバーシアード日本代表
1980年　古河電気工業株式会社 サッカー部
（日本サッカーリーグ189試合9得点、7アシスト）
1980年～1985年　日本代表（国際Aマッチ24試合出場1得点）
1982年　第7回JSLカップ優勝
1985年　第21回日本サッカーリーグ優勝
1986年　第11回JSL カップ優勝、第6回アジアクラブ選手権優勝
1990年　古河電気工業株式会社 サッカー部コーチ
1992年　ドイツへコーチ留学（ベルダーブレーメン、ハンブルガー SC）
1993年　ジェフユナイテッド市原 サテライトコーチ
1994年　ジェフユナイテッド市原 コーチ
1994年12月～1997年10月　日本代表 コーチ
1997年10月～1998年7月　日本代表 監督
1999年1月～2001年11月　コンサドーレ札幌 監督
2000年11月　コンサドーレ札幌 J2優勝、J1昇格
2003年3月～2006年8月　横浜F・マリノス 監督
2003年8月　横浜F・マリノス J1 1st ステージ優勝、2ndステージ優勝、J1年間優勝
2004年6月　横浜F・マリノス J1 1st ステージ優勝
2007年12月～2010年7月　日本代表 監督
2010年6月　2010FIFAワールドカップ南アフリカ ベスト16
2011年12月～2013年11月　中国スーパーリーグ・杭州緑城 監督
2014年1月　中国スーパーリーグ・杭州緑城 ユースチーム育成アドバイザリー契約
2016年11月　FC今治オーナー 就任
2016年3月～2018年3月　公益財団法人日本サッカー協会 副会長
2018年4月　公益財団法人日本サッカー協会 シニア・アドバイザー就任
2022年3月　公益財団法人日本サッカー協会 副会長
その他：2019年9月　日本サッカー殿堂入り

（3）野々村芳和（ののむら よしかづ）／49歳
現　職：公益財団法人日本サッカー協会 副会長
生年月日：1972（昭和47）年5月8日
出身地：静岡県清水市出身（現、静岡市清水区）
学　歴：1995年3月　慶應義塾大学法学部法律学科卒業
サッカー歴：1995年　ジェフユナイテッド市原（現、ジェフユナイテッド千葉）選手加入

次ページ左上へ続く

2000年　同クラブから移籍
2000年　コンサドーレ札幌（現、北海道コンサドーレ札幌）選手加入
2001年　同クラブ 選手引退、チームアドバイザー就任
2006年　株式会社クラッキ 代表取締役社長
2013年　株式会社クラッキ 代表取締役社長 退任
株式会社北海道フットボールクラブ（現、株式会社コンサドーレ）代表取締役社長
2015年　公益社団法人日本プロサッカーリーグ（Jリーグ）理事（非常勤）
2022年　株式会社コンサドーレ 代表取締役会長
2022年3月　同社会長 退任
公益社団法人 日本プロサッカーリーグチェアマン（理事長）
公益財団法人日本サッカー協会 副会長

(4)林義規（はやし よしのり）／67歳
現　職：公益財団法人日本サッカー協会 副会長
生年月日：1954年5月5日
出身地：東京都江東区
学　歴：1977年3月　早稲田大学教育学部教育学科 卒業
職　歴：1977年4月～2020年3月　暁星学園中学高校 教諭
スポーツ団体役員歴　：
1986年4月～1986年10月 東京都国体選抜 コーチ
1987年4月～1987年10月 東京都国体選抜 監督
1995年1月～1995年4月　日本高校選抜 監督
2002年4月～2009年3月　全国高体連サッカー専門部 技術委員長
2006年4月　早稲田大学ア式蹴球部 強化委員長
2010年4月～2014年6月　東京都サッカー協会 理事
2012年6月～2020年3月　日本サッカー協会 理事
2014年6月～2018年5月　東京都サッカー協会 副会長
2016年6月　日本サッカー協会 競技会委員長
2018年6月～　東京都サッカー協会 会長
関東サッカー協会 会長
2020年3月～　日本サッカー協会 副会長
サッカー歴：1964年4月～1973年3月　暁星小学校・中学校・高校サッカー部
1973年4月～1977年3月　早稲田大学ア式蹴球部
1977年4月～1979年3月　東京都教員団サッカーチーム

(5)岡島喜久子（おかじま きくこ）／63歳
現　職：公益財団法人日本サッカー協会 副会長
生年月日：1958年5月5日
出身地：東京都千代田区
学　歴：1983年3月　早稲田大学商学部 卒業
職　歴：1983年4月～　ケミカルバンク（現、JPMorgan Chase）東京支店
1984年～1985年　ケミカルバンク（同上）ニューヨーク本社 審査研修
1985年～1988年3月　ケミカルバンク（同上）東京支店 審査部 クレジットアナリスト
1988年3月～1989年10月 国際証券（現、三菱UFJ モルガン・スタンレー証券）外国法人部 調査役
1989年10月～1991年6月 Kokusai Singapore Merchant Bank, Vice President
1991年7月～1999年11月 First National Bank of Maryland,（現、M&T Bank）International Banking Division, Vice President
1999年11月～2003年4月 Riggs Bank（現、PNC Bank）Embassy Banking Division, Manager - Asia Region
2003年4月～2019年11月 Merrill Lynch, VP, Wealth Management Advisor
2020年7月～2021年6月　一般社団法人日本女子プロサッカーリーグ 代表理事（チェア）
2021年7月～現在　公益社団法人日本女子プロサッカーリーグ 代表理事（チェア）
スポーツ団体役員歴　：
1979年～1988年　日本女子サッカー連盟 理事
1974年4月～1977年3月　日本女子サッカー連盟 事務局長
1983年～1984年　日本女子代表（役員）
2020年7月～2021年6月　一般社団法人日本女子プロサッカーリーグ 代表理事（チェア）
2021年1月～現在　公益財団法人日本サッカー協会 副会長
2021年6月～現在　一般社団法人日本トップリーグ連携機構 理事
2021年7月～現在　公益社団法人日本女子プロサッカーリーグ 代表理事（チェア）
サッカー歴：1972年4月～1974年3月　東京学芸大学付属竹早中学校サッカー部
1974年4月～1977年3月　東京学芸大学付属高校サッカー部
1972年10月～1986年4月 FC ジンナン
1986年4月～1989年9月　日産FC レディース
日本代表歴：1982年　日本女子代表

【専務理事】
(6)須原清貴（すはら きよたか）／55歳
現　職：公益財団法人日本サッカー協会 専務理事
生年月日：1966年6月18日
出身地：岐阜県
学　歴：1991年3月　慶応義塾大学 法学部法律学科 卒業
2000年5月　米国 Harvard Business School（MBA）卒業
職　歴：1991年4月～2001年3月　住友商事株式会社（貴金属ディーリング部、米国住友商事貴金属部、非鉄金属部、映像メディア事業部）
2001年4月～2002年12月 ボストンコンサルティンググループ 東京事務所 コンサルタント
2003年1月～2004年6月　CFOカレッジ株式会社 代表取締役社長
2004年7月～2008年12月 株式会社GABA 取締役副社長 兼 最高執行責任者（COO）
2009年3月～2014年12月 キンコーズ・ジャパン株式会社 代表取締役社長 兼 最高経営責任者（CEO）
2015年1月～2015年9月　ベネッセホールディングス株式会社 国内英語カンパニー長
ベルリッツ・ジャパン株式会社 代表取締役社長
2016年3月～2018年3月　株式会社ドミノ・ピザ ジャパン 代表取締役 兼 最高執行責任者（COO）
2018年3月～　公益財団法人日本サッカー協会専務理事

五ページ左上へ続く

スポーツ団体役員歴 ：
2014年4月～ たまがわリーグ（東京都世田谷区）レフェリートレセンチーフアドバイザー
2016年3月～2018年3月 公益財団法人日本サッカー協会 理事
2018年3月～ 公益財団法人日本サッカー協会 財務委員会 委員長
2018年3月～2022年3月 公益社団法人日本プロサッカーリーグ理事
2018年3月～ 株式会社Jリーグ 取締役
2018年6月～ 公益財団法人日本オリンピック委員会 評議員
公益財団法人三菱養和会 評議員
2019年7月～ アジアサッカー連盟 競技会委員会 委員
サッカー歴：2009年4月～2011年3月 瀬田サッカークラブ（東京都世田谷区）代表
2014年4月～現在 3級審判インストラクター

【常務理事】
(7)池田浩（いけだ ひろし）／60歳
現　　職：順天堂大学医学部整形外科 准教授、順天堂大学医学部附属順天堂医院整形外科 先任准教授、（公財）日本サッカー協会理事・医学委員長
職　　歴：順天堂大学医学部等
サッカー歴：日本代表チームドクター等

(8)三好豊（みよし ゆたか）／53歳
現　　職：森・濱田松本法律事務所パートナー弁護士、（公財）日本サッカー協会理事・法務委員長、（公社）日本女子プロサッカーリーグ（WEリーグ）裁定委員会委員、国際サッカー連盟ガバナンス・監査・コンプライアンス委員会委員、アジアサッカー連盟法務委員会委員、東アジアサッカー連盟法務委員会委員、米国ニューヨーク州弁護士
職　　歴：森・濱田松本法律事務所等

【理事】
(9)石井肇（いしい はじめ）／62歳
現　　職：（公財）北海道サッカー協会専務理事、（公財）日本サッカー協会理事、ノルディーア北海道 ゼネラルアドバイザー
職　　歴：日産自動車（株）、大塚製薬（株）、Jリーグ監督、（公財）北海道サッカー協会等
サッカー歴：日産自動車、大塚製薬（選手・監督）、コンサドーレ札幌監督、ベガルタ仙台監督、ノルディーア北海道監督等

(10)橋本善一郎（はしもと ぜんいちろう）／63歳
現　　職：（一財）福島県サッカー協会副会長兼専務理事
職　　歴：福島県立高校教諭、（一財）福島県サッカー協会
サッカー歴：福島教員団・福島FC

(11)河瀬淳（かわせ あつし）／60歳
現　　職：（公社）千葉県サッカー協会専務理事、（一社）関東サッカー協会理事
職　　歴：千葉市職員、（公社）千葉県サッカー協会
サッカー歴：千葉市役所サッカー部

(12)中澤雄一（なかざわ ゆういち）／56歳
現　　職：新潟県立高校教諭、（公財）日本サッカー協会評議員、（一社）北信越サッカー協会副会長、（一社）新潟県サッカー協会副会長
職　　歴：新潟県立高校教諭
サッカー歴：新潟県教員チーム、2級審判員、2級審判インストラクター、JFAマッチコミッショナー、JFAウェルフェアオフィサージェネラル

(13)尾関孝昭（おぜき たかあき）／64歳
現　　職：（一財）岐阜県サッカー協会専務理事、（一社）東海サッカー協会理事
職　　歴：岐阜県立高校教諭、（一財）岐阜県サッカー協会
サッカー歴：岐阜教員サッカークラブ

(14)山下和良（やました かずよし）／63歳
現　　職：（一社）京都府サッカー協会副会長兼専務理事、（一社）関西サッカー協会常務理事、関西社会人サッカー連盟理事長、（一財）全国社会人サッカー連盟理事
職　　歴：新京都信販（株）、ニッセンクレジットサービス（株）、（一社）京都府サッカー協会
サッカー歴：京都府1部リーグ選手・監督、京都府社会人連盟選手

(15)宗政潤一郎（むねまさ じゅんいちろう）／64歳
現　　職：（公財）広島県サッカー協会副会長兼専務理事、（公財）日本サッカー協会理事、（一社）中国サッカー協会専務理事
職　　歴：東洋工業（株）、MUNE広島フットボールクラブ代表、（公財）広島県サッカー協会等
サッカー歴：マツダサッカークラブ選手・監督、広島四十雀サッカークラブ、広島県国体成年男子監督、MUNE 広島フットボールクラブ監督

(16)秋森学（あきもり まなぶ）／62歳
現　　職：（一社）高知県サッカー協会副会長兼専務理事
職　　歴：高知県立高校教諭・校長、（一社）高知県サッカー協会
サッカー歴：高知教員サッカークラブ、高知龍馬クラブ

(17)竹田孝（たけだ たかし）／62歳
現　　職：福岡市立高校教諭、（一社）九州サッカー協会専務理事、（公財）日本サッカー協会理事
職　　歴：福岡市立高校教諭
サッカー歴：福岡教員サッカークラブ

(18)髙田春奈（たかた はるな）／44歳
現　　職：（公社）日本プロサッカーリーグ理事
職　　歴：ソニー（株）、（株）ジャパネットソーシャルキャピタル、（株）ジャパネットホールディングス、（株）V・ファーレン長崎等
サッカー歴：（株）V・ファーレン長崎 前代表取締役社長

(19)反町康治（そりまち やすはる）／58歳
現　　職：（公財）日本サッカー協会理事・技術委員長
職　　歴：全日本空輸（株）、Jリーグ選手・監督等
サッカー歴：全日空横浜サッカークラブ、横浜フリューゲルス、ベルマーレ平塚、日本代表選手

(20)佐々木則夫（ささき のりお）／63歳
現　　職：（公財）日本サッカー協会理事・女子委員長、十文字学園女子大学副学長、大宮アルディージャシニアアドバイザー
職　　歴：日本電信電話公社、エヌ・ティ・ティスポーツコミュニティ（株）、（公財）日本サッカー協会、十文字学園女子大学
サッカー歴：電電関東/NTT関東サッカー部、大宮アルディージャ監督、なでしこジャパン監督等

次ページ左上へ続く

(21)今井純子（いまい じゅんこ）／56歳
現　　職：（公財）日本サッカー協会理事・女子委員会副委員長、アジアサッカー連盟女子委員会委員、（公財）日本スポーツ協会理事
職　　歴：（公財）日本サッカー協会等
サッカー歴：筑波大学女子サッカークラブ、Portobello Football Club（アイルランド）、F.C.PAF

(22)扇谷健司（おおぎや けんじ）／51歳
現　　職：（公財）日本サッカー協会審判委員会副委員長
職　　歴：（株）湘南ベルマーレ、（株）シミズオクト、スペシャルレフェリー、プロフェッショナルレフェリー
サッカー歴：サッカー1級審判員、国際審判員

(23)山岸佐知子（やまぎし さちこ）／48歳
現　　職：（公財）日本サッカー協会理事・審判委員会副委員長、（公財）千葉県サッカー協会理事
職　　歴：国立スポーツ科学センター、東京大学附属病院、（公財）日本サッカー協会等
サッカー歴：女子国際主審、サッカー女子1級審判員、サッカー1級審判員

(24)金田喜稔（かねだ のぶとし）／64歳
現　　職：サッカー解説者、（一社）日本サッカー名蹴会会長、JFAシニアサッカーアンバサダー
職　　歴：日産自動車（株）
サッカー歴：日産自動車サッカー部、日本代表選手、（財）日本サッカー協会強化委員

(25)中野雄二（なかの ゆうじ）／59歳
現　　職：流通経済大学教授、（公財）日本サッカー協会技術委員、（一財）全日本大学サッカー連盟副理事長・技術委員長、関東大学サッカー連盟理事長、（一社）関東サッカー協会理事、（公財）茨城県サッカー協会理事
職　　歴：プリマハムFC、水戸ホーリーホック、流通経済大学
サッカー歴：プリマハムFC監督、水戸ホーリーホック監督、流通経済大学サッカー部監督

(26)宮本恒靖（みやもと つねやす）／45歳
現　　職：プロサッカー指導者、サッカー解説者、（公社）日本プロサッカーリーグ理事
職　　歴：Jリーグ選手・監督等
サッカー歴：ガンバ大阪、レッドブル・ザルツブルグ、ヴィッセル神戸、日本代表選手、FIFAマスター

(27)山口香（やまぐち かおり）／57歳
現　　職：筑波大学体育系教授、（公財）日本サッカー協会理事、（公財）日本バレーボール協会理事、東京都教育委員会委員、コナミホールディングス（株）社外取締役
職　　歴：武蔵大学人文学部教授、筑波大学体育系教授等
スポーツ歴：日本代表女子柔道選手、1988年ソウルオリンピック銅メダル、1984年ウィーン世界柔道選手権大会金メダル等

(28)日比野暢子（ひびの のぶこ）／55歳
現　　職：桐蔭横浜大学スポーツ健康政策学部教授、ウースター大学スポーツ・エクササイズ学部名誉教授、（一社）日本パラリンピアンズ協会アドバイザー、日本体育スポーツ政策学会理事、（一社）日本障がい者サッカー連盟理事、（一社）日本車いすバスケットボール連盟理事、（公財）日本パラスポーツ協会理事、日本スポーツ精神医学会理事、（公財）東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会理事、Para Football財団 Steering Board Member
職　　歴：桐蔭横浜大学、ウースター大学

2.監事予定者
(1)佐藤太郎（さとう たろう）／64歳
現　　職：（公財）日本サッカー協会監事
職　　歴：パイオニア（株）、モンデリーズ・ジャパン（株）
サッカー歴：パイオニア川越工場サッカー部、墨東60

(2)西本強（にしもと つよし）／48歳
現　　職：日比谷パーク法律事務所パートナー弁護士、（公財）日本サッカー協会監事、米国ニューヨーク州弁護士
職　　歴：西村総合法律事務所、日比谷パーク法律事務所等

(3)福田雅（ふくだ まさし）／46歳
現　　職：みずほ証券（株）、（公財）日本サッカー協会監事、（株）東京武蔵野ユナイテッドスポーツクラブ代表取締役、（一社）CLUB LB&BRB代表理事、（一社）東大LB会理事、（公財）東京都サッカー協会理事、（一財）関東大学サッカー連盟監事、公認会計士
職　　歴：PwC税理士法人、日興シティグループ証券（株）、みずほ証券（株）等
サッカー歴：東京大学運動会ア式蹴球部監督・女子監督、東京ユナイテッドFC監督、文京LBレディース監督、東京都国体成年男子監督

一般社団法人日本フットサルトップリーグ加盟

2021年12月28日に設立された一般社団法人日本フットサルトップリーグについて理事会において審査し、必要な要件を満たしていると認められるため、加盟団体（各種の連盟）として認定する。
なお、加盟団体規則第14条第4項の規定に基づき、評議員会において特別の利害関係を有する評議員を除く評議員の3分の2以上に当たる多数をもって決議されなければならない。

<参考>
加盟団体規則／第4節 各種の連盟及び関連団体（抜粋）
第14条〔新たな各種の連盟及び関連団体の認定〕
1. 本協会は、必要に応じ、以下の全ての要件を満たす団体を、第12条に定める各種の連盟として新たに認定することができる。
(1)日本サッカー界における特定のカテゴリーにおける唯一の統括団体であること
(2)独立性が担保されていること

左ページ左上へ続く

(3)法人格を取得していること
(4)目的及び事業内容が、サッカーの普及及び発展に資すると認められること
(5)所属するチーム及び選手が本協会に登録していること
(6)各種の規程及び書類が整備され、事務局に備え付けられていること
(7)全国的規模の大会を定期的に主催すること
(8)当該団体が実施する大会において競技規則の履行が義務付けられていること
(9)当該団体が実施する大会において有資格審判の割り当てを義務付けていること
(10)当該団体が実施する大会において施設基準規程を含めた大会実施要項が整備されていること
(11)当該団体に加盟するチームが9地域に存在すること(FIFAが、サッカー競技の一形態として一定のカテゴリーを形成すると認めている競技に関する唯一の統括団体においてはこの限りではない。)

司法機関(規律委員会、裁定委員会、不服申立委員会)の委員選任

3月27日(日)定時評議員会終結の時をもって司法機関(規律委員会、裁定委員会、不服申立委員会)の委員が任期満了となるため、下記の各候補者を委員として選任する。

司法機関メンバー(2022年3月27日~)
任期:4年　※は新任

①規律委員会

役職	名前	備考
委員長	高山崇彦	弁護士
委員	武智克典※	弁護士
委員	新保勇一※	弁護士
委員	大下国忠	一般社団法人山口県サッカー協会規律委員長
委員	石井茂己	Jリーグ規律委員長

②裁定委員会

役職	名前	備考
委員長	山田秀雄	弁護士
委員	早稲本和徳※	弁護士
委員	小西隆文※	弁護士
委員	根本清史※	公益財団法人茨城県サッカー協会規律委員長

③不服申立委員会

役職	名前	備考
委員長	中島馨※	弁護士
副委員長	小池一利※	弁護士
委員	塩田尚也※	弁護士
委員	渡部知之	一般社団法人愛媛県サッカー協会規律委員長
委員	鈴木英穂	公益財団法人日本陸上競技連盟事務局長

(参考)司法機関組織運営規則の関連条項

◆規律委員会

(規律委員会)

第3条　規律委員会は、本規則等に対する違反行為のうち、競技及び競技会に関するものについて調査、審議し、懲罰を決定する。

(規律委員会の組織及び委員)

第4条　規律委員会は、委員長及び若干名の委員をもって構成する。

2 委員長は法律家(弁護士、検察官、裁判官、法律学の教授・准教授又はそれに準ずる者)でなければならない。

3 委員は、サッカーに関する経験と知識又は学識経験を有する者で、公正な判断をすることができる者とする。

4 委員長及び委員は、評議員会の決議によって選任する。

5 委員長及び委員は、本協会の評議員、理事、監事、職員又は各種委員会、裁定委員会若しくは不服申立委員会の委員長若しくは委員を兼ねることができない。

6 委員長及び委員は非常勤とする。

(規律委員会の委員の任期)

第5条　規律委員会の委員長及び委員の任期は、選任後4年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時までとし、再任を妨げない。

2 増員又は前任者の任期満了前に前任者に代わり選任された委員の任期は、前任者又は現任者の残任期間とする。

3 委員は、その任期満了後においても後任者が就任するまでは、なおその職務を行わなければならない。

◆裁定委員会

(裁定委員会)

第7条　裁定委員会は、本規則等に対する違反行為のうち、競技及び競技会に関するもの以外の違反行為について、調査、審議し、懲罰を決定する。

2 前項にかかわらず、本規則等に対する違反行為のうち、ドーピング禁止に関する違反行為に対する懲罰については、日本アンチ・ドーピング規律パネルが決定する。

(裁定委員会の組織及び委員)

第8条　裁定委員会は、委員長及び若干名の委員をもって構成する。

2 委員長は法律家(弁護士、検察官、裁判官、法律学の教授・准教授又はそれに準ずる者)でなければならない。

3 委員は、サッカーに関する経験と知識又は学識経験を有する者で、公正な判断をすることができる者とする。

4 委員長及び委員は、評議員会の決議によって選任する。

5 委員長及び委員は、本協会の評議員、理事、監事、職員又は各種委員会、規律委員会若しくは不服申立委員会の委員長若しくは委員を兼ねることができない。

6 委員長及び委員は非常勤とする。

(裁定委員会の委員の任期)

第9条　裁定委員会の委員長及び委員の任期は、選任後4年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時までとし、再任を妨げない。

2 増員又は前任者の任期満了前に前任者に代わり選任された委員の任期は、前任者又は現任者の残任期間とする。

3 委員は、その任期満了後においても後任者が就任するまでは、なおその職務を行わなければならない。

◆不服申立委員会

(不服申立委員会)

第11条　不服申立委員会は、本協会の規律委員会、裁定委員会又は都道府県サッカー協会、地域サッカー協会、各種連盟及びJリーグ(以下、「都道府県協会等」という。)の規律委員会、裁定委員会及びそれらに類する機関(以下、「都道府県協会等の司法機関」という。)において決定された懲罰に関して、当事者からの不服申立に基づき、これを再審議し、新たに決定を下す。

(不服申立委員会の組織及び委員)

第12条　不服申立委員会は、委員長、副委員長及び若干名の委員をもって構成する。

2 委員長及び副委員長は法律家(弁護士、検察官、裁判官、法律学の教授・准教授又はそれに準ずる者)でなければならない。

3 委員は、サッカーに関する経験と知識を有し、又は学識経験を有する者で、公正な判断をすることができるものとする。

次ページ左上へ続く

会議レポート

4 委員長、副委員長及び委員は、評議員会の決議によって選任する。

5 委員長、副委員長及び委員は、本協会の評議員、理事、監事、職員又は各種委員会、規律委員会若しくは裁定委員会の委員長若しくは委員を兼ねることができない。

6 委員長、副委員長及び委員は非常勤とする。

（不服申立委員会の委員の任期）

第13条 不服申立委員会の委員長、副委員長及び委員の任期は、選任後4年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時までとし、再任を妨げない。

2 増員又は前任者の任期満了前に前任者に代わり選任された委員の任期は、前任者又は現任者の残任期間とする。

3 委員は、その任期満了後においても後任者が就任するまでは、なおその職務を行わなければならない。

報告事項

1 理事会で選定・選出する役員等予定者 …………………………… P38
2 2021年度 事業報告・決算 …………………………………… P39

理事会で選定・選出する役員等予定者

役員等予定者について、それぞれ下記のリスト掲載者をそれぞれ候補者として理事会にて選出する。 ※は新任、役職変更など

(1)会長、副会長、専務理事、常務理事予定者 ※32～36ページ参照

(2)各委員会委員長予定者

(3)名誉役員予定者

【常設委員会委員長予定者】

No.	委員会名	名前
1	国際	宮本恒靖※
2	競技会	林義規
3	財務	須原清貴
4	技術	反町康治
5	女子	佐々木則夫
6	審判	扇谷健司※
7	フットサル	北澤豪
8	医学	池田浩
9	法務	三好豊

【各委員会委員長予定者】

No.	委員会名		名前
1	専門委員会	施設	徳田康
2		リスペクト・フェアプレー	今井純子※
3		殿堂	大仁邦彌
4		コンプライアンス	須原清貴
5		社会貢献	日比野克彦
6		アスリート	川口能活
7		表彰	植田昌利※
8	特別委員会	復興支援	巻誠一郎※
9		部活動推進	池田洋二
10	大会実施委員会	天皇杯	中野雄二※
11		国体	今井純子※

【名誉役員予定者】

No.	名前	現役職	新役職
1	高円宮妃殿下	名誉総裁	名誉総裁
2	大仁邦彌	最高顧問	最高顧問
3	川淵三郎	相談役	相談役
4	小倉純二	相談役	相談役
5	大東和美	顧問	顧問
6	馬渕明子	顧問	顧問
7	赤須陽太郎	参与	参与
8	綾部美知枝	参与	退任(3任期)
9	岩城健	参与	参与
10	上田栄治	参与	参与
11	大倉健史	参与	退任（3任期）
12	岡島正明	参与	参与
13	岡田武史	参与	副会長就任
14	小川勇二	参与	退任（3任期）
15	佐々木一樹	参与	退任（3任期）
16	瀧井敏郎	参与	退任（3任期）
17	手嶋秀人	参与	退任（3任期）
18	中西哲生	参与	退任（3任期）
19	中野幸夫	参与	退任（3任期）
20	野田朱美	参与	退任（3任期）
21	原秋彦	参与	参与
22	藤縄信夫	参与	参与
23	松崎康弘	参与	参与
24	村井満	副会長	顧問
25	岩上和道	副会長	顧問
26	植田昌利	常務理事	参与
27	原博実	常務理事	参与
28	池田洋二	常務理事	参与
29	北澤豪	理事	参与
30	日比野克彦	理事	参与
31	鈴木寛	理事	参与

【退任予定者】

No.	名前	現役職	退任事由
1	綾部美知枝	参与	任期満了
2	大倉健史	参与	任期満了
3	岡田武史	参与	副会長就任
4	小川勇二	参与	任期満了
5	佐々木一樹	参与	任期満了
6	瀧井敏郎	参与	任期満了
7	手嶋秀人	参与	任期満了
8	中西哲生	参与	任期満了
9	中野幸夫	参与	任期満了
10	野田朱美	参与	任期満了

■2021年度　事業報告

2021年度の事業報告が行われた。詳細はJFA公式ウェブサイト参照。

■2021年度　決算

正味財産増減計算書内訳表

令和3年／2021年1月1日から令和2年／2021年12月31日まで

単位：円

科目	公益目的事業会計	収益事業等会計			法人会計	内部取引等消去	合計
		自己所有の建物の賃貸事業	登録・オンラインシステム事業	小計			
Ⅰ 一般正味財産増減の部							
1 経常増減の部							
(1) 経常収益							
① 基本財産運用益	4,257,814						4,257,814
② 登録料			1,941,598,237	1,941,598,237			1,941,598,237
③ 事業収益	13,797,069,631	23,949,248	215,192,432	239,141,680			14,036,211,311
<代表関連事業収益>	1,703,000,253						1,703,000,253
<競技会開催事業収益>	1,654,865,809						1,654,865,809
<指導普及事業収益>	534,671,596						534,671,596
<JFAフットボールセンター事業収益>	6,554,510	23,004,866		23,004,866			29,559,376
<機関誌収益>	132,041,885						132,041,885
<事業関連収益>	9,609,437,265	944,382		944,382			9,610,381,647
<競技会収益>	65,582						65,582
<社会貢献事業収益>	137,181,410						137,181,410
<日本サッカーミュージアム運営事業収益>	19,251,321						19,251,321
<登録事業収益>			215,192,432	215,192,432			215,192,432
<サッカーファミリー復興支援収益>							
④ 受取補助金等	1,280,671,579						1,280,671,579
⑤ 雑収益	30,287,193	163,101,321	23,825,729	186,927,050			217,214,243
経常収益計	15,112,286,217	187,050,569	2,180,616,398	2,367,666,967	0	0	17,479,953,184
(2) 経常費用							
① 事業費	14,823,138,939	20,323,955	1,338,859,698	1,359,183,653	0		16,182,322,592
<代表関連事業費>	4,331,421,088						4,331,421,088
<競技会開催事業費>	3,091,160,460						3,091,160,460
<指導普及事業費>	5,015,770,371		712,448,058	712,448,058			5,728,218,429
<JFAフットボールセンター事業費>	145,559,295	19,833,955		19,833,955			165,393,250
<機関誌事業費>	105,680,774						105,680,774
<事業関連費>	1,908,385,233	490,000		490,000			1,908,875,233
<社会貢献事業費>	123,469,828						123,469,828
<日本サッカーミュージアム運営事業費>	27,248,646						27,248,646
<登録事業費>			553,175,930	553,175,930			553,175,930
<オンラインシステム事業費>			73,235,710	73,235,710			73,235,710
② 管理費	2,924,718,305	121,553,263	114,312,049	235,865,312	354,091,650		3,514,675,267
経常費用計	17,747,857,244	141,877,218	1,453,171,747	1,595,048,965	354,091,650	0	19,696,997,859
当期経常増減額	△2,635,571,027	45,173,351	727,444,651	772,618,002	△354,091,650	0	△2,217,044,675
2 経常外増減の部							
(1) 経常外収益							
① 賠償金	180,559,866						180,559,866
② 保険返戻収入	316,595,897						316,595,897
経常外収益計	497,155,763	0	0	0	0	0	497,155,763
(2) 経常外費用							
① 寄附金					25,757,000		25,757,000
② 貯蔵品評価損	4,629,451						4,629,451
経常外費用計	4,629,451	0	0	0	25,757,000	0	30,386,451
当期経常外増減額	492,526,312	0	0	0	△25,757,000	0	466,769,312
他会計振替前当期一般正味財産増減額	△2,143,044,715	45,173,351	727,444,651	772,618,002	△379,848,650	0	△1,750,275,363
他会計振替額	392,997,573	△45,173,351	△727,672,872	△772,846,223	379,848,650		
税引前当期一般正味財産増減額	△1,750,047,142	0	△228,221	△228,221	0		△1,750,275,363
法人税、住民税及び事業税		478,600		478,600			478,600
当期一般正味財産増減額	△1,750,047,142	△478,600	△228,221	△706,821	0	0	△1,750,753,963
一般正味財産期首残高	24,322,986,345	49,228,763	834,765,472	883,994,235	0	0	25,206,980,580
一般正味財産期末残高	22,572,939,203	48,750,163	834,537,251	883,287,414	0	0	23,456,226,617
Ⅱ 指定正味財産増減の部							
① 受取寄附金	0						
② 一般正味財産への振替額	0						
当期指定正味財産増減額	0						0
指定正味財産期首残高	0						
指定正味財産期末残高	0						0
Ⅲ 正味財産期末残高	22,572,939,203	48,750,163	834,537,251	883,287,414	0	0	23,456,226,617

2021年度の決算は、正味財産ベースで収入が179.8億円（前年比+31.3億円）、支出は197.3億円（前年比+63.6億円）となった。2020年度に比べると、一定の事業活動を回復できたため支出が増えたこと、コロナ禍で活動するための追加支出も大きかったことなどから、正味財産増減では17.5億円（前年比-32.3億円）の赤字決算に。しかしながら、過年度において特定資産を準備しており、一括補助金に10.8億円、施設整備助成事業に3.7億円、その他合わせて19.1億円の特定資産を当初の目的通りに充当できているため、財政状態の短期的な心配はない。

公益財団法人日本サッカー協会　2022年度第5回理事会

公式URL　https://www.jfa.jp/

日本サッカー協会（JFA）は2022年3月27日、2022年度第5回理事会をオンラインで開催した。決議された事項は、下記の通り。

決議事項

1　役員等選定 ………… P40
2　理事および業務執行理事選定 ………… P40
3　副会長の会長職務代行順位決定 ………… P40
4　会長補佐 選定 ………… P40
5　重要な使用人選任 ………… P40

役員等選定

第3回理事会においてそれぞれ右記の予定者として承認されたリスト掲載者をそれぞれ選定する。

※詳細は32〜38ページ

（1）会長・副会長・専務理事・常務理事
（2）各委員会委員長
（3）名誉役員

理事および業務執行理事選定

代表理事および業務執行理事を、定款第25条第3項および第4項の規定に基づき、下記の通り選定する。

（1）代表理事
会長　田嶋幸三

（2）業務執行理事
副会長　　岡田武史、野々村芳和、林義規、岡島喜久子
専務理事　須原清貴

副会長の会長職務代行順位決定

「理事及び監事の職務権限規則」第8条第2項に基づく副会長の会長職務代行順位を下記の通りとする。

第1順位　岡田武史
第2順位　野々村芳和
第3順位　林義規
第4順位　岡島喜久子

【参考】理事及び監事の職務権限規則
（副会長）
第8条 副会長の職務権限は、次のとおりとする。
（1）会長を補佐し、この法人の業務を執行する。
（2）会長が欠けたとき又は会長に事故があるときは、理事会が予め決定した順序によって会長の業務執行に係る職務を代行する。
（3）3カ月に1回以上、自己の職務の執行の状況を理事会に報告する。

会長補佐 選定

宮本恒靖理事を会長補佐に選定する。

<職務>
●常務理事会に出席し意見を具申
●その他本協会の運営全般に関し、会長の補佐

<委嘱期間>
2022年3月27日から2024年3月に開催される定時評議員会終結の時まで

重要な使用人選任

事務総長は、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律」第90条（理事会の権限等）第4項第3号に規定する「重要な使用人」に該当するため、本理事会において右記の通り選任する。

事務総長：湯川和之（重任）

サッカーなら、どんな障害も超えられる。

日本の人口の7%は障がい者です。その障がいは多様で、ひとつとして同じ在り方はありません。
障がいがあっても、いつでも、どこでも、サッカーを心から楽しめる環境を。
彼ら彼女らが社会にある"障害"を超えていくきっかけづくりやサポートも、サッカーならできる。
私たちはそう信じて、日本障がい者サッカー連盟を推進していきます。

障がい者サッカー7団体は、日本サッカー協会と連携し、サッカー界の発展のために取り組みます。

切断障がい　脳性麻痺　精神障がい　知的障がい
電動車椅子　視覚障がい　聴覚障がい

日本アンプティサッカー協会

アンプティサッカーとは、足や腕に切断障がいのある人が行う7人制サッカーです。日常生活で使用する義足・義手を外してロフストランドクラッチで体を支えながらプレーします。

日本ソーシャルフットボール協会

ソーシャルフットボールとは、精神障がいのある人が行うフットサルやサッカーです。基本ルールは健常者と同じで、フットサルでは女子選手を含む場合に最大6人がコートでプレーするなど、一部特別ルールを採用しています。

日本知的障がい者サッカー連盟

知的障がい者サッカーとは、知的障がいのある人が行う11人制サッカーです。フットサルも行っています。ルールは健常者のサッカー・フットサルと同じで、プレーヤーの障がいの度合いにより試合時間が異なります。

日本電動車椅子サッカー協会

国際的にはパワーチェアーフットボールと呼ばれ、自立歩行が困難な重度の障がいのある人が多く行う4人制サッカーです。手やアゴでジョイスティック型のコントローラーを操り、電動車椅子でプレーします。

日本CPサッカー協会

CPサッカーとは、脳の損傷によって運動障害がある人が行うサッカーです。Cerebral（脳からの）Palsy（麻痺）の頭文字をとり、そう呼ばれています。

日本ブラインドサッカー協会

ブラインドサッカーとは、視覚障がいのある人が行う5人制サッカーです。転がると音が出るボールを使用し、まわりの声を頼りにプレーします。2004年からパラリンピックの正式種目です。弱視者がプレーするロービジョンフットサルもあります。

日本ろう者サッカー協会

デフサッカーと呼ばれる、聴覚障がいのある人が行うサッカーです。サッカーとフットサルがあり、審判は笛だけではなくフラッグも使用するなど、視覚情報を頼りにプレーします。

一般社団法人 日本障がい者サッカー連盟

公式ユニフォームサプライヤー　パートナー

adidas　住友ベークライト　東京海上日動

支援団体

日本サッカー後援会

Bewith CUSTOMER INSIGHT CENTER　MSOL　三菱商事

Data Box データボックス

各カテゴリー代表・選抜の活動や日本サッカー協会が主催する各種大会・リーグなどの大会記録などを掲載します。また、FIFA(国際サッカー連盟)、AFC(アジアサッカー連盟)など日本サッカー協会が加盟する国際団体が主催、日本サッカー界と関係のある大会の記録も随時、報告します。

① SAMURAI BLUE　アジア最終予選(Road to Qatar)
② U-21日本代表候補　トレーニングキャンプ
③ U-19日本代表候補　トレーニングキャンプ
④ U-17日本代表　第4回J-VILLAGE CUP U18
⑤ U-16日本代表候補　TOKINOSUMIKA CHALLENGE
⑥ サッカーe日本代表
FIFAe Nations Online Qualifiers Play-Ins　第3節
⑦ 日本高校サッカー選抜　第37回静岡県ヤングサッカーフェスティバル／第36回デンソーカップチャレンジサッカー福島大会
⑧ U-17日本高校サッカー選抜　トレーニングキャンプ
⑨ 第36回デンソーカップチャレンジサッカー 福島大会
⑩ JFA 第33回O-40女子サッカーオープン大会
⑪ JFA 第27回全日本フットサル選手権大会
⑫ JFA 第18回全日本女子フットサル選手権大会

※NCS：ナショナルコーチングスタッフ、JC：JFAコーチ／ VAR：ビデオアシスタントレフェリー、AVAR：アシスタントビデオアシスタントレフェリー

SAMURAI BLUE　アジア最終予選(Road to Qatar)

<スタッフ>

○監督:森保一(NCS)　○コーチ:横内昭展(NCS)齊藤俊秀(NCS)上野優作(NCS)　○GKコーチ:下田崇(NCS)　○フィジカルコーチ:松本良一(NCS)　○テクニカルスタッフ:中下征樹(JFAテクニカルハウス)

<選手>

Pos.	名前	所属	Pos.	名前	所属
GK	川島永嗣	RCストラスブール(FRA)	MF/FW	伊東純也	KRCヘンク(BEL)
	権田修一	清水エスパルス		浅野拓磨	VfLボーフム(GER)
	シュミット・ダニエル	シントトロイデンVV(BEL)		南野拓実	リバプールFC(ENG)
	谷晃生	湘南ベルマーレ		守田英正	CDサンタ・クララ(POR)
DF	長友佑都	FC東京		三笘薫	ユニオン･サンジロワーズ(BEL)
	吉田麻也	サンプドリア(ITA)		前田大然※3	セルティック(SCO)
	佐々木翔	サンフレッチェ広島		旗手怜央	セルティック(SCO)
	酒井宏樹※1	浦和レッズ		上田綺世	鹿島アントラーズ
	谷口彰悟	川崎フロンターレ		田中碧	フォルトゥナ･デュッセルドルフ(GER)
	中谷進之介※2	名古屋グランパス		久保建英	RCDマジョルカ(ESP)
	山根視来	川崎フロンターレ		林大地*※2	シントトロイデンVV(BEL)
	植田直通	ニーム・オリンピック(FRA)			
	板倉滉※4	シャルケ04(GER)			
	中山雄太	PECズヴォレ(NED)			
MF/FW	大迫勇也※1	ヴィッセル神戸			
	原口元気	1.FCウニオン・ベルリン(GER)			
	柴崎岳	CDレガネス(ESP)			
	遠藤航※4	VfBシュツットガルト(GER)			

FRA：フランス、BEL：ベルギー、ITA：イタリア、GER：ドイツ、NED：オランダ、ESP：スペイン、ENG：イングランド、POR：ポルトガル、SCO：スコットランド
*：初招集
※1：ケガのため不参加
※2：追加招集
※3：コンディション不良のため不参加
※4：コンディション調整のため、途中離脱

<スケジュール>

3月19日　集合、羽田発
20日　シドニー着、トレーニング(Netstrata Jubilee Stadium)
21日　トレーニング(Netstrata Jubilee Stadium)
22日　トレーニング(Netstrata Jubilee Stadium)
23日　公式トレーニング(Stadium Australia)
24日　アジア最終予選(Road to Qatar) vs オーストラリア代表(Stadium Australia)
25日　シドニー発、成田着
26日　トレーニング(高円宮記念JFA夢フィールド)
27日　トレーニング(高円宮記念JFA夢フィールド)
28日　移動、公式トレーニング(埼玉スタジアム２００２)
29日　アジア最終予選(Road to Qatar) vs ベトナム代表(埼玉スタジアム２００２)
解散

■ベトナム代表　来日メンバー

Pos.	名前	所属	Pos.	名前	所属
GK	ブイ・タン・チュオン	ハノイ	DF	グエン・タイン・ビン	ビエッテル
	チャン・グエン・マイン	ビエッテル	MF	ゾー・フン・ズン	ハノイ
	ダン・バン・ラム	セレッソ大阪		グエン・トゥアン・アイン	ホアンアインザライ
DF	クエ・ゴック・ハイ	ソンラムゲアン		グエン・クアン・ハイ	ハノイ
	アドリアーノ・シュミット	ビンディン		グエン・ドク・チエン	ビエッテル
	ブー・バン・タイン	ホアンアインザライ		リー・コン・ホアン・アイン	ビンディン
	ダオ・バン・ナム	ハティン	FW	グエン・コン・フォン	ホアンアインザライ
	ホー・タン・タイ	ビンディン		グエン・バン・トアン	ホアンアインザライ
	ゾー・タイン・ティン	ビンディン		ハ・ドク・チン	ビンディン
	ブイ・ホアン・ベト・アイン	ハノイ		ファム・トゥアン・ハイ	ハノイ

監督　パク・ハンソ

<スケジュール>

3月29日　アジア最終予選(Road to Qatar) vs SAMURAI BLUE(埼玉スタジアム２００２)

■戦績表

(H:ホーム、A:アウェイ)

順位	グループB		サウジアラビア	日本	オーストラリア	オマーン	中国	ベトナム	試合数	勝ち点	勝	分	敗	得点	失点	差
1	サウジアラビア	H		1 ○ 0	1 ○ 0	1 ○ 0	3 ○ 2	3 ○ 1	10	23	7	2	1	12	6	6
		A		0 ● 2	0 △ 0	1 ○ 0	1 △ 1	1 ○ 0								
2	日本	H	2 ○ 0		2 ○ 1	0 ● 1	2 ○ 0	1 △ 1	10	22	7	1	2	12	4	8
		A	0 ● 1		2 ○ 0	1 ○ 0	1 ○ 0	1 ○ 0								
3	オーストラリア	H	0 △ 0	0 ● 2		3 ○ 1	3 ○ 0	4 ○ 0	10	15	4	3	3	15	9	6
		A	0 ● 1	1 ● 2		2 △ 2	1 △ 1	1 ○ 0								
4	オマーン	H	0 ● 1	0 ● 1	2 △ 2		2 ○ 0	3 ○ 1	10	14	4	2	4	11	10	1
		A	0 ● 1	1 ○ 0	1 ● 3		1 △ 1	1 ○ 0								
5	中国	H	1 △ 1	0 ● 1	1 △ 1	1 △ 1		3 ○ 2	10	6	1	3	6	9	19	-10
		A	2 ● 3	0 ● 2	0 ● 3	0 ● 2		1 ● 3								
6	ベトナム	H	0 ● 1	0 ● 1	0 ● 1	0 ● 1	3 ○ 1		10	4	1	1	8	8	19	-11
		A	1 ● 3	1 △ 1	0 ● 4	1 ● 3	2 ● 3									

※5チームずつ2グループに分かれてホーム&アウェイの2回戦総当たりリーグ戦を実施。
各グループ上位2カ国がワールドカップ出場権を獲得。
グループ3位同士は、アジアプレーオフを行い、勝利チームが大陸間プレーオフに回る。

○:勝ち(勝ち点3)、△:引き分け(勝ち点1)、●:負け(勝ち点0)

アジア最終予選 (Road to Qatar)

SAMURAI BLUE 2 (前半0-0 後半2-0) 0 オーストラリア代表

●2022年3月24日 20:10 ●Stadium Australia ●試合時間:90分 ●審判員:[主審]NAWAF ABDULLA SHUKRALLA(BHR) [副審]ABDULLA SALEH A M ALROWAIMI(BHR) / FAISAL ALAWI SAYED(BHR) [第4の審判員]H C DILAN PERERA(SRI) [VAR]KHAMIS MOHAMMED AL-MARRI(QAT) [AVAR]AHMED FAISAL ALALI (JOR) ●マッチコミッショナー:MOHAMMAD SAEED ALHATTAWI(UAE) ●観衆:41,852人

日本(監督:森保一):[GK](12)権田修一 [DF](5)長友佑都<→63'(20)中山雄太>(16)山根視来(22)吉田麻也 [MF](4)板倉滉(6)遠藤航(10)南野拓実<→84'(21)三笘薫>(13)守田英正(14)伊東純也(17)田中碧<→84'(8)原口元気> [FW](18)浅野拓磨<→63'(9)上田綺世>

控え:(1)川島永嗣(23)シュミット・ダニエル(2)植田直通(3)谷口彰悟(7)柴崎岳(11)久保建英(15)旗手怜央(19)佐々木翔

オーストラリア(監督:GRAHAM ARNOLD):[GK](1)MATHEW RYAN [DF](4)RHYAN GRANT (13) JOEL KING (19) GIANNI STENSNESS < → 90' (22) BEN FOLAMI > (20) TRENT SAINSBURY [MF] (3) CONNOR METCALFE < → 46' (8) JAMES JEGGO > (11) AWER MABIL <→68'(21) MARCO TILIO > [FW] (2) MILOS DEGENEK(6)MARTIN BOYLE<→84'(9)JAMIE MACLAREN>(10)AJDIN HRUSTIC(15)MITCHELL DUKE<→68'(14)BRUNO MEZZA>

控え:(12)ANDREW REDMAYNE(18)DANIEL VUKOVIC(5)FRAN KARACIC(7)ALEX WILKINSON(16)AZIZ BEHICH(17)DENIS GENREAU(23)KEN DOUGALL

得点 [日本]89'、90+4'三笘薫(1-0)(2-0)

警告 [日本]11'長友佑都
[オーストラリア]15'CONNOR METCALFE、55'GIANNI STENSNESS

アジア最終予選 (Road to Qatar)

SAMURAI BLUE 1 (前半0-1 後半1-0) 1 ベトナム代表

●2022年3月29日 19:35 ●埼玉スタジアム２００２ ●試合時間:90分 ●審判員:[主審]イルギズ・タンタシェフ(UZB) [副審]アンドレイ・ツァペンコ(UZB)/ティムル・ガイヌリン(UZB) [第4の審判員]アフロル・リスクラエフ(UZB) [VAR]アブドゥラ・アリ・アルマッリ(QAT) [AVAR]サウド・アリ・アルアドバ(QAT) ●マッチコミッショナー:アブドゥル・ハミード・アブドゥル・ガフール(MDV) ●観衆:44,600人

日本(監督:森保一):[GK](1)川島永嗣 [DF](3)谷口彰悟(16)山根視来(20)中山雄太(22)吉田麻也 [MF](7)柴崎岳<→61'(17)田中碧>(8)原口元気<→61'(13)守田英正>(11)久保建英<→61'(10)南野拓実>(15)旗手怜央<→HT(14)伊東純也>(21)三笘薫 [FW](9)上田綺世

控え:(12)権田修一(23)シュミット・ダニエル(2)植田直通(4)谷晃生(5)長友佑都(6)林大地(18)浅野拓磨(19)佐々木翔

ベトナム(監督:パク・ハンソ):[GK](23)チャン・グエン・マイン<→90'(12)ダン・バン・ラム> [DF](3)クエ・ゴック・ハイ(5)ブイ・ホアン・ベト・アイン(13)ホー・タン・タイ(14)グエン・タイン・ビン(17)ブー・バン・タイン [MF](8)ゾー・フン・ズン(11)グエン・トゥアン・アイン<→66'(15)グエン・ドク・チエン>(19)グエン・クアン・ハイ [FW](6)ファム・トゥアン・ハイ(10)グエン・コン・フォン<→58'(18)ハ・ドク・チン>

控え:(1)ブイ・タン・チュオン(4)ダオ・バン・ナム(7)ゾー・タイン・ティン(9)グエン・バン・トアン(20)リー・コン・ホアン・アイン(21)アドリアーノ・シュミット

得点 [日本]54'吉田麻也(1-1) [ベトナム]20'グエン・タイン・ビン(0-1)

警告 [日本]49'柴崎岳 [ベトナム]90+2'ハ・ドク・チン

U-21日本代表候補 トレーニングキャンプ(高円宮記念JFA夢フィールド)

<スタッフ>

○監督: 大岩剛(NCS) ○コーチ: 羽田憲司(NCS) ○GKコーチ: 浜野征哉(NCS) ○フィジカルコーチ: 矢野由治(NCS) ○テクニカルスタッフ: 越智滋之、菅原大介(JFAテクニカルハウス)

<選手>

Pos.	名前	所属	Pos.	名前	所属	Pos.	名前	所属
GK	小畑裕馬	ベガルタ仙台	DF	チェイス・アンリ	尚志高校	MF	三戸舜介※2	アルビレックス新潟
	山田大樹	鹿島アントラーズ		鈴木海音※2	栃木SC		成岡輝瑠※2	清水エスパルス
	佐々木雅士	柏レイソル	MF	宮城天	川崎フロンターレ	FW	藤尾翔太	徳島ヴォルティス
	鈴木彩艶	浦和レッズ		鮎川峻	サンフレッチェ広島		櫻川ソロモン	ジェフユナイテッド千葉
DF	成瀬竣平	名古屋グランパス		鈴木唯人	清水エスパルス		細谷真大※1	柏レイソル
	西尾隆矢※1	セレッソ大阪		山本理仁	東京ヴェルディ		小堀空※2	栃木SC
	木村誠二	モンテディオ山形		藤田譲瑠チマ	横浜F・マリノス			
	加藤聖	V・ファーレン長崎		櫻井辰徳	徳島ヴォルティス			
	馬場晴也	東京ヴェルディ		田中聡	湘南ベルマーレ			
	半田陸	モンテディオ山形		平岡大陽	湘南ベルマーレ			
	大嶽拓馬	柏レイソル		甲田英將	名古屋グランパス			

※1：ケガのため不参加 ※2：追加招集

<スケジュール>
3月7日～8日 トレーニング (高円宮記念JFA夢フィールド)
9日 トレーニングマッチ vs 横浜F・マリノス (高円宮記念JFA夢フィールド)

U-19日本代表候補 トレーニングキャンプ(高円宮記念JFA夢フィールド)

<スタッフ>

○監督: 冨樫剛一(NCS) ○コーチ: 船越優蔵(NCS) ○ロールモデルコーチ: 内田篤人(JFA) ○GKコーチ: 川口能活(NCS) ○フィジカルコーチ: 菅野淳(FFP)

<選手>

Pos.	名前	所属	Pos.	名前	所属	Pos.	名前	所属
GK	バーンズ・アントン	FC町田ゼルビア	DF	土屋巧※2	柏レイソル	MF	安部大晴	V・ファーレン長崎U-18
	佐藤瑠星	大津高校	MF	木戸柊摩	大阪体育大学	FW	福田師王	神村学園高等部
	春名竜聖	セレッソ大阪U-18		藤井海和	流通経済大学		小林俊瑛	大津高校
DF	坂本稀吏也	モンテディオ山形		永長鷹虎	川崎フロンターレ		内藤大和	ヴァンフォーレ甲府U-18
	西久保駿介※1	ジェフユナイテッド市原・千葉		吉田温紀	名古屋グランパス			
	松田隼風	水戸ホーリーホック		笠柳翼	V・ファーレン長崎			
	遠山悠希	アスルクラロ沼津		阿野真拓	東京ヴェルディ			
	石井大生	湘南ベルマーレ		佐野航大	ファジアーノ岡山			
	チェイス・アンリ	尚志高校		宇野禅斗	FC町田ゼルビア			
	高井幸大	川崎フロンターレU-18		西谷亮	東京ヴェルディ			
	入江羚介	帝京高校		山崎太新	横浜FCユース			

※1：クラブ事情のため途中離脱 ※2：追加招集

<スケジュール>
2月27日 練習試合 vs 関東大学選抜 (高円宮記念JFA夢フィールド)
28日 トレーニング (高円宮記念JFA夢フィールド)
3月1日 トレーニング (高円宮記念JFA夢フィールド)
2日 練習試合 vs 桐蔭横浜大学 (高円宮記念JFA夢フィールド)

U-17日本代表 第4回 J-VILLAGE CUP U18

<スタッフ>

○監督:冨樫剛一(NCS) ○ロールモデルコーチ:中村憲剛(JFA)、阿部勇樹(JFA) ○GKコーチ:川口能活(NCS) ○フィジカルコーチ:村岡誠(NCS) ○テクニカルスタッフ:佐藤孝大(JFAテクニカルハウス)

<選手>

Pos.	名前	所属	Pos.	名前	所属	Pos.	名前	所属
GK	中村圭佑	静岡学園高校	MF	大関友翔	川崎フロンターレU-18	FW	小田晄平	昌平高校
	小林将天	FC東京U-18		廣井蘭人	帝京長岡高校		早川隼平	浦和レッズユース
DF	石川晴大	清水エスパルスユース		幸喜祐心	ＦＣ琉球U-18			
	舩木大輔	横浜F・マリノスユース		由井航太	川崎フロンターレU-18			
	尾崎凱琉	大阪桐蔭高校		石井久継	湘南ベルマーレU-18			
	畑野優真	横浜F・マリノスユース		碇明日麻	大津高校			
	市原吏音	大宮アルディージャ U18		林奏太朗	サガン鳥栖U-18			
	飯田陸斗	京都サンガF.C.U-18	FW	安藤阿雄依	清水エスパルスユース			
	石川穂高	昌平高校		小池直矢	前橋育英高校			
	北島郁哉	サガン鳥栖U-18		鈴木陽人	名古屋グランパスU-18			
	田村心太郎	柏レイソルU-18		後藤啓介	ジュビロ磐田U-18			

<スケジュール>
3月16日 トレーニング (Jヴィレッジ)
17日 トレーニング (Jヴィレッジ)
18日 第1戦 vs 尚志高校 (Jヴィレッジ ピッチ3)
19日 第2戦 vs 横浜FCユース (Jヴィレッジ ピッチ3)
20日 第3戦 vs U-17日本高校選抜 (Jヴィレッジ ピッチ3)
21日 順位決定戦 vs 昌平高校 (Jヴィレッジ)

U-16日本代表候補　TOKINOSUMIKA CHALLENGE

<スタッフ>

○監督: 森山佳郎(NCS)　○コーチ: 廣山望(NCS)　○GKコーチ: 高橋範夫(NCS)　○フィジカルコーチ: 村岡誠(NCS)
○テクニカルスタッフ: 酒井清考(JFAテクニカルハウス)、菅原大介(JFAテクニカルハウス)

<選手>

Pos.	名前	所属	Pos.	名前	所属
GK	ピサノ・アレクサンドレ幸冬堀尾	名古屋グランパスU-18	MF	小竹知恩	プログレッソ佐野F.C.U-15
	後藤亘	FC東京U-15深川		杉浦駿吾	名古屋グランパスU-15
	田中亜理	柏レイソルU-15		エレハク有夢路	東急SレイエスFC U-15
DF	藤井葉大	飯塚高校		半場朔人	東京ヴェルディジュニアユース
	小杉啓太	湘南ベルマーレU-18		山本丈偉	東京ヴェルディジュニアユース
	田所莉旺	川崎フロンターレU-15		鈴木宏幸	FC LAVIDA
	柴田翔太郎	川崎フロンターレU-15		矢田龍之介	1FC川越水上公園
	本多康太郎	湘南ベルマーレU-15		佐藤龍之介	FC東京U-15むさし
	松井イライジャ博登	FCフェルボール愛知	FW	道脇豊	ロアッソ熊本ユース
	小沼蒼珠	三菱養和SC調布ジュニアユース		磯﨑麻玖	大宮アルディージャ U15
	内丸寛太	サガン鳥栖U-15唐津		ワッド・モハメッド・サディキ	柏レイソルU-15
	松本遥翔	鹿島アントラーズユース		山口太陽	FC東京U-15むさし
	西川宙希	セレッソ大阪U-15		市村健	柏レイソルA.A.TOR'82
MF	加藤嵩寅	横浜FCユース		徳田誉	鹿島アントラーズつくばジュニアユース

<スケジュール>

3月7日　トレーニング(時之栖スポーツセンター)
8日　トレーニング(時之栖スポーツセンター)
9日　トレーニング(時之栖スポーツセンター)
10日　トレーニング(時之栖スポーツセンター)
11日　第1試合 vs 東山高校
(時之栖スポーツセンター 裾野グラウンド)
12日　第2試合 vs 帝京長岡高校
(時之栖スポーツセンター 裾野グラウンド)
13日　第3試合 vs 青森山田高校
(時之栖スポーツセンター 裾野グラウンド)

サッカーe日本代表　FIFAe Nations Online Qualifiers Play-Ins　第3節

<選手>

プレーヤーネーム	名前	所属
Jay	田野入潤	川崎フロンターレ
Web Nasri	青木太一	鹿島アントラーズ
Agu ※	中島奨	Blue United eFC

※所属チームの都合により不参加

【ディビジョン1第3節(日本の結果のみ)】

試合日		キックオフ	結果
2022年 3月10日	第1試合	15:00	日本 3-1 ニュージーランド
			日本 3-1 ニュージーランド
	第2試合	15:55	日本 1-0 韓国
			日本 1-0 韓国
	第3試合	16:50	日本 0-3 インドネシア
			日本 1-1 インドネシア

日本高校サッカー選抜　第37回静岡県ヤングサッカーフェスティバル／第36回デンソーカップチャレンジサッカー福島大会

<スタッフ>

○監督: 仲村浩二(尚志高校)　○コーチ: 鈴木勝大(桐光学園高校)　○GKコーチ: 平田俊英(聖和学園高校)

<選手>

Pos.	名前	所属	Pos.	名前	所属
GK	鮎澤太陽	尚志高校	MF	田澤夢積	青森山田高校
	吉田優翔	桐光学園高校		根津元輝	前橋育英高校
	佐藤瑠星	大津高校		山市秀翔	桐光学園高校
DF	チェイス・アンリ	尚志高校		小泉龍之介	静岡学園高校
	柳生将太	前橋育英高校		阪田澪哉	東山高校
	大川佳風	流通経済大学付属柏高校		薬師田澪	大津高校
	田口空我	流通経済大学付属柏高校		川口敦史	大津高校
	馬場拓己	桐光学園高校	FW	守屋練太郎	前橋育英高校
	佐々木奈琉	帝京長岡高校		松永颯汰	静岡学園高校
	海老沼慶士	米子北高校		福田師王	神村学園高等部
	川副泰樹	大津高校		大迫塁	神村学園高等部
MF	藤森颯太	青森山田高校			

<スケジュール>

3月6日　第37回静岡県ヤングサッカーフェスティバル
vs 静岡県ユース選抜
9日　第36回デンソーカップチャレンジサッカー福島大会
グループA第1戦 vs 東海選抜
10日　グループA第2戦 vs 関東選抜B
11日　グループA第3戦 vs U-20全日本選抜
13日　7・8位決定戦 vs プレーオフ選抜

U-17日本高校サッカー選抜　トレーニングキャンプ(Jヴィレッジ)

<スタッフ>

○団長: 滝本寛(南葛飾高校)　○総務: 池田一義(川口北高校)　○監督: 蒲原晶昭(佐賀東高校)　○コーチ: 中村真吾(米子北高校)　○GKコーチ: 佐々木篤史(作陽高校)

<選手>

Pos.	名前	所属	Pos.	名前	所属
GK	佐藤安悟	帝京長岡高校	MF	篠田翼	昌平高校
	藤澤芭琉	徳島市立高校		白井柚希	静岡学園高校
DF	鈴木大翔	尚志高校		髙橋隆大	静岡学園高校
	津久井圭祐	昌平高校		真田蓮司	東山高校
	萩原聖也	流通経済大付属柏高校		名願斗哉	履正社高校
	都築駿太	流通経済大付属柏高校		田原瑠衣	大津高校
	豊田怜央	桐光学園高校		阪田澪哉 ※1	東山高校
	新谷陸斗	東山高校	FW	福田秀人	米子北高校
	保田成琉	阪南大高校		澤田佳憲	瀬戸内高校
	宝納拓斗	佐賀東高校		小林俊瑛	大津高校
MF	徳永涼	前橋育英高校			

※1：追加招集

<スケジュール>

3月17日　トレーニング(Jヴィレッジ)
18日　トレーニング(Jヴィレッジ)
J-VILLAGE CUP
vs 川崎フロンターレ(Jヴィレッジ)
19日　vs 清水エスパルス(Jヴィレッジ)
20日　vs U-17日本代表(Jヴィレッジ)
21日　vs 履正社高校(Jヴィレッジ)

DATA BOX

第36回デンソーカップチャレンジサッカー 福島大会

一般財団法人全日本大学サッカー連盟およびJFAが主催する本大会は、JFAおよび全日本大学サッカー連盟登録選手（原則3年生以下の者）に参加資格が与えられた。今大会は3月1日～13日に開催され、8チームが出場した。

■グループリーグ

順位	グループA	U-20全日本選抜	関東選抜B	東海選抜	日本高校選抜	勝ち点	勝	分	負	得点	失点	差
1	U-20全日本選抜		0●1	1△1	2○0	4	1	1	1	3	2	1
2	関東選抜B	1○0		1○0	1△1	7	2	1	0	3	1	2
3	東海選抜	1△1	0●1		3○0	4	1	1	1	4	2	2
4	日本高校選抜	0●2	1△1	0●3		1	0	1	2	1	6	-5

順位	グループB	関西選抜	プレーオフ選抜	九州選抜	関東選抜A	勝ち点	勝	分	負	得点	失点	差
1	関西選抜		1○0	2○0	1△1	7	2	1	0	4	1	3
2	プレーオフ選抜	0●1		1●2	1●3	0	0	0	3	2	6	-4
3	九州選抜	0●2	2○1		0△0	4	1	1	1	2	3	-1
4	関東選抜A	1△1	3○1	0△0		5	1	2	0	4	2	2

○:勝ち(勝ち点3)、△:引き分け(勝ち点1)、●:負け(勝ち点0)

■順位決定戦

＜決勝戦＞ 関東選抜B 1-0 関西選抜
＜3位決定戦＞ 東海選抜 2-1 関東選抜A
＜5位決定戦＞ U-20全日本選抜 0-1 九州選抜
＜7位決定戦＞ 日本高校選抜 0-3 プレーオフ選抜

【参加選手】

＜U-20全日本選抜＞　監督:西川周吾
菅沼一晃・角昂志郎・青木駿人・福井啓太・小倉陽太・吉尾虹樹・山内翔・安斎颯馬・久保征一郎・山内日向汰・田村蒼生・杉本光希・モヨ マルコム強志・岡田大和・中川敦瑛・小針宏太郎・植村洋斗・森璃太・関根大輝・倍井謙・宮田和純

＜関東選抜A＞　監督:小井土正亮
飯田雅浩・三浦雅人・山﨑大地・相澤佑哉・落合毅人・柴田徹・寺山翼・落合陸・熊澤和希・山田新・西堂久俊・後藤佑介・竹村俊二・棚橋尭士・榊原杏太・栗田詩音・日野翔太・高吉正真・中野就斗・水野颯太・吉田新

＜関東選抜B＞　監督:川津博一
ヒル袈依廉・浅倉廉・森侑里・山下諒時・平松航・岡井駿典・山下雄大・岩本翔・加藤悠馬・齊藤聖七・樋口堅大・近藤壱成・三浦颯太・高橋尚紀・木下海斗・羽田一平・長澤壮竜・藤井海和・山原康太郎・田村祐二朗・竹内崇人

＜関西選抜＞　監督:中田雄一朗
倉原將・吉木大喜・高木践・山田祐樹・髙田椋汰・野瀬翔也・泉柊椰・美藤倫・福井和樹・木村勇大・松原大芽・梅田陸空・河村匠・木戸柊摩・山内舟征・奥田勇斗・岡島温希・工藤真人・石橋克之・山田剛綺・食野壮磨

＜九州選抜＞　監督:八戸寿憲
小窪太斗・吉田真那斗・竹内悠力・伊藤颯真・宮嵜海斗・山口卓己・磯谷駿・重見柾斗・榊原琉太・北條真汰・下上昇大・橋口欧介・高昇辰・橋口拳志・山口隆希・永田一真・岡野凜平・山本廉・大川智己・横畑匠海・橋本悠

＜東海選抜＞　監督:寺田亮太
福本悠・知花康士朗・水口湧斗・和田侑樹・速水修平・藤井皓也・井堀二昭・小酒井新大・近藤慶一・古長谷千博・小松慧・木佐貫峻矢・深澤壯太・楠本羽翼・山村琉偉・バエッサ フェリペ・横山智也・長島武・川地功起・永田貫太・秀島悠太

＜プレーオフ選抜＞　監督:佐藤健
田中優太朗・轟大和・辻岡佑真・前田亮太朗・伊藤大貴・石黒尚・二階堂正哉・原田拓真・菅野紘希・畠中健人・小笠原大将・オナイウ情滋・濱名真央・向井ひな太・河合悠人・冨久田和真・青木駿汰・小森飛絢・菅原新・濱琳太郎・鷲塚蓮

＜日本高校選抜＞　監督:仲村浩二
佐藤瑠星・田口空我・柳生将太・馬場拓己・海老沼慶士・小泉龍之介・川口敦史・山市秀翔・松永颯汰・福田師王・藤森颯太・大川佳風・チェイス アンリ・大迫塁・薬師田澪・田澤夢積・吉田優翔・守屋練太郎・根津元輝・阪田澪哉・佐々木奈琉・川副泰樹・鮎澤太陽

JFA 第33回O-40女子サッカーオープン大会

本大会は、JFAが主催し、1981（昭和56）年12月31日以前生まれのJFA登録選手（女性）によって構成されたチームに出場資格が与えられた。今大会は3月25日～27日、福島県のJヴィレッジで開催された。

※69ページに関連記事あり

■1次ラウンド

順位	グループA	Feminino	グスターレ大阪	とちおとめ	勝ち点	勝	分	負	得点	失点	差
1	Feminino（東北／宮城）		1○0	1○0	6	2	0	0	2	0	2
2	グスターレ大阪（関西／大阪）	0●1		2○1	3	1	0	1	2	2	0
3	とちおとめ（関東／栃木）	0●1	1●2		0	0	0	2	1	3	-2

順位	グループB	千葉・ベイサワーズ	岩手選抜O-40	大崎クラブすみれ	勝ち点	勝	分	負	得点	失点	差
1	千葉・ベイサワーズ（関東／千葉）		3○0	3○0	6	2	0	0	6	0	6
2	岩手選抜O-40（東北／岩手）	0●3		3○1	3	1	0	1	3	4	-1
3	大崎クラブすみれ（関東／東京）	0●3	1●3		0	0	0	2	1	6	-5

順位	グループC	刈谷マドレー	FOOT CRUSADERS	オール茨城	勝ち点	勝	分	負	得点	失点	差
1	刈谷マドレー（東海／愛知）		2○1	0△0	4	1	1	0	2	1	1
2	FOOT CRUSADERS（関東／千葉）	1●2		3○1	3	1	0	1	4	3	1
3	オール茨城（関東／茨城）	0△0	1●3		1	0	1	1	1	3	-2

順位	グループD	東京アルテミスSC	La Belle Equipe	VIVACE	勝ち点	勝	分	負	得点	失点	差
1	東京アルテミスSC（関東／東京）		2○0	※	6	2	0	0	5	0	5
2	La Belle Equipe（北信越／富山）	0●2		※	3	1	0	1	3	2	1
3	VIVACE（関東／千葉）	※	※		.0	0	0	2	0	6	-6

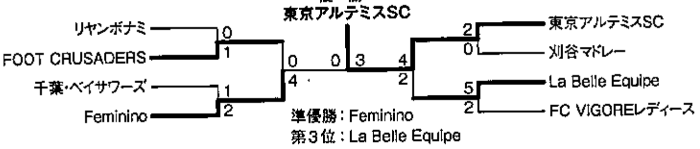
※試合中止

順位	グループE	リヤンボナミ	FCフロンティア	LFC TOYOTA	勝ち点	勝	分	負	得点	失点	差
1	リヤンボナミ（関西／兵庫）		1△1	1○0	4	1	1	0	2	1	1
2	FCフロンティア（関東／神奈川）	1△1		0△0	2	0	2	0	1	1	0
3	LFC TOYOTA（東海／愛知）	0●1	0△0		1	0	1	1	0	1	-1

順位	グループF	FC VIGORE	F.C.V.イレブン	オール成田	勝ち点	勝	分	負	得点	失点	差
1	FC VIGORE（関東／東京）		2○1	2○0	6	2	0	0	4	1	3
2	F.C.V.イレブン（東北／福島）	1●2		2○0	3	1	0	1	3	2	1
3	オール 成田（関東／千葉）	0●2	0●2		0	0	0	2	0	4	-4

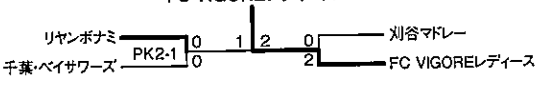
○:勝ち(勝ち点3)、△:引き分け(勝ち点1)、●:負け(勝ち点0)

■上位トーナメント①



＜3位決定戦＞FOOT CRUSADERS 0-1 La Belle Equipe

■上位トーナメント②



＜7・8位決定戦＞千葉・ベイサワーズ 0-1 刈谷マドレー

■中位リーグ

順位	チーム名	FCフロンティア	F.C.V.イレブン	グスターレ大阪	岩手選抜O-40	勝ち点	勝	分	負	得点	失点	差
1	FCフロンティア		0△0	0△0	5○0	5	1	2	0	5	0	5
2	F.C.V.イレブン	0△0		1○0	1△1	5	1	2	0	2	1	1
3	グスターレ大阪	0△0	0●1		6○0	4	1	1	1	6	1	5
4	岩手選抜O-40	0●5	1△1	0●6		1	0	1	2	1	12	-11

■下位リーグ

順位	チーム名	LFC TOYOTA	オール成田	オール茨城	とちおとめ	大崎クラブすみれ	勝ち点	勝	分	負	得点	失点	差
1	LFC TOYOTA		–	1○0	5○1	3○0	6	2	0	0	6	1	5
2	オール成田	–		–	1△1	2○0	4	1	1	0	3	1	2
3	オール茨城	0●1	–		2△2	3○0	3	1	0	1	3	1	2
4	とちおとめ	1●5	1△1	2△2		–	1	0	1	1	3	7	-4
5	大崎クラブすみれ	0●3	0●2	0●3	–		0	0	0	2	0	5	-5

※3試合行うチームは、3試合の内真ん中の結果を無効とし、残り2試合の結果を用いて順位決定を行う

【参加選手】

＜岩手選抜O-40＞　監督:花坂由紀
橋本杏子・花坂由紀・伊藤由理香・車田千恵美・石川真希・藤島秀子・藤川知美・山内雅子・正木小雪・佐々木妙・佐藤美幸・庭千栄子・佐藤明美・加藤美代子・稲草寛子・佐々木智栄子・伊藤真紀・畠山祐子

＜Feminino＞　監督:加藤摩耶
淵上志津・藤原春美・小林美由紀・三浦弘美・廣瀬あゆみ・大塚康子・石黒聡美・林理恵・安達志保子・梧桐綾・阿部めぐみ・中野更紗・菅原律子・波多野翠

＜F.C.V.イレブン＞　監督:片桐美智哉
植松みゆき・山本裕子・山崎美由紀・大和田久実・松本喜代子・湯浅美緒・高野愛子・小関紀子・大都智絵美・小山千恵・菅本統子・高田道子・白岩尚美・鈴木聖子・鈴木祥子・佐藤浩子・増田さゆり・舟城敬子・荒川真理

＜オール茨城＞　監督:小林梨恵
松山司・千本明子・小林美由紀・三宅志穂・長谷川律子・小林梨恵・黛理恵・田井弥生・本橋香織・出浦久美子・河村和美・大久保香織・金子理恵・樫村美帆・福田裕枝・高口フミエ・村上富才英・山中はるか

＜とちおとめ＞　監督:津田千明
田中睦子・永松美佳・倉田有子・瓦葺薫・斉藤清美・齊藤久美子・豊田京美・沼寿子・小荒井英恵・関正江・上野圭子・津田千明

＜習志野ベイサイドスポーツクラブVIVACE＞　監督:森直美
宍倉麻子・草彅秋絵・坂田七月・野沢支乃・浅沼由紀・高木詩乃・二瀬麻美・古川比奈子・桑原範子・渡辺多恵子・川津真季・森直美・下迫乃里枝・林聖美・岸本史子・金子綾子・佐藤久美子・篠田陽子・佐久間静・中田奈津代

＜FOOT CRUSADERS＞　監督:山本千草
木佐貫史恵・平山智子・戸田夕子・井上陽子・峰岸美保子・佐野由貴・近藤夕子・加藤恵麻・小椋恭子・山本一江・芝川美恵子・染井真美子・遠藤康子・中山麻衣子・勢司孝代・阿部京・松本和美・渡野邉眞理・大崎亜衣・安田美穂

＜千葉・ベイサワーズ＞　監督:渡邉学
伊藤美惠子・佐藤ともえ・山下弘子・山中里絵・高橋優子・森田朱美・新村麻乃・村山理恵・河野映・山根充世・渡部孝子・風岡佐和子

＜オール成田＞　監督:宇野雅人
山田裕美子・阿部美由紀・篠塚百里・森田弥麻・小川弥生・安井智子・佐藤弘美・桜井博枝・佐藤彰子・阿部綾子・下田加奈江・鈴木明美・入江夕梨花

＜大崎クラブすみれ＞　監督:前田光洋
井上伊都子・宇佐美直子・堀口セイ子・渡辺宏美・是枝恵美子・馬場佳津子・渡邉恵・日置クミエ・河野孝子・今野久美子・松井一美・島田友子・岡村美保・大熊由佳子・秋山洋子・谷口美智子

＜東京アルテミスＳＣ＞　監督:阿部成雅
名嘉地麻美・小田島雪枝・荻野泰子・高柳紀代江・石塚千智・野田あゆみ・柿沢和美・住谷恵理子・笠嶋由恵・椎名香・秋山美帆・金子えり・阿部三恵・石田美雪・小谷野八重

＜ＦＣVIGOREレディース＞　監督:泉美幸
高橋由美子・内藤淳子・高松美香・馬場奈緒子・宮田笑子・藤井菜穂子・村田啓子・松浦智子・石川美穂子・三浦美智代・池田淳子・鈴木友季子・長谷川千歳

＜FCフロンティア＞
山本幸恵・村上奈津子・吉浜真由子・崎谷美枝子・三田恭子・清原美里・眞砂野みどり・安成千恵・木崎愛子・中村智恵子・鍋島まき・竹内純子・村上早苗・福本伊佐子・古澤綾子・坂田知栄子・小林水穂

＜La Bell Equipe＞　監督:井上奈美
井上奈美・山崎順子・水永英恵・山本由紀・松井るみ子・岩行宮子・東真理子・浦島智美・浦野由里・中谷貴誉恵・丸山みさ・佐伯美幸・小川恵・藤田智子・吉田聡子・上田韶子・萩中愛香

＜刈谷マドレー＞　監督:金子幸代
相沢百合子・深谷和子・鈴木佐代子・神谷真由美・田中亜紀子・清水みずほ・柘植奈津紀・森志づ香・金子幸代・柴山友貴・井上千晶・佐野史子・小林礼奈・山崎美智子・鈴木みき・奥村綾子・山下昌代・松尾純子・倉知桂子

＜LFC TOYOTA＞
寺倉正恵・佐々木友美・窄美根子・竹内さゆり・佐々木里香・井上希美・山本奈美・河村ひで美・磯村理恵子・後藤まき

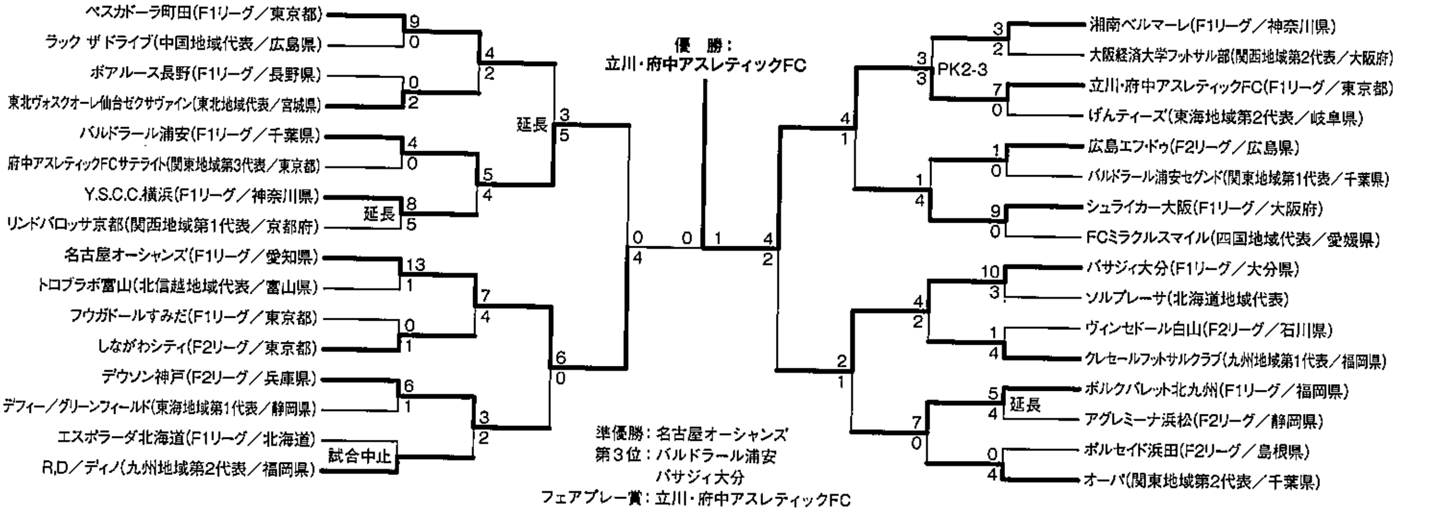
＜グスターレ大阪＞　監督:穂積一
黒島有希・渡邉史帆子・山本味穂・井上亜耶・藤本美和・石川成子・井口佳世・西田美穂子・武谷彰子・藤川絵利子・中沢彩衣里・吉田直子・藤原美佳・鎌谷友希

＜リヤンボナミ＞
沢田裕美・清水あつ子・坂野理江・鈴木理恵・内田典子・井奥美紀子・位田由佳子・古谷久代・西林光・佐野加奈子・岡田緑・高嶋玲奈・梶山直子・塩田裕子・岡部博子・竹下由起・服部博子

JFA 第27回全日本フットサル選手権大会

JFAが主催する本大会は、フットサル1種または2種の種別で加盟登録を行い、2006年4月1日以前に生まれた選手で構成されるチームに出場資格が与えられた。1回戦・2回戦は3月12日～13日に静岡県、大阪府、兵庫県で、準々決勝～決勝は3月19日～21日に東京都・駒沢オリンピック公園総合運動場体育館で開催され、32チームが出場した。

※70ページに関連記事あり



準決勝

バルドラール浦安 0（前半0-1 後半0-3）4 名古屋オーシャンズ

●2022年3月20日 12:00 ●駒沢オリンピック公園総合運動場屋内球技場 ●試合時間:40分 ●審判員:[主審]藤田武志 [第2審判]小崎知広 [第3審判]池田幸弘 [タイムキーパー]小林裕之 ●マッチコミッショナー:宮崎剛雄 ●観衆:534人

選手名	出場	番号	位置	位置	番号	出場	選手名
三笠貴史	△	4	FP	GK	1	○	篠田龍馬
長坂拓海	○	7	FP	FP	4	△	水谷颯真
ガリンシャ	○	9	FP	FP	5	△	星龍太
加藤竜馬	○	10	FP	FP	6	○	オリベイラ・アルトゥール
ディドゥダ	○	11	FP	FP	7	△	安藤良平
藤原潤	○	12	GK	FP	11	△	星翔太
石田健太郎		14	FP	FP	13		野村悠翔
アサノ竜也	△	16	FP	FP	14	○	西谷良介
藤山翔太	△	18	FP	FP	15	○	吉川智貴
小野寺優介		21	GK	FP	17	△	八木聖人
滝田学	△	23	FP	GK	26		大久保大翔
税田拓基		28	GK	FP	34	○	平田ネト・アントニオ・マサノリ
東出脩椰	△	41	FP	FP	77	△	ガブリエル・ベネジオ
小宮山友祐	監督			監督			フエンテス

得点 [名古屋]16'星龍太(1-0)、31'、31'ガブリエル・ベネジオ(2-0)(3-0)、38'星翔太(4-0)

警告 [浦安]6'、30'滝田学、11'東出脩椰、27'、35'ディドゥダ

退場 [浦安]30'滝田学、35'ディドゥダ

○:先発、△:交代出場

準決勝

立川・府中アスレティックFC 4（前半3-1 後半1-1）2 バサジィ大分

●2022年3月20日 14:30 ●駒沢オリンピック公園総合運動場屋内球技場 ●試合時間:40分 ●審判員:[主審]山崎聖也 [第2審判]波多野祐一 [第3審判]大矢翼 [タイムキーパー]常國広平 ●マッチコミッショナー:松村栄寿 ●観衆:525人

選手名	出場	番号	位置	位置	番号	出場	選手名
茂呂翔也		1	GK	GK	1	○	矢澤大夢
皆本晃	△	5	FP	GK	2		村山竜三
関尚登	○	6	FP	FP	3	○	野口茅斗
上村充哉	○	8	FP	FP	5	△	瀧澤太将
金澤空	△	9	FP	FP	7	△	山田凱斗
完山徹一	△	10	FP	FP	11	○	森村孝志
大德政博	○	11	FP	FP	15	△	吉田圭吾
新井裕生	△	14	FP	FP	16	○	パカット
ジョー		19	FP	FP	17	△	小門勇太
山田正剛		20	GK	GK	21	△	橋野司
南雲颯太	○	21	FP	FP	23	○	芝野創太
酒井遼太郎	△	79	FP				
黒本ギレルメ	○	96	GK				
比嘉リカルド	監督			監督			伊藤雅範

得点 [立川・府中]1'関尚登(1-0)、3'皆本晃(2-0)、18'完山徹一(3-1)、31'金澤空(4-2)
[大分]17'パカット(2-1)、27'野口茅斗(3-2)

警告 [立川・府中]29'金澤空 [大分]13'、30'パカット

退場 [大分]30'パカット

○:先発、△:交代出場

決勝

名古屋オーシャンズ 0（前半0-1 後半0-0）1 立川・府中アスレティックFC

●2022年3月21日 15:00 ●駒沢オリンピック公園総合運動場屋内球技場 ●試合時間:40分 ●審判員:[主審]小林裕之 [第2審判]常國広平 [第3審判]小崎知広 [タイムキーパー]山崎聖也 ●マッチコミッショナー:大立目佳久 ●観衆:846人

選手名	出場	番号	位置	位置	番号	出場	選手名
篠田龍馬	○	1	GK	GK	1		茂呂翔也
水谷颯真	△	4	FP	FP	5	△	皆本晃
星龍太	△	5	FP	FP	6	○	関尚登
オリベイラ・アルトゥール	○	6	FP	FP	8	○	上村充哉
安藤良平	△	7	FP	FP	9	△	金澤空
星翔太	△	11	FP	FP	10	○	完山徹一
野村悠翔		13	FP	FP	11	△	大德政博
西谷良介	○	14	FP	FP	14	△	新井裕生
吉川智貴	○	15	FP	FP	19		ジョー
八木聖人	△	17	FP	GK	20		山田正剛
大久保大翔		26	GK	FP	21	○	南雲颯太
平田ネト・アントニオ・マサノリ	○	34	FP	FP	79	△	酒井遼太郎
ガブリエル・ベネジオ	△	77	FP	GK	96	○	黒本ギレルメ
フエンテス	監督			監督			比嘉リカルド

得点 [立川・府中]4'オウンゴール(0-1)

警告 [名古屋]5'ガブリエル・ベネジオ、28'オリベイラ・アルトゥール

○:先発、△:交代出場

【参加選手】

＜エスポラーダ北海道＞ 監督:金井一哉
坂桂輔・鶴岡広之・大友秀斗・室田祐希・木村優太・鈴木裕太郎・田辺陸・宮原勇哉・山田優介・山本航平・水上玄太・三浦憂・佐藤明生・堀米将太・西村啓

＜バルドラール浦安＞ 監督:小宮山友祐
藤原潤・小野寺優介・税田拓基・三笠貴史・長坂拓海・原辰介・ガリンシャ・加藤竜馬・ディドゥダ・石田健太郎・アサノ竜也・藤山翔太・山下純平・滝田学・東出脩椰

＜フウガドールすみだ＞ 監督:荻窪孝
大黒章太郎・石黒紘久・岸将太・諸江剣語・岡村康平・宮崎曉・田口元気・畠山勇気・栗本博生・渡井博之・鬼塚祥慶・北村弘樹・佐藤雄介・中田秀人・荒牧太郎

＜立川・府中アスレティックFC＞ 監督:比嘉リカルド
茂呂翔也・山田正剛・黒本ギレルメ・皆本晃・関尚登・上村充哉・金澤空・完山徹一・大德政博・新井裕生・ジョー・南雲颯太・柴田孝平・酒井遼太郎

＜ペスカドーラ町田＞ 監督:ルイス ベルナット
ピレス イゴール・土岡優晟・伊名野慎・日根野谷建・髙橋裕大・金山友紀・伊藤圭汰・中村充・クレパウジ ヴィニシウス・毛利元亮・霊切啓太・甲斐稜人・倉科亮佑・福田亮・山中翔斗・本石猛裕

＜Y.S.C.C.横浜＞ 監督:前田佳宏
田淵広史・ピエ リアン アウン・伊藤玄・空涼介・高橋響・北野聖夜・宿本諒太・荒川勇気・橋本裕貴・滝沢拓也・安井嶺芽・小林拓夢・松井大輔・堤優太・井原智・笠篤史・菅原健太・樋口未樹也

＜湘南ベルマーレ＞ 監督:伊久間洋輔
上原拓也・フィウーザ・籔内涼也・霜谷春人・ロドリゴ・林田フェリペ良孝・佐藤玲惟・高橋広大・鍛代元気・内村俊太・高溝黎磨・山崎歩夢・浦上浩生・牧野謙心・島村毅・本田真琉虎洲・萩原真夏

＜ボアルース長野＞ 監督:柄沢健
矢内大介・内堀恒太・山口友輔・岡島工・青山竜也・金須恭弥・坂井佑駿・田口友也・田村佳翔・本多亘・松永翔・松原祥太・上林快人・増山太一・有江哲平・米村尚也・中村亮太

＜名古屋オーシャンズ＞ 監督:フエンテス
篠田龍馬・関口優志・大久保大翔・水谷颯真・星龍太・オリベイラ アルトゥール・安藤良平・スパウット トゥエンクラーン・星翔太・野村悠翔・西谷良介・吉川智貴・八木聖人・笠井大輝・平田ネト アントニオ マサノリ・ガブリエル ベネジオ

＜シュライカー大阪＞ 監督:永井義文
高見政顕・檜山昇吾・澤野亮太・松川絹汰・安彦憲史郎・齋藤日向・堀内迪弥・加藤未渚実・磯村直樹・相井忍・清水寛治・永島天太・計盛良太・田村友貴・加藤翼・中井駿斗・水田貴明・井口凜太郎

＜ボルクバレット北九州＞ 監督:馬場源徳
鈴木陽太・小林蒼・高橋健・花嶋悠・田村研人・横山巧・安嶋健至・小林謙太・クシヤマ イザケ・田村龍太郎・青大祐・清水誠也・津田京一郎・樋口岳志

＜バサジィ大分＞ 監督:伊藤雅範
矢澤大夢・村山竜三・橋野司・野口茅斗・瀧澤太将・山田凱斗・仁部屋和弘・森村孝志・吉田圭吾・パカット・小門勇太・芝野創太

＜しながわシティ＞ 監督:岡山孝介
柿原聡一朗・岩永汰紀・サカイ ダニエル ユウジ・松原友博・佐藤建也・中村友亮・白方秀和・宮崎貴史・菅谷知寿・宗像紘輝・野村啓介・山田翔司・丹羽脩人・ボラ・熊谷利紀

＜ヴィンセドール白山＞ 監督:杉木陽介
大野克・岡本仁・村山直樹・冨田祐耶・広瀬和英・長坂京平・伊藤脩佑・寺島拓海・世古一歩・池上竣也・中嶋亮人・三上優貴・十河舜・山口和人・永田周也・義浦靖貴・菅原健太朗

＜アグレミーナ浜松＞ 監督:高橋優介
三浦弘暉・ミヤモト ギレルメ・生駒瑠唯・鷲北一輝・萩原洪拓・山桐正護・松本行令
松浦勇武・巽優太・川本樹弥・川辺寛悟・須藤慎一・名倉佑哉・磯田剛志・田中智基・児玉風河

＜デウソン神戸＞ 監督:鈴村拓也
馬場翔太郎・江波戸紘之・眞野翔太・山崎椋太・赤木大星・柿本輝・湯浅拓斗・霜出聖也・前野俊哉・佐々木淳・武石高弘・今道拓也・山野瞭・佐川裕己・小西雄大・岡本生成

＜ポルセイド浜田＞ 監督:北智之
川内康幹・後藤駿介・中田貴大・長嶺岳人・久保研二・オオヤ モントロ エンヒ・高橋琉七・野本太一・三浦祐人・布田有祐・橋岡翔大・道岡昌弘・松山尚輝多・高橋英也

＜広島エフ・ドゥ＞ 監督:村上哲哉
尾関潤・阿部寛大・鈴木雄大・水田伸明・新後司・渡辺大輔・津田卓・武田侑也・佐々木諒・寺本芳希・冨廣洋平・田中晃輝・岩崎豪・仁井貴仁・内田大晴・小島翼・三島光太郎

＜ソルブレーサ＞ 監督:山本真太郎
佐々木悠斗・杉本魁來・和田陽輝・栗田悠雅・栗田大雅・赤井貴哉・新島啓太・小原風輝・金澤修・山本真太郎・伊藤嶺・大塚寛己・江良祐哉・仁科佑太・冨田岳・相内大佑・瓦林貴之・森山泰地・中山大空・花井輝

＜東北ヴォスクオーレ仙台ゼクサヴァイン＞ 監督:清水誠
倉橋洋介・山本佳輝・佐藤寛太・中村章・渡邊一城・小野寺那央・丸山将輝・平澤湊・今井翔・井上卓・浅野翼・伊藤瑠偉・中島千博・本間海音・山口玲音・神保飛翔・米山和樹

＜バルドラール浦安セグンド＞ 監督:冨成弘之
堀優之介・菊池拓哉・福重勝徳・古山巧・恩田拳樹・平井雅大・岡田大毅・大島旺洋・眞田直樹・山崎隆史・尾形颯志・西村祐飛・渡辺篤真・安斎義将・本間伽寿斗・外川海斗・浅野佑多・二宮秀文・矢口凌多・伊藤祐汰

＜オーパ＞ 監督:渡邊大
渡邊良太・平田睦・黒谷一成・花田孝汰・村田真輝・小堀将人・遠藤隆男・林賢治・渋谷啓太・奥橋伸也・吾郷翼・山田柊弥・小沼真仁・藤本和・笹原悠良

＜府中アスレティックFCサテライト＞　監督:佐藤剛
西滉太・長井雄・成田宇弘・出川翔・竹澤龍太郎・近藤広野・安達颯介・安東直生・小林晋明・今野遼介・尾山大海・吉岡璃欧・丹兼一郎・大久保龍之介・河原井陸・福森剛琉・中分斗基・千野慧太・大野侑甚・岩本大輝

＜トロブラボ富山＞　監督:戸田博康
橘和徳・柏原徳明・西内康裕・山田哲也・岩白大空・酒井滉平・中村優志・松井優樹・左尾豊樹・小林恵嗣・二口大樹・細川淩太・細川陽平・中村祐大

＜デフィー/グリーンフィールド＞　監督:八木康介
橋山優大・北原圭祐・加藤啓佑・大石勇介・石橋泰志・大石翔・桑原京右・吉添純平・増田紘也・岩崎涼太・新井絢三・増田脩・増田光章・吉永光佑・増田隆明・柴本晃伸

＜げんティーズ＞　監督:田中秀幸
浅野堅信・河井蓮・丹羽快斗・道家大河・山口冬馬・黒田翼・高井健聖・梶浦祐登・奥田陽祐・高田歩武・渡邉修平・田中元都・服部竜弥・坂井悠人・安藤天由・酒井蓮・森重裕太郎

＜リンドバロッサ京都＞　監督:原田浩平
竹内啓・下柿元久登・瀧田広明・後藤田健太・村山幸資・加藤匠・西川太志・片倉冬威・木村幸平・濱本和希・上山慶輔・尾本邦彰・安部孝則・三木誉・内田健太・中村修斗・藤原拓未・馬場知之・道法弘暉

＜大阪経済大学フットサル部＞　監督:小林直登
虫明亮・高田耀・吉本大翔・衣川遼・梶原雄登・植場健・石田凌也・今村竜也・山田晟仁・中本智貴・三島勇稀・木田唯斗・津田拓真・大月慎平・川西弘洋

＜ラック ザ ドライブ＞　監督:松岡進吾
岡野拓也・西岡玲平・村上正・上岡孝徳・下瀬冬晟・山本優太・西岩一樹・山岡優馬・平尾允椰・谷口将太郎・都築卓哉・中野陽太・久保大地・藤原伸・田中努・宮本雄太・浅野祥吾・堤卓馬・内藤開・村上豊

＜FCミラクルスマイル＞　監督:宇野正博
岩本康典・吉田衡・井川太士・大原裕・藤坂翔太・大坪嵩啓・久保和也・大西駿太・堀江良太・大松稜・穴山成希・神野史将・石川峰志・黒木陸玖・高橋英史・近藤光・脇聡・藤崎克憲・塩崎伸卓・多田羅優

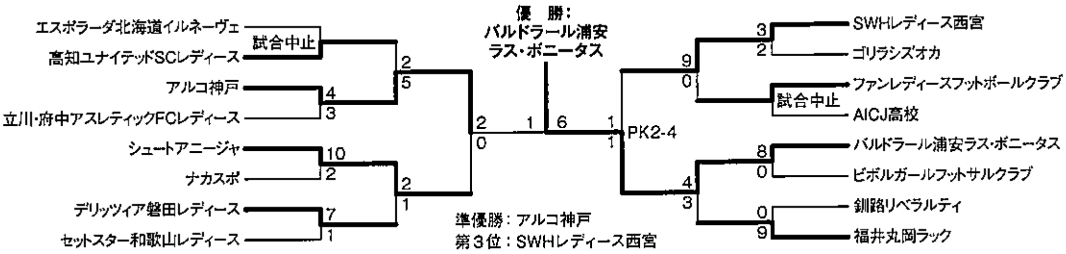
＜クレセールフットサルクラブ＞　監督:江口孝一
三位所征史・清家大葵・淵脇健司・平賀翔伍・江口将志・江口孝一・太見寿人・安東侑哉・渡辺要・小山剛史・黒子直樹・岡本佳祐・野田智幸・吉原凌介・増田雄哉・江口学・日永田祐作・松永託・竹内七海・太田俊一郎

＜R, D/ディノ＞　監督:藤川徹
竹内駿介・稗田真大・八尋裕大・渡辺勇太・吉村一馬・宮崎孝介・中村陵駆・藤井翔平・松元達矢・小林邦光・徳永廉・田中雅崇・山口哲平・三宅研司・吉田直

JFA 第18回全日本女子フットサル選手権大会

JFAが主催する本大会は、JFAのフットサル個人登録およびフットサル大会登録を行った13歳以上（ただし、中学校在学中の選手にはこの年齢制限を適用しない）の女子選手により構成されたチームに出場資格が与えられた。今大会は、3月4日～6日に16チームが参加して、北海道のよつ葉アリーナ十勝で開催された。

※大会レポートは 71 ページに掲載



フェアプレー賞：SWHレディース西宮

＜3位決定戦＞シュートアニージャ　2-4　SWHレディース西宮

準決勝

アルコ神戸　2（前半0-0　後半2-0）0　シュートアニージャ

●2022年3月5日　16:15　●よつ葉アリーナ十勝 ピッチA　●試合時間:40分　●審判員:[主審]山本真理　[第2審判]増田亜希　[第3審判]山﨑香織　[タイムキーパー]徳永光恵　●観衆:150人

選手名	出場	番号	位置	位置	番号	出場	選手名
佐藤麻陽	○	1	GK	FP	4	△	小林海咲
安達祥子		5	GK	FP	7	△	原田千聖
小村美聡	△	6	FP	FP	8	△	加藤伊吹
中島菜月	○	8	FP	FP	10	△	新見香穂
堤早希	○	10	FP	GK	12	△	佐藤沙彩
山口真梨奈	△	13	FP	FP	13	○	高橋奈々
中西真由美		14	FP	FP	14	○	松木里緒
保科永美	△	16	FP	FP	15	△	山本華乃
藤田靖香	△	17	FP	FP	16	○	石内鼓乃
山川里佳子	○	18	FP	FP	17	○	尾田綴奈
若林エリ	○	19	FP	FP	18	△	鈴木睦未
小野真咲		20	FP	FP	19	△	川野りな
				GK	21	○	由比初美
安藤信仁	監督			監督			小野直樹

得点　[神戸]22' 藤田靖香(1-0)、29' 若林エリ(2-0)

○:先発、△:交代出場

準決勝

SWHレディース西宮　1（前半0-0　後半1-1　PK2-4）1　バルドラール浦安ラス・ボニータス

●2022年3月5日　16:15　●よつ葉アリーナ十勝 ピッチB　●試合時間:40分、PK　●審判員:[主審]豊間久美　[第2審判]外舘美穂　[第3審判]柴田澪　[タイムキーパー]齋藤香菜　●観衆:150人

選手名	出場	番号	位置	位置	番号	出場	選手名
ミレリカリアネ・メルニチェンコ	○	1	GK	GK	2	·	庄子彩
江口未珂	○	3	FP	FP	4	○	四井沙樹
高橋美香		4	FP	FP	6		田中千尋
追野沙羅	○	7	FP	FP	7	△	平井佑果
佐藤朋加		8	FP	FP	8	△	宮原ゆかり
江川涼	△	9	FP	FP	10	△	加藤正美
網城安奈	△	10	FP	FP	14	○	松本直美
宮田亜里紗		11	FP	FP	15	○	伊藤果穂
尾川奈穂	○	14	FP	FP	17	○	筏井りさ
淺井智恵		17	FP	FP	18	△	平井成美
窪田美月	○	18	FP	GK	21	○	杉山藍子
藤江沙樹	△	19	FP	FP	22	△	伊藤佳穂
三津山美有	△	20	FP	FP	23	△	倉持杏子
山本彩加		21	GK	FP	99	△	千田日向子
上久保仁貴	監督			監督			米川正夫

得点　[SWH]23' 尾川奈穂(1-1)　[浦安]22' 四井沙樹(0-1)

警告　[浦安]40' 四井沙樹

PK　[浦安]先(10)○(7)○(15)○(23)×(8)○
[SWH](9)○(10)×(3)×(18)○

○:先発、△:交代出場

3位決定戦

シュートアニージャ 2（前半1-3 後半1-1）4 SWHレディース西宮

●2022年3月6日　10:30　●よつ葉アリーナ十勝　●試合時間:40分　●審判員:[主審]齋藤香菜　[第2審判]山崎香織　[第3審判]徳永光恵　[タイムキーパー]外舘美穂　●観衆:200人

選手名	出場	番号	位置	位置	番号	出場	選手名
小林海咲	△	4	FP	FP	3	○	江口未珂
原田千聖	△	7	FP	FP	4	△	高橋美香
加藤伊吹	△	8	FP	FP	7	○	追野沙羅
新見香穂	△	10	FP	FP	8	△	佐藤朋加
佐藤沙彩	○	12	GK	FP	9	△	江川涼
高橋奈々	○	13	FP	FP	10	△	網城安奈
松木里緒	○	14	FP	FP	11	△	宮田亜里紗
山本華乃	△	15	FP	FP	14	○	尾川奈穂
石内鼓乃	○	16	FP	FP	17	△	淺井智恵
尾田緩奈	○	17	FP	FP	18	○	窪田美月
鈴木睦未	△	18	FP	FP	19	△	藤江沙樹
川野りな	△	19	FP	GK	21	○	山本彩加
由比初美	△	21	GK	GK	22		丸山紀美
				FP	28	△	後藤伊史
小野直樹	監督			監督			上久保仁貴

得点　[シュート]1'尾田緩奈(1-0)、35'松木里緒(2-3)　[SWH]8'窪田美月(1-1)、16'江口未珂(1-2)、18'江川涼(1-3)、37'網城安奈(2-4)

○:先発、△:交代出場

決勝

アルコ神戸 1（前半0-2 後半1-4）6 バルドラール浦安ラス・ボニータス

●2022年3月6日　13:00　●よつ葉アリーナ十勝　●試合時間:40分　●審判員:[主審]豊間久美　[第2審判]山本真理　[第3審判]増田亜希　[タイムキーパー]柴田澪　●観衆:250人

選手名	出場	番号	位置	位置	番号	出場	選手名
佐藤麻陽	○	1	GK	GK	2		庄子彩
安達祥子		5	GK	FP	4	○	四井沙樹
小村美聡	△	6	FP	FP	6	△	田中千尋
中島菜月	○	8	FP	FP	7	△	平井佑果
堤早希	○	10	FP	FP	8	△	宮原ゆかり
山口真梨奈	△	13	FP	FP	10	△	加藤正美
中西真由美		14	FP	FP	14	○	松本直美
保科永美	△	16	FP	FP	15	○	伊藤果穂
藤田靖香	△	17	FP	FP	17	○	筏井りさ
山川里佳子	○	18	FP	FP	18	△	平井成美
若林エリ	○	19	FP	GK	21	○	杉山藍子
小野真咲		20	FP	FP	22	△	伊藤佳穂
				FP	23	△	倉持杏子
				FP	99	△	千田日向子
安藤信仁	監督			監督			米川正夫

得点　[神戸]29'若林エリ(1-5)　[浦安]1'四井沙樹(0-1)、18'伊藤佳穂(0-2)、23'平井成美(0-3)、25'筏井りさ(0-4)、26'加藤正美(0-5)、39'平井佑果(1-6)

警告　[神戸]30'藤田靖香、37'堤早希　[浦安]38'筏井りさ

○:先発、△:交代出場

【参加選手】

＜エスポラーダ北海道イルネーヴェ＞　監督:土屋浩
石森唯・山本楓果・井瀬琳・齊藤日向子・白戸愛華・齋藤詩歩・齋藤星那・北林莉子・阿部莉音・鳴海若菜・星山彩香・阿部紗央厘・千葉愛・武井柚香・太田涼日・野村奈生・大久保美聡・松原芽生

＜釧路リベラルティ＞　監督:伊藤晃一
村上楓・伊藤唯・黒澤有吏・天野歩美・伊藤希美・村上琉香・石岡愛夏・深津蒔・小野寺華音・西内美緒

＜ナカスポ＞　監督:来迎鉄雄
来迎悦子・櫻川るな・柴田永輝・平田楓・卯月穂乃咲・尾下心渚・佐井渓生・佐藤青衣・柴田夢真・佐藤李那・佐藤青空・小平乃愛・小平璃乃・櫻川らな・樋口夢来・下舘陽美・落合夏海・川村蒼・與羽樹・フィールド碧海

＜ファンレディースフットボールクラブ＞　監督:村上今日子
佐藤まゆみ・菅珠江・川上藍・佐藤希穂・森谷志織・鈴江紗希・村上今日子・村上奈奈・山下友紀・齊藤仁美・松浦綾・宍戸和心・佐藤周香・福地鈴・佐々木萌花・小嶋乃愛

＜シュートアニージャ＞　監督:小野直樹
佐藤沙彩・由比初美・小林海咲・原田千聖・加藤伊吹・新見香穂・高橋奈々・松木里緒・山本華乃・石内鼓乃・尾田緩奈・鈴木睦未・川野りな

＜バルドラール浦安ラス・ボニータス＞　監督:米川正夫
庄子彩・小関美穂・杉山藍子・小川彩音・四井沙樹・臼杵深徳・田中千尋・平井佑果・宮原ゆかり・加藤正美・千葉凪子・多田千優・松本直美・伊藤果穂・筏井りさ・平井成美・大河原凜・伊藤佳穂・倉持杏子・千田日向子

＜立川・府中アスレティックFCレディース＞　監督:岡山洋介
河島佳奈・井上ねね・中川さらさ・服部真彌・櫻庭里紗・森田美紅・鎗谷佳恵・藤田実桜・島崎美和・金子由香里・中島詩織・縄田三佳・佐々木日菜乃・斉下遥音・宮崎世梨奈

＜福井丸岡ラック＞　監督:田中悦博
浅野樹・井端真梨奈・小林望月・藤江真尋・横山夢花・横山凛花・加藤ほのか・福田心悠・高尾純奈・北川夏奈・池内天紀・高尾茜利・前田海羽・山崎鈴奈・荒井一花・北嶋笑・福田真悠・小林日々花・北出詩音・平澤愛琉

＜デリッツィア磐田レディース＞　監督:千葉武
前原りんご・今井まゆら・水谷伊澄・野田桜菜・高橋明子・寛野未恵・駒形奈々・緒方友里加・花谷そよ子・上村綾・中村茉琴

＜ゴリラシズオカ＞　監督:小池良平
井手なつみ・竹本凪沙・望月桃花・荒木奈々瀬・朝比奈杏花・榊原琴乃・植松里美・塚本夏希・奥山沙和子・後藤真生・飯田真帆

＜SWHレディース西宮＞　監督:上久保仁貴
ミレリカリアネ メルニチェンコ・見矢明日香・山本彩加・丸山紀美・江口未珂・高橋美香・長澤優芽・中野みづき・追野沙羅・佐藤朋加・江川涼・網城安奈・宮田亜里紗・町奏美・尾川奈穂・淺井智恵・窪田美月・藤江沙樹・三津山美有・後藤伊史

＜アルコ神戸＞　監督:安藤信仁
佐藤麻陽・安達祥子・小村美聡・田中ちひろ・中島菜月・関灘美那子・堤早希・青山明日香・鵜飼七緒子・山口真梨奈・中西真由美・菊池梨佳子・保科永美・藤田靖香・山川里佳子・若林エリ・小野真咲・高畠早奈恵・青山葵

＜セットスター和歌山レディース＞　監督:阪下巧
浦野文絵・松本奈々・宮本萌・児玉友梨・中和田理穂子・阪下祭・平麻由美・片渕裕子・板谷かのあ・山田瑞月・小谷乃愛・伊藤さやか・早川葵比

＜AICJ高校＞　監督:小川潤一
富永若葉・村本夏希・小田こころ・松川杏美・中谷和月・政岡那奈子・植野沙耶・櫻田真衣・坂本葵彩・岸波優妃・疋田祝華・江藤侑生・鶴岡朱音・石本千弥・和田奈々美・岩土未夢・小林万璃・桑原藍・森田千尋・梅津真央

＜高知ユナイテッドSCレディース＞　監督:中島涼太
松田陽友・秋山華穂・岡田大渚・上村満里菜・片岡歩羽・宮成陽菜・市原楓花・川久保花夏・西森海琴・濱渕七彩・西村胡桃・楠瀬梨元・隅田愛・池愛海・伊藤あいな・大地心菜・大山寧々・松田楓友花・大崎りん

＜ビボルガールフットサルクラブ＞　監督:柴田敏博
新田愛夢・木場美希・穐山夏波・穐山夏渚・辻野怜香・松本千恵璃・今井麻琴・濱口友惟・木村日向子・山尾柚莉杏・飛田藍香・中島俐咲・布志木香帆・山崎裕美

JFL便り

FCマルヤス岡崎
http://fc-maruyasu.jp/

超越－すべては勝利のために－

FCマルヤス岡崎　広報担当　濱田 知佐

FCマルヤス岡崎（マルヤス工業フットボールクラブ）は1968年にマルヤス工業サッカー部として創部しました。1975年には愛知県サッカーリーグで優勝し、翌年から東海社会人サッカーリーグに戦いの場を移しました。2003年には愛知県サッカー選手権を制して初の天皇杯出場権を獲得。2013年に東海社会人サッカーリーグを制覇すると、2014年のJ3リーグ新設に伴いJFLへの入会が決まりました。その際にチーム名を「FCマルヤス岡崎」としました。

JFL８年目となった昨シーズンは、目の前の試合に全力を尽くして勝利することを目標に、「一戦必勝」のスローガンの下、チーム一丸となってリーグ戦に臨みました。新型コロナウイルスの影響で思うようなスタートを切ることはできませんでしたが、開幕戦ではクラブ初となる勝利を収め、前半戦は得点力不足だったものの失点数も少なく、上位陣に食らいつく戦いを見せました。

天皇杯では愛知県予選の決勝まで駒を進めるも、12年ぶりにJFL復帰を果たしたFC刈谷に0-1で敗れ、本戦出場はかないませんでした。

夏にはHonda FCで5度の優勝を経験している井幡博康監督を迎え、攻撃的なサッカーにシフトチェンジをしました。新体制でクラブ史上最高順位を狙いましたが、なかなか勝ち点を奪うことができず、最後は残留争いに加わることになりました。結果的に残留は果たしたものの、通算順位は14位という不甲斐ない成績でシーズンを終えることとなりましたが、それでも終盤戦では随所に攻撃的なサッカーを体現できる試合が増え、今後の成長が期待できる2021年でもありました。

今シーズンは、粘り強く最後の最後までゴールを守り抜く意識を全員が高め、GKやDFだけでなく、MFやFWも含めた組織的な守備への意識やボール奪取力を高め、失点を減らしていきたい。

そんな今シーズンのチームスローガンは「超越ーすべては勝利のためにー」。自分たちの限界を遥かに超え、勝利のために全力を尽くし、選手・スタッフ一丸となって戦い抜きます。

また、チームコンセプトである「岡崎市の名を全国に」「サッカーで会社を元気に」を合言葉に、地域イベントへの参加やサッカー教室などの地域貢献活動も積極的に行い、社会への貢献はもちろん、地域に根差して発展していくことを目指していきます。

井幡博康監督の下、チーム一丸となって優勝を目指す

JFL便り

ラインメール青森
https://reinmeer-aomori.jp/

ラインメールAO（Arigato、Okagesamade）森

株式会社ラインメール青森フットボールクラブ
運営委員・広報担当　山際 雅治

ラインメール青森FCは「サッカーを通じてもっと健やかに、もっと幸せに、もっと豊かな地域づくりを目指す」というクラブ理念の下、活動しています。

2019年にJリーグ百年構想クラブに認定、同年にJ3クラブライセンスが交付され、Jリーグ参入の準備は整いました。しかしながら、以後3年間では、J3参入要件の４位以内に入ることができず、ホームでの観客動員数も平均2,000人に達することができませんでした。

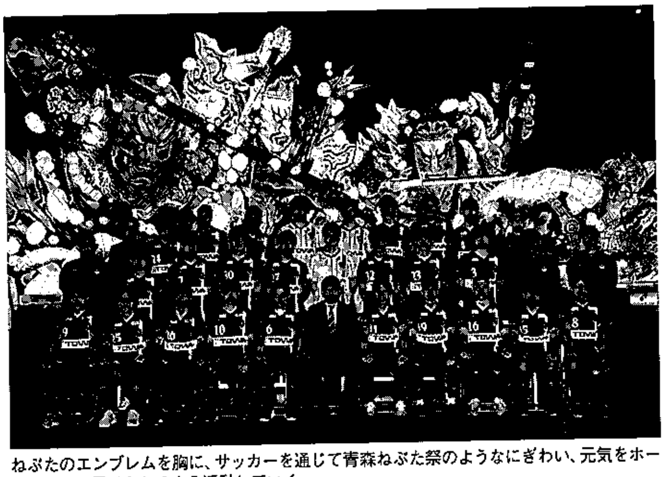
多くのお客さまに会場に足を運んでいただくための取り組みとして、今一度、原点であるホームタウン・青森市と向き合い、立ち返ることが重要と考え、「知名度・認知度向上」を合言葉に今年一年間活動していきます。

「知名度」「認知度」を上げるためには、ラインメール青森FCに触れる機会を増やしていくことが重要です。そのためには小さなこと、今すぐにでもできることから、とにかくアグレッシブに活動し、ホームタウンに必要とされる存在になること。また、ホームタウン・青森市の皆さまから、日ごろより多大な支援をいただいていることに感謝し、恩返しをする気持ちをあらためて心に留め、活動しています。

今シーズンはJリーグやJFL、大学サッカー、ユース年代など、指導経験豊富な柴田峡新監督を迎え、新たなサッカースタイルでJFLを戦います。柴田監督は「試合を見た人を元気にできる・元気にさせられるサッカー」をテーマに掲げています。サッカーは勝つ試合もあれば負ける試合もあります。試合を見に来てくださった方に「試合は負けたけど、選手たちは一生懸命にやっていて元気をもらった」と思って帰ってもらいたい、という思いがテーマには込められています。

高校サッカー選手権や甲子園でプレーする高校生たちの姿に心を打たれ、感動・勇気・元気をもらうのはなぜでしょうか。ひたむきに一生懸命、目標に向かって手を抜かない姿を見せているからだと思います。そんなチーム、クラブになれるよう、私たちもひたむきに活動し、成長していきます。

最後に、日ごろからラインメール青森FCをご支援いただいているホームタウン地域の皆さま、関係者の皆さま、本当にありがとうございます。これからも熱いサポート、ご支援をよろしくお願いいたします。



ねぶたのエンブレムを胸に、サッカーを通じて青森ねぶた祭のようなにぎわい、元気をホームタウンに届けられるよう活動していく

なでしこリーグ便り

大和シルフィード
https://www.yamato-sylphid.com/

新エンブレムでさらなる飛躍と女子サッカーの普及を

大和シルフィード株式会社　代表取締役社長　大多和 亮介

3月1日、大和シルフィードはクラブの新たなエンブレムを発表させていただきました。さまざまな意思を込めて作成したこのエンブレムですが、真ん中を貫く右肩上がりの矢印は、「エンパワーメント」を表現しています。1998年に大和シルフィードの中学生チームが創設された背景には、後に世界一となる、当時小学6年生だった川澄奈穂美選手や上尾野辺めぐみ選手ら女子選手たちが、中学生以降も女子サッカーを続けていくことのできる環境を整備するという目的がありました。日本に女子サッカーのプロリーグができる前から、サッカーを続けていきたいと願う女の子たちに寄り添い、その成長をエンパワーメントしてきたのがこのクラブのフィロソフィーであり、そうした思いを今後も根幹に据えていく覚悟を込めたエンブレムとなっています。

そしてこの「エンパワーメント」は、女子サッカー選手として成長を求める女の子たちだけに向けられたものではなく、むしろスポーツへの関心度や親しみが低い、もしくはこれまでのスポーツ経験の中で低くなってしまったような女の子、そしてスポーツから離れてしまった女の子たちも対象にしていきたいという思いから、2022シーズンは「Girls Empowerment Project」をスタートさせます。

このプロジェクトには、ナイキ、ローレウス・スポーツ・フォー・グッド財団と大坂なおみ選手が取り組むプログラム「プレー・アカデミー with 大坂なおみ」からの助成も決定しています。大和シルフィードの選手たちとの交流や、ワークショップなどの実施を通じて、スポーツが大好きになるきっかけにしてもらうことに加えて、自己肯定感を高め、将来に向けてのさまざまな主体的なアクションを引き出すような内容を予定しています。これは女の子たちにとって素晴らしい機会となるだけでなく、大和シルフィードの選手たちにとっても、女子サッカー選手としての価値や経験をピッチの外で生かすことのできる貴重な機会になるよう、計画と準備を進めています。

大和シルフィードトップチームは今年、なでしこリーグ2部を戦います。上記のような地域での活動も充実させながら、最後は優勝を勝ち取れるよう、クラブ一丸となって成長していく所存です。

新エンブレムを胸に一致団結して2022シーズンを戦っていく

なでしこリーグ便り

日体大SMG横浜
http://www.nittaidai-fc.com/ladies

サッカー境界

日体大SMG横浜　代表　矢野 晴之介

今こうして執筆している最中も戦争で苦しんでいる方々がたくさんいます。国と国の境界線が無秩序に脅かされています。近年、「体罰や暴力、そして暴言をなくそう」と世界中で叫ばれていますが、「でも戦争はいいのか」と言いたくなります。自身の無力さを感じながらも、本当に無力なのかと考えます。現地に赴かなくとも弊クラブで幾つか世界平和に寄与する(している)であろう事柄が挙げられます。

弊クラブは日本体育大学女子サッカー部がスポンサードを受け、なでしこリーグに参戦しています。そもそも大学と企業、そして地域の3者は全く相いれない関係性であり、そこにははっきりと境界がありました。しかし、今ではその境界線が溶け出しています。地域の理解や協力、さらには企業の支援や共感と表現できるかもしれません。

選手はチームメートと勝利のために手を取り合い、クラブは所在する地域の人々と相互に与え合う、そして企業は社会貢献と称して無償の愛を与える。このような関係性がなければ、もしかすると「コロナ禍にサッカーなんて」と地域の人々にご指摘を受けるかもしれません。企業の方と選手がすれ違っても挨拶もしないかもしれません。

しかし、今は違います。大学付近のお店にはポスターが飾られ、選手やスタッフは会話を楽しんでいます。ガソリンスタンドや郵便局、ラーメン家さんに焼肉屋さんと枚挙にいとまがない。選手たちはなぜこのような活動ができているのかを理解しており、地域の人々はサッカーのある生活を楽しんでいます。

小さないさかいは日常に数多くあり、練習中に選手同士で互いに主張し、意見をぶつけ合います。クラブを運営していく中でも、人と人の間にあつれきが生じます。それぞれの立場で意見が食い違い、そこで、社会にはさまざまな人がいて、いろいろな考え方があることを知ります。それぞれの境界を分かち合って譲り合いながら受け入れ、交わりあって溶け出す。そして大きな一つの塊になっていく。サッカーを通して、小さな世界平和を少しずつ実現していきたいです。

平たくして和むと書いて「平和」。国籍や性別、所属や役職という境界は徐々になくなりつつあります。スポーツ、とりわけサッカーが世界平和の架け橋となると本気で考えています。選手たちで考えた今シーズンのスローガンは「翔蹴ル。」。それぞれが目標に向かって空高く羽ばたき、大きく飛躍したいと願いを込めた。もう一つ、境界に橋を架けるという大きな使命も担っています。平和を願います。

写真はプレシーズンマッチで得点を挙げ、皆で喜びを分かち合う姿

日本ビーチサッカー連盟便り

日本ビーチサッカー連盟
http://jbsf.or.jp/

理学療法士とビーチサッカーと北海道

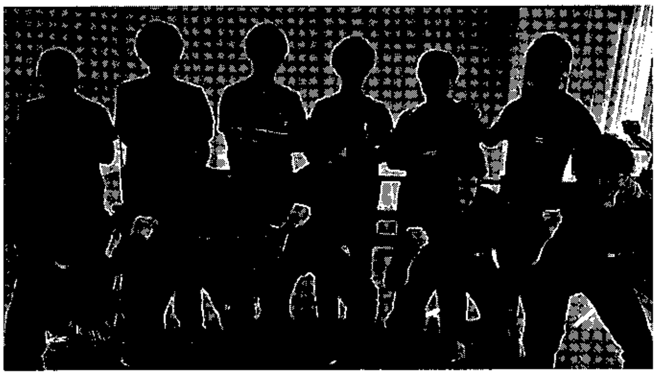
悠仁会 羊ヶ丘病院理学療法士、北海道ビーチサッカー連盟理事
三島 孝史

記録的な大雪に見舞われた北海道の冬も去り、屋外でサッカーができる季節になろうとしています。

昨年のBeach Soccer地域リーグチャンピオンシップに北海道代表として当チームが参加しました。FIFAビーチサッカーワールドカップで準優勝に輝いた選手のプレーを目の当たりにし、全国大会での1勝を目標とするわれわれにとって刺激的な経験となりました。われわれビーチサッカーチーム羊ヶ丘病院は、当病院職員のみで構成され、発足して間もないチームです。羊ヶ丘病院は北海道札幌市内にあるスポーツ専門外来を特徴とした整形外科の病院であり、関係者全員が医療従事者としてアスリートをはじめとする患者さまの治療にあたっています。チームのメイン練習場は、北海道の気候的な問題もあり、サンドコートではなく屋内の人工芝グラウンドです。限られた環境や時間の中でもチームの目標である「全国大会での1勝」を達成するべく、スポーツ医学における専門分野の情報を用いるなどして練習に励んでいます。理学療法士としてビーチサッカーの特徴的な競技特性や身体機能を捉え、不安定なピッチにおける障害予防へアプローチし、チームとしてそれをプレーで体現したいと考えています。活動ができることに感謝し、医療従事者としてさらにアスリートや患者さまの治療に関わり、雪国・北海道のビーチサッカーの発展に貢献したいと思っています。

北海道のビーチサッカーの発展と普及を目的に、北海道ビーチサッカー連盟は昨年12月にU-8、U-10のカテゴリーを対象としたビーチサッカークリニック2021を開催しました。日本ビーチサッカー連盟の協力もあり、ワールドカップ準優勝メンバーである赤熊卓弥選手と奥山正憲選手にお越しいただきました。感染拡大防止対策を講じた中での開催となりましたが、参加した子どもたちは2人の日本代表選手が見せるプレーの一つ一つに感激し、楽しそうにビーチサッカーボールを蹴っていました。

今後は雪国・北海道から日本のビーチサッカーに貢献できる人材を発掘、育成し、積雪環境に対応できる屋内のサンドコート練習場をはじめとする競技環境の整備を行っていく必要があると考えています。2022年のサッカーワールドカップイヤーに北海道のビーチサッカーにおいても新しい景色が見られるように努力していきます。



発足間もないながら、北海道代表として第7回Beach Soccer地域リーグチャンピオンシップに出場した羊ヶ丘病院ビーチサッカー部

日本フットサル連盟便り

日本フットサル連盟
http://www.jff-futsal.or.jp/

フットサル界の未来を担うU-18世代の育成

熊本県フットサル委員会　U-18リーグ担当　後藤 隼志

熊本県U-18フットサルリーグは2021-2022シーズンで11回目を迎えました。多くの高校生年代が参加するこの大会は、サッカーチームも参加可としており、その中から社会人リーグに興味を持つ選手も出てきています。

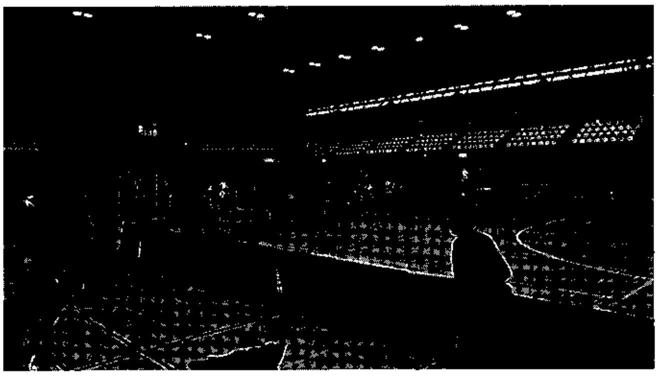
社会人と同じ環境でフットサルの奥深さをより理解してもらおうと、第11回大会から社会人と屋内体育施設で、午前をU-18リーグ、午後を社会人リーグで使用し、大会を行っています。社会人と同じピッチを使用することで、よりフットサルの競技の面白さ・特殊性の理解につながっているのではないかと思います。

ピッチづくりも公認審判インストラクターや上級審判員指導の下、選手自身で行っています。競技を行う環境を自らつくることで、よりフットサルの理解を深めることができます。この取り組みには各指導者からも賛同を得ています。今シーズンは、こちらからの指示は最小限で、各チームで正確なピッチができるまでに浸透しました。また、各試合にマッチコミッショナーを付け、MCM(マッチコーディネーションミーティング)からの流れを経験してもらい、社会人と同じレベルで競技運営を行っています。

第11回大会から、審判育成にも力を入れ始めました。公認審判インストラクターと上級審判員が最新の競技規則の下、毎試合指導を行っています。U-18リーグも社会人リーグと同様、帯同審判制を採用し、リーグ開催前にU-18リーグ参加者を対象とした新規4級フットサル審判講習会を開催しています。そのため、帯同審判は全員が資格保有者です。競技規則を理解することでプレーの幅は広がり、変化していく競技規則にも対応できます。スポーツを理解する上で重要なことです。

九州U-18フットサル選抜大会が廃止され、九州内でのU-18チームの交流がほとんどなくなってしまいました。九州のレベル向上のためにもU-18年代の強化は急務だと考え、熊本ではU-18リーグだけでも11年間、継続して開催しています。この経験を生かし、九州U-18リーグ開催に向けて準備をしています。

最後に、少子化問題が叫ばれている昨今、部員数の減少で公式戦出場が難しいという話も出ています。子どもたちがボールを蹴る機会を提供することもわれわれの使命だと捉え、U-18リーグがその一助を担えたらと考えています。この世代への普及がフットサル界の未来につながると信じ、今後もよりフットサルという競技への関心を高める取り組みを続けていきます。



オフィシャルの後方でマッチコミッショナーと審判指導者が試合を観戦することにより、社会人に近づけたリーグ運営を行っている

なでしこひろば便り

なでしこひろば
http://www.jfa.jp/nadeshikohiroba/

共に成長！

秋田県サッカー協会　キッズ委員会　保坂 美加

35年前、私がサッカーを始めた頃は「女の子がサッカーするの？」と驚かれ、男勝りでお嫁に行けなくなるよと心配された時代でした。それから年月が過ぎ、女の子がサッカーをすることが珍しくなくなった今だからこそ、女子サッカーの魅力をより多くの人に知ってもらいたいと強く感じています。

サッカー未経験の小さな子どもから大人が楽しめる環境を、女性コーチが指導や企画を立てて活動できる場を、みんなで築き上げたいと思い「なでしこひろば」を開催しました。

対象は年齢や性別は問わず、誰でも気軽に参加可能です。参加者は秋田市内の4種チームに所属する女子選手を主体に、巡回指導やキッズサッカーフェスティバルなどでサッカーに興味を持った子どもたちが参加しています。

中には、平日にもかかわらず近隣の市町村から片道1時間もかけて参加する子どももいます。娘が楽しんでいる姿を見ることができてうれしいと送迎をしてくる方もおり、この活動を理解いただき、応援してくださる保護者の皆さまには心から感謝しています。

開催場所の秋田中央スポーツセンターのグラウンド内に設置した受付では、テープに自分の名前を書くだけでも大騒ぎになります。グラウンドいっぱいに響き渡る参加者の笑い声や話し声で、周囲はにぎやかで華やかになります。

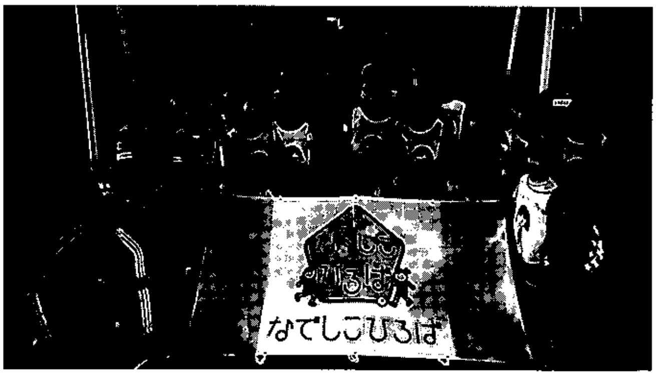
所属チームでは男子が多い中で負けないくらいのパワーみなぎる女子もいれば、遠慮がちで活発な姿をなかなか見せられない女子もいますが、ここでは自然とリラックスして笑顔があふれています。

雪が降るまではグラウンドで、冬場は近隣の体育館を借りて通年活動しています。

秋田の女子選手はまだまだ少ないのが現状で、なでしこひろばやトレセン等の参加者の顔ぶれはほとんど変わりませんが、そこに集まる女子同士には絆が見られます。

この活動が女子サッカーの普及・育成・強化へとつながり、より多くの女の子たちが夢を持ち、また生涯スポーツとしてサッカーを続ける足掛かりになることを願います。

この活動を通じて、私自身、C級コーチライセンス取得にチャレンジしました。これからもこの子たちと共に、楽しく一緒に成長していきます！



なでしこひろばを通して女子サッカーの魅力を伝えていく

日本障がい者サッカー連盟便り

日本アンプティサッカー協会
http://j-afa.jp/

アンプティサッカーワールドカップ2022 東アジア予選大会～ East Asian Qualifiers-2022～

日本アンプティサッカー協会　メディカル委員　小川 誠貴

3月12日から14日にかけて、アンプティサッカーワールドカップ2022東アジア予選大会がバングラデシュで開催されました。同大会は、今年の10月1日～9日にトルコで開催されるワールドカップへの出場権を懸けた大会であり、インドネシア、マレーシア、開催国であるバングラデシュと、選手、スタッフは一丸となって戦いました。結果は下記の通り、全勝して優勝を飾り、10月のワールドカップ出場権を獲得しました。応援してくださった皆さまや大会関係者皆さまのご声援とご支援に厚く御礼申し上げます。

[試合結果]

①2022年3月12日 15:00キックオフ
日本 7-0（前半3-0、後半4-0）マレーシア

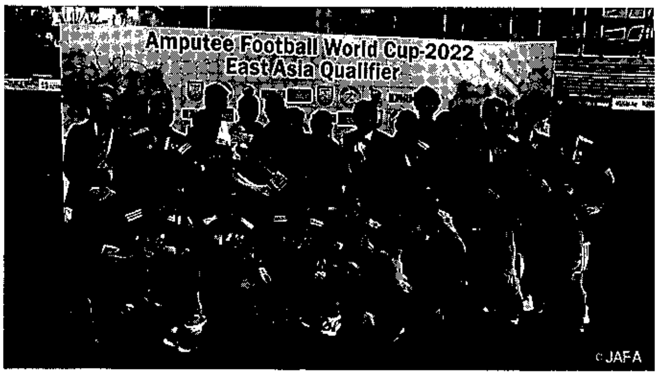
②2022年3月13日 12:00キックオフ
日本 8-0（前半6-0、後半2-0）バングラデシュ

③2022 年3月14日14:00キックオフ
日本 2-0（前半1-0、後半1-0）インドネシア

バングラデシュは気温30度を超す猛暑で、かつ1日に前後半25分ハーフ（50分）のフルゲームを3試合戦い抜くために、選手のコンディション管理が非常に重要となりました。環境になかなか順応できずに苦しむ選手もいましたが、選手、スタッフ間でコミュニケーションを図りながらチーム全員で士気を高め、今大会を乗り越えることができました。

10月に行われるワールドカップトルコ大会まで残り6カ月ほどしかありません。今大会での課題を改善し、より一層レベルアップした日本代表を世界に見せられるよう、選手個人、日本代表チームとして残り少ない時間を大切にしていきます。目標であるワールドカップの頂点を目指し、世界の強豪国に勝利し大きく成長した姿を皆さまに届けられるよう、日々精進してまいります。

今年5月には大阪で全国大会（レオピン杯）を開催予定です。コロナ禍の影響で2020、2021シーズンはレオピン杯の中止を余儀なくされました。2022シーズンは、日本アンプティサッカー withコロナでの発展、組織や体制、そして人員をより豊かに強固にしていこうという覚悟で活動を続けてまいります。一人でも多くの方々に今後のアンプティサッカーにご注目いただき、より一層の応援をいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。



バングラデシュでの6日間の滞在を無事に終え、10月に行われるワールドカップトルコ大会の出場権を獲得した

隔月連載
日本全国FAコーチ巡り

第5回 長野県サッカー協会

みんなで目指す姿を共有し 長野県の未来をつくっていく

各都道府県サッカー協会（FA）で配置が進む技術担当専任者「FAコーチ」。その活動にスポットを当てた連載企画第５回は、長野県サッカー協会の飽田敏FAコーチに話を聞いた。

○オンライン取材日：2022年３月23日

4人を中心に育成や強化に励む

——初めに長野県サッカー協会との関わりについて教えてください。

飽田 もともとサッカーの指導がしたくて中学校の教員になり、当時はサッカー部の指導をしながら教員チームでプレーもしていました。そのときの先輩たちに導かれ、指導者ライセンスを取得しました。そして1991年にB級（現、A級）を取得したことから長野県ＦＡの技術委員になり、指導者養成に関わるようになりました。2002年から技術委員長を務め、06年には北信越技術委員長も任され、07年から長野県ＦＡのユースダイレクターも兼任しました。定年まで残り5年となった13年度末に退職し、14年4月から長野県ＦＡの常務理事兼技術委員長として専従職員の形で働くようになりました。

またこの間、北信越トレセンU-14の責任者としてナショナルトレセンへ参加してきたことなどから日本サッカー協会（ＪＦＡ）技術委員会のユース育成部会や3種大会部会などのメンバーとして、またナショナルトレセンコーチ（現、ＪＦＡコーチ）北信越担当としてもさまざまな経験をさせていただきました。

長野県FAで活動する飽田FAコーチ

——そこから、ＦＡコーチに就任された経緯とは？

飽田 技術全般を統率する専従職員になり、当初は現場へ出る回数は多くなりましたが、常務理事・技術委員長という役職に基づく会議や事務作業も多々あり、またナショナルトレセンコーチも務めていたので長野県内の指導者養成や育成事業に注力することが思いのほか難しいと感じるようになりました。そうした中、ＪＦＡの施策に基づき、長野県ＦＡに技術担当専任者（ＦＡコーチ）を置くことになったことから、20年にその任に就きました。

以前はＪＦＡなどからの情報の窓口が私一人に偏りがちという状況もありましたが、技術委員長は兼任しないことにしたため、複数の情報源が確保でき、ＦＡコーチの私と技術委員長、ユースダイレクター、チーフインストラクターの4人が中心となってより組織的に、効果的に進められるようになったと思います。

——ＦＡコーチとしてどのような活動を担っていますか。

飽田 さまざまな活動に携わっているのですが、日々の活動としては主に指導者養成とトレセン活動です。また、普及・育成の両面から長野県の現状を把握するために、できる限り各カテゴリーのリーグ戦も見に行くようにしています。

指導者養成では、私がB級コーチ養成講習会、チーフインストラクターと47ＦＡインストラクターでC級養成講習会を担当。トレセン活動では、U-16県選抜活動と各カテゴリーの県トレセンはユースダイレクターが主に関わり、地区トレセンは私が現場に行ってサポートをするというように役割分担をしています。

そのほか、中体連・高体連の部活動顧問の先生方へのサポートを計画していますが、部活動の地域移行を踏まえて内容も検討していく予定です。普及事業ではキッズや女子についても各種別の委員長や担当者とコミュニケーションを取って活動をサポートしています。また、暴力根絶に向けたウェルフェアオフィサー配置の取り組みも進めています。専任で活動しているメリットを生かし、可能な限り県内で実施されている活動に顔を出すようにしています。

——現場に出向く回数などは増えたのでしょうか。

飽田 就任してからすぐに新型コロナウイルス感染症が拡大して、その影響で動きにくい面はありましたが、現場に足を運べる回数は着実に増えました。現場で多くの人たちと顔を合わせる機会が持てることは非常に良いことだと感じています。

コロナ禍で対面での活動などがなかなかできないこともあるのですが、ピンチはチャンスと捉え、オンラインでの活動も積極的に取り入れています。アフターコロナも、現場の活動と並行してオンラインの良さを生かした取り組みをしていく考えです。

思いを共有し、チームNAGANOでチャレンジを

——長野県のサッカーに30年以上携わる中で強みと感じる部分はどのようなところでしょうか。

飽田 信州人は理屈っぽいとか言われますが（笑）、長野県の指導者はすごく真面目で、納得してもらえれば物事を一気に前に進めてくれます。ＪＦＡや技術委員会の発信に対して前向きに捉えてくれることは強みです。例えば、ＪＦＡが8人制サッカーに移行する前から4種委員長がリーダーシップをとり、長野県ＦＡが主催する大会では8人制を導入していました。そのため、その後のU-12年代のリーグ戦の創設もスムーズでしたし、「子どもたちのために」という思いを形にしてくれる土台があると思います。

今年、「ＪＦＡスモールサイドゲームガイドライン」が発信されましたが、以前から県内では「U-10リーグを8人制で行うのは、子どもたちに合っているのか」といった議論をしており、U-12リーグ指導者研修会で提案したところ、昨年度は「リーグや大会を6人制にした」という報告もありました。そうした変化をつくり出せるのは指導者の皆さんの力だと思っていま

指導者養成を積極的に進め、この5年間で60人以上のB級コーチを養成した

す。指導者養成に携わる中で、B級コーチを今年までの5年間で約60人養成したのですが、その中には4種の指導に携わる方も多くいて、学んだことを基にサッカー環境を良くするための推進する力になっているのも感じます。思いを共有できれば、一緒にチャレンジしてくれる、これは本当にありがたいことですね。

——一方で、課題はどういった部分でしょうか。

飯田　一貫指導体制の構築をもっと進めていかなければなりません。まだそれぞれの指導者が指導しているカテゴリーでの育成にとどまりがちで、その先の選手の将来まで見えていないように感じることがあります。結果にこだわるだけではなく、成果を積み上げ、みんなで選手を育てていくという認識を持つことがもっと必要です。サッカーのプレーは、状況を見て判断して実行することの連続ですが、選手が各年代で身につけるべきことを身につけ、次のステージへと送り出すための指導者の関わりが重要です。技術委員会としてはあらためて各年代での指導の考え方のベースと長野県の課題に対する具体的なアプローチを発信していきたいと思っています。加えて、ゲーム環境をもっと良くして、選手も指導者も育つ環境づくりとサッカーを文化にすることにも取り組んでいきます。

——課題を解決するために発信されていることは?

飯田　長野県FAでは「NAGANO FA 2020宣言」(下図参照)を出し、2030年までに達成する5つの目標への取り組みを具体化しているところです。しかし、現状は県選抜が北信越国体を常に勝ち抜けるというところまでは達していませんし、各カテゴリーの本県代表チームは全国大会で初戦敗退が続いています。技術委員会ではこの状況を「選手が主体的に判断し、プレーするための基本戦術の理解不足、そのため持っている力を十分に発揮できていない」と捉え、その克服に向けて、今年1月末の長野県フットボールカンファレンスで「今こそ基本の徹底に取り組む」「目指すサッカー、目指す選手像を共有して、日常を変えよう!」と発信しました。何より、基本となる個人戦術や基本戦術を高めていくためには、日常のトレーニングやゲームで選手と接する指導者自身が目指すものを踏まえてサッカーをより深く理解し、選手に伝えていけるようになる必要があります。そのため、鍵である各チームの指導者の皆さんに対し、昨年はU-15リーグでは「分析」をテーマに県・地区の全チームの指導者を対象とした「ゲーム改善ミーティング」を、U-12リーグでは年代ごとにふさわしいゲームオーガナイズやリーグ戦の意義を再確認する指導者研修(約700人が受講)をいずれもオンラインで実施しました。また、各カテゴリーのリーグ運営会議などに、FAコーチや技術委員長、ユースダイレクターが参加させてもらい、現場での発信を続けています。

——指導者養成を積極的に進めることで、仲間も増えているのではないでしょうか。

飯田　30年までにB級ライセンス取得者を300人に増やすことを目標に掲げています。現在は約160人ですので、目標はほぼ倍の数となりますが、サッカーの基本的な指導をより深くできる人が各チームに一人はいる状況をつくることが目標です。

昨年まではB級のインストラクターが私だけでしたが、今年からは二人体制になるので、よりコースの質が高められると思います。

また、C級やD級のコース開設の工夫をして受講者を増やすことも進めていくことで、指導者仲間をもっと増やしていきたいです。さらにサッカー環境の土台となる普及の部分でキーとなるキッズ年代に関わるキッズリーダーの養成を進め、子どもたちがサッカーに出合う場においての指導環境の改善も図っていければと思います。

——女子サッカーに関する取り組みについてはどのように推進していく予定でしょうか。

飯田　現在、女子委員会が小学4年生から中学3年生までの女子選手を集めてアカデミーという形でトレーニングやゲームを4地区で行っています。その活動でも引き続きサポートに入りたいと考えています。国民体育大会の少年女子の部が今年からスタートしますが、そのチームのアドバイザーとして関わっているので、それも継続していきます。今後は女性指導者の養成、そして小学校年代でサッカーに出合った女の子たち、中学・高校デビューしたい女の子たちにもサッカーができる環境づくりを中体連や女子委員会の皆さんと協働して積極的に進めていきます。

——最後に、今後の目標を教えてください。

飯田　全国レベルで活躍できる選手を輩出できる県にしていきたいですね。一方で、現状は高校卒業と同時にサッカーから離れる選手も多いので、サッカーをいつまでも続けられる、サッカーに関わり続けられる環境のある長野県にしたいと思います。サッカーを楽しみ、サッカーで幸せになれる長野県になるための土台をつくっていきたいと思います。そのためにFAコーチとして関わるみんなが目指す姿を共有できるようにして、「みんなでやろう!」「チームNAGANOで進めよう」という流れを構築し、指導者、関係者、サッカー仲間と一緒に長野県の未来をつくっていきたいと思っています。

■長野県FA　2020宣言・2030育成ビジョン

NAGANO FOOTBALL ASSOCIATION

NAGANO FA 2020宣言

◆県民の10人に1人がサッカーファミリーとなるよう努力します。
◆県内4地区にフットボールセンターを整備します。
◆長野県を代表するチームが全国大会で常に上位進出を果たします。
◆各種大会やチームにウェルフェアオフィサーを置きます。
◆2028国民スポーツ大会と全国障がい者スポーツ大会で、サッカー競技開催の成功を目指します。そして、長野県代表チームは同競技会で優勝します。

NAGANO FOOTBALL ASSOCIATION

2030長野県育成ビジョン

長野から全国へ
～全国レベルで活躍できる選手の継続的な輩出～

Ａ代表に長野から
年代別代表に１名以上が選出
長野県出身Ｊリーガーが５名以上常時試合に出場

□ 2028国民スポーツ大会長野大会U-16国体選抜優勝
□ U-18プレミア参入、プリンスリーグに常時3チーム参戦
□ U-15北信越リーグに常時3チーム以上が参戦
□ 長野県代表チームが全国大会上位進出

隔月連載

日本サッカー タイムスリップ

1921年に誕生した日本サッカー協会（JFA）は、2021年9月に創立100周年を迎えた。本連載では、JFA各種事業や日本サッカーの歩みを振り返っていく。第22回は引き続きFIFAワールドカップをテーマにお届けする。

※本連載は隔月の連載になります

第22回

FIFAワールドカップへの挑戦（2）
～初出場を決めた「ジョホールバルの歓喜」

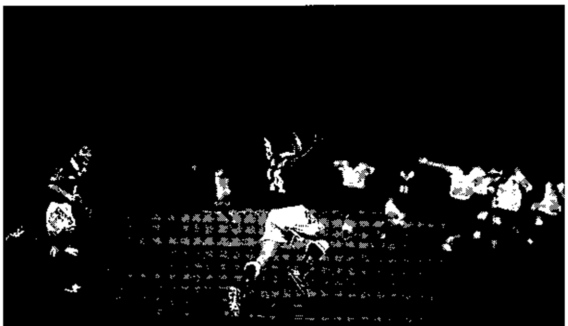
文：国吉好弘（サッカージャーナリスト）

あと一歩のところまで迫りながら初出場を逃したFIFAワールドカップアメリカ'94の予選を経て、日本代表にとってワールドカップ出場は唯一最大にして現実的な目標となった。しかも2002年大会は韓国との共同開催とはいえ、日本で開催することが決まり、これまで第1回ウルグアイ大会、第2回イタリア大会を除き、本大会に出場したことのない国がワールドカップを開催した前例はない。98年のフランス大会は必ず予選を突破して出場しなければならなかった。

出場を逃した「ドーハの悲劇」の後、日本サッカー協会（JFA）は新監督にブラジル人のパウロ・ロベルト・ファルカンを迎えた。しかし、元スーパースターのファルカンは選手の自主性にゆだねるブラジル式のチームづくりで、まだ当時の日本代表にはなじまず、1年で事実上の解任となる。その理由が「コミュニケーション不足」ということで、日本人指導者から加茂周が起用された。加茂は独自の発想と行動力を持ち、日産自動車を日本の強豪に育て上げており、その手腕が買われた。

しかし、フランス大会の予選では1次こそ順当に勝ち抜いたが、最終予選ではホームで韓国に逆転負けを喫して苦境に陥り、続く中央アジアでの2連戦の初戦でカザフスタンに引き分けると、同行した長沼健会長以下の首脳陣が加茂の更迭を決断。続くウズベキスタン戦を前にコーチだった岡田武史を監督に昇格させた。

指導者としての将来性は高く評価されていたとはいえ、まだ監督の経験がなかった岡田だが「ファイトしない者は去れ」と戦う姿勢を問い直して、苦しみながらもチームを立て直す。現地でのカザフスタン戦、帰国してのアラブ首長国連邦（UAE）戦とも引き分けて勝利を挙げることはできなかったが、残り2試合となった韓国とのアウェイ戦で2-0と快勝して望みをつないだ。さらにカザフスタンをホームに迎えての最終戦では5-1と圧倒してグループ2位を確保。もう一組で2位となったイランとのプレーオフで勝てば、フランスへの切符を手にできることになった。



1997年11月16日のアジア地区第3代表決定戦、延長戦で岡野雅行がゴールを決めた瞬間、日本のワールドカップ初出場が決まった

イランとの対戦は中立地、マレーシアのジョホールバルで行われた。この試合に日本から1万人もの観客が押し寄せ、まるでホームのような雰囲気で歴史的瞬間を見守った。試合は白熱し一進一退で90分を終わって2-2の同点、延長戦はゴールデンゴール方式でどちらかが得点した瞬間に勝負は決する。日本は交代出場した岡野雅行が俊足を飛ばしてチャンスを生み出すが、なかなか得点が生まれない。延長も後半に入り、残り3分の通算117分、中田英寿が個人技で突破してシュート、これは相手GKが阻んだが、はじいてこぼれたボールに岡野が走り込んで決めた。

外国の地で、1万人を超えるサポーターの前で「ジョホールバルの歓喜」に包まれ、ついに日本はワールドカップへの出場権を手にした。

初出場の喜びは大きく、日本サッカーの歴史に残る快挙であることは疑いの余地がなかった。だが、初めて臨むワールドカップは簡単ではなかった。

大会への準備自体が初めてのことで、JFAは手探りしながら進めなければならなかった。スイスで直前キャンプを張ったのは悪くなかったが、まだ大会登録メンバーが最終的に決まっておらず、ここで最後に外れる3人を決めて帰国させるやり方は問題を残した。外れたのがここまでチームの中心だった三浦知良と北澤豪だったことが大きな反響を呼び、選ばれた選手たちにも動揺を与えた。

岡田監督にとっては熟慮の末の決断で、本大会を戦うために信念を貫いての選択だったが、さまざまな批判を浴びた。それが直接の原因というわけではないが、本大会ではアルゼンチン、クロアチアに0-1、日本と同じく初出場のジャマイカにも1-2で敗れ、日本の初めてのワールドカップは3戦全敗に終わった。日本サッカー全体がまだワールドカップを戦うには未熟だった。

[新・隔月連載] Vol.1

フットサル語り場

日本サッカー協会（JFA）は、フットサル日本代表が2036年までにFIFAフットサルワールドカップで世界一になることを目標に掲げている。
本連載では、フットサルの代表強化、選手育成、指導者養成、普及をそれぞれ統括するダイレクターおよび各カテゴリーの代表監督が登場し、リレー形式で情報をお届けする。

小森隆弘 JFAフットサルナショナルチームダイレクター

勇気あるトライをすることで見える世界がある

一歩引いた場所から チームを客観視

フットサル日本代表チームダイレクターの仕事は多岐にわたります。大きな目的は、選手やコーチングスタッフと役割分担し、代表活動をより充実したものにすることであり、私は選手の所属クラブをはじめ、さまざまな関係者とのハブになるように心がけています。海外遠征を行い、遠征先で他国のチームと試合を組むこと、そこに向けて国内外のクラブに選手を招集する旨を伝えるなど、渉外も重要な仕事の一つです。

属人的な任務もあります。私は2009年以降、通訳やコーチを務めると同時に、2016年からサブダイレクターとしてフットサル日本代表の強化に携わってきました。日本代表の存在意義、これまでの歴史や背景、われわれは何を目指すべきかという視点を持っていますし、そこも期待されてナショナルチームダイレクターに任命されたと捉えています。

今回のポストに就いてから代表チームを俯瞰的に見る必要があると考え、意識して行動も変えています。例えば、これまでは合宿になると選手と同じピッチに立って相手役としてプレーしたり、紅白戦では審判員を務めたりとアクティブに動いていましたが、今は一切していません。一歩引いた場所からチームを客観視することが大事ですし、旧知の仲である木暮賢一郎監督もそれを望んでいます。

世界一を目指すに値する 状況を生み出す

2003年以降、フットサル日本代表は、セルジオ・サッポ（ブラジル）、ミゲル・ロドリゴ、ブルーノ・ガルシア（共にスペイン）と、強豪国から来た監督たちにフットサルの解釈を学びながら代表チームを強化してきました。20年近くにわたって彼らからさまざまなことを学び、今はそれをそしゃくしてアウトプットする時期に差し掛かっています。つまり、自分たちが目指すものを主体的に表現するステージに入っていると思います。

勇気あるトライをすることで、これまでとは異なる世界が見えてくるはずです。例えば、かつては毎月のように行っていた国内合宿を、FIFAインターナショナルマッチデーに合わせて実施し、対外試合の機会確保を中心とする方針に切り替えること。代表活動に参加するメンバーについても、ターゲット大会を念頭にチームの年齢構成には配慮しますが、その選手が代表の求めるプレー水準と能力を持ち、ミッションに共感し、日本国籍を持ってさえいれば招集の可能性は開かれています。前例にとらわれない柔軟な対応がチームを活性化し、ひいては強化につながると信じています。

小森隆弘JFAフットサルナショナルチームダイレクターは、フットサル日本代表が成長する条件の一つとして「自分たちが信じるものを、主体性を持って表現すること」と語る

JFAフットサル育成ダイレクターを兼務している者として、フットサル日本代表とU-20フットサル日本代表をいかに結びつけるかも大きなテーマです。現在はU-18年代の大会をピンポイントで視察し、そこから優秀な選手を集めてU-20フットサル日本代表の活動につなげていますが、サッカーでいうナショナルトレセン制度のように、フットサルでもポテンシャルのある若手が切磋琢磨する機会をできる限り創出したい。そのための策を打つつもりです。

われわれは「2036年までに世界一になる」という目標を掲げています。フットサル委員会の各分野のダイレクターの仕事は、世界一になるという目標を目指すに値する状況を生み出すことです。そのためには代表チームを継続的に支えること、すなわち育成年代からの底上げを継続して行うことが欠かせません。47都道府県サッカー協会、Fリーグの各クラブを含め、各所の理解と協力を仰ぎながら、代表チームと育成をつなげていきたいと考えています。

体を動かそう

ビーチサッカーのピッチを軽く2周ジョギングしただけで足は重くなり、息も上がってしまいました。方向転換やジャンプをするときの感覚がちょっと違います。ビーチサッカーの醍醐味であるオーバーヘッドキックはとてもじゃないですができません。年相応に、2日後にお尻周りや首筋に筋肉痛がきました。

大人になっても初めての経験はワクワクさせてくれるものです。自分自身の新しい運動感覚が刺激され、もっと動けるようになるのではないかと思ってしまいました。きっと錯覚です。人間の基本的運動は36種類に分類できるようです。立つ、起きる、回る、組む、渡る、ぶら下がる、逆立ちする、乗る、浮くといった「体のバランスをとる動き」、歩く、走る、跳ねる、すべる、跳ぶ、登る、くぐる、這う、泳ぐといった「体を移動する動き」、持つ、支える、運ぶ、押す、押さえる、こぐ、つかむ、当てる、捕る、渡す、積む、掘る、振る、投げる、打つ、蹴る、引く、倒すといった「用具などを操作する動き」です。幼児期には、多様な運動を経験することが大切だと考えられています。

サッカーは比較的、多様な動きが起こるスポーツで、蹴るといった非日常的な運動ができることは大きなアドバンテージです。しかし、36種類もの運動をバランスよく一つの種目で経験することは難しく、意識的に動く必要があります。子どもたちが自由に遊び、運動できる場所が少なくなってきて、遊びや運動が特別な活動になっています。そのため、スポーツクラブや運動教室に参加するなどしなければなりません。

この環境を嘆いているだけでは建設的ではありません。サッカークラブであっても、年代に応じてサッカー以外の多様な運動をする機会をつくる是非を考えてみる必要があるように思います。一方、例えば水泳教室なのにプールに入らず陸上での運動ばかりでは、ちょっと嫌になってしまいます。何事もバランスです。サッカーの上達には多くの運動能力を高める必要があります。空中にあるボールに体を合わせる調整力はサッカー選手には欠かせない運動能力の一つです。小さい子どもたちのサッカーでは、ボールはほとんど地面を転がっているため、空中にあるボールを操作する機会はほとんどありません。また、子どもたちの多くは足でボールを扱うことに注意を向けるので、周りを見ながら状況に応じて動くといった認知的な活動は十分にできません。しかし、この能力もサッカー選手には絶対に必要です。これらの能力を高めるためにも、ボールを投げたり、捕ったりといったキャッチボールや、鬼ごっこなどの状況判断が求められる遊びがサッカーの活動の中にもあってもいいように思います。サッカーに限らず、どんな環境であっても、子どもも遊びやスポーツ活動は、子どもらしく幼稚で無邪気であることが許される場であってほしいです。

隔月連載

サッカー心育論 Vol.73

〜指導者は何を考えるべきか〜

中山 雅雄（JFA技術委員会普及部会部会長／JFA普及ダイレクター／JFAキッズプロジェクトメンバー／筑波大学体育系教授）

元スペイン代表MFのセスク・ファブレガスが「少しスピードには欠けるけど、とんでもない才能を持つ選手よりも、誰よりも強くて、速い選手の方がプレーできるようになった」と、科学やGPSによって割り出された数字を基本にトレーニングや選手を管理する現代サッカーに疑問を呈しているという記事がありました（※）。コーチは選手をロボットのように扱ってはいないでしょうか。トップレベルだけの問題ではありません。現代のサッカーコーチは当たり前のようにビデオ映像を巧みに編集し、選手にフィードバックできます。GPSのデータは個々の選手の運動量を測るだけでなく、試合中のポジショニングに関わる情報も提示してくれます。これらは選手のパフォーマンスを評価する有効なツールであることは間違いないでしょう。しかし、感情を持った人間同士が複雑に絡み合う中で発揮されるプレーの良しあしは、リアルな現場でしか分かりません。私たち指導者がもっと体を動かし、サッカーを楽しみ、うまくなりたいと思う気持ちを持つことが、子どもたちの成長に良い影響を与えるのだと思います。もちろん、選手たちと同じようには動けません。しかし、そうした気持ちはいつまでも持っておく必要があります。

新型コロナウイルスによって生活様式は大きく変わりました。人との接触を避けることがこの危機を乗り越える方法です。スポーツとは真逆の行動であり、スポーツを心から楽しむ機会は長い時間失われていました。その半面、リモートで活動する便利さに気づくことになりました。このウイルスによる脅威はまだなくなってはいませんが、日常が戻りつつあります。しかし、もしかすると非日常が日常となり、元に戻ることにストレスを感じる人もいるかもしれません。私自身は会議がリアルな対面になり、実際にみんながピッチに集まってサッカーができることに喜びを感じていますが、価値の押し売りにはならないようにしなければなりません。焦らず、スポーツの楽しさを伝えていきたいです。

ビーチサッカーに関わる人たちは、自分たちがプレーするビーチの環境整備にも積極的に取り組んでいます。人のマナーの悪さがビーチの環境を壊してしまいます。安全なビーチがなければ、ビーチサッカーを楽しむことはできません。SDGs（持続可能な開発目標）が採択される前から、子どもたちや自分たちが楽しくプレーするために当たり前のようにビーチの整備をしているそうです。

※「名手セスク、『全てデータが基本』となったサッカー界の現状を嘆く『イニエスタのような純粋なタレントはどうなる？』」（THE DIGEST」2022年3月29日閲覧）

日本サッカーの発展のため、
さらなる普及や次世代選手育成の促進を。

JFA Youth & Development Programme

OFFICIAL PARTNER

TOYOTA　ニチバン　molten For the real game

TECHNICAL PARTNER

PHILIPS

GREENPROJECT PARTNER

TOA 東亜道路工業　FUJITA Daiwa House Group

JYD SUPPORTER

日本総研 The Japan Research Institute, Limited　Deloitte. デロイト トーマツ　The Pokémon Company

JYD

いつも心にリスペクト
連載 Vol.108

大住良之
（サッカージャーナリスト）

RESPECT 大切に思うこと

悲劇の中、勝者を称える

沢田啓明さんは1955年山口県生まれ。広島県で育ち、1986年にブラジルに渡って、現在はサンパウロでスポーツジャーナリストとして活躍しています。日本でもサッカーに関する書籍はたくさんありますが、私がトップクラスに好きなのが、2014年に沢田さんが新潮社から発行した『マラカナンの悲劇～世界サッカー史上最大の敗北』という一冊です。

1950年、世界最大のスタジアム「マラカナン」で起きたブラジル代表の悲劇的敗北。ワールドカップ優勝を懸けた一戦で、ウルグアイに1－2で逆転負けをした試合は、「ブラジル人にとってのヒロシマ」と表現した人もあるほど大きなショックを国民に与えました。沢田さんは20年という歳月を掛けてこの試合のことを調べ、珠玉のような本に結実させました。なぜ私がこの本を好きなのか――。それは、すばらしいリスペクトの物語が織り込まれているからです。

マラカナン・スタジアムに20万とも23万とも言われる人が詰め掛け、祖国のワールドカップ初優勝に期待を掛けた試合。しかし、セレソン（ブラジル代表）は引き分けでも優勝という圧倒的に有利な立場を生かせず、悲劇的な結果に終わります。スタンドでは号泣するファンもいました。

その晩、ウルグアイ代表選手たちは協会の役員から外出禁止を言い渡され、ホテルの自室で疲れを取るように命じられます。「気が立っているブラジル人に襲われるかもしれない」という理由でした。

しかしキャプテンのオブドゥリオ・バレーラはその命令を無視し、その晩、一人で外出します。そしてホテルから数分歩いた広場に面してただ1軒だけ開いていたレストランに入ります。レストランには数組の客がいて、しきりに試合の話をし、負けたブラジルに対する不満をぶつけていました。

彼らから離れて一人座り、ビールを飲んでいたバレーラに、一人の若者が近づきます。そして「あんた、ウルグアイ代表のキャプテンだよな」と聞きます。殴られることを覚悟して、バレーラはうなずきます。しかし若者の口から出たのは意外な言葉でした。

「あんたはすごい男だよ……。体を張ってブラジルの攻撃を食い止め、チームを鼓舞し続けた。セレソンだけじゃなく、スタンドのすべての観衆を敵に回して戦い続けた。そりゃあ、俺たちはあんたを野次りまくったさ。あんたが憎かった。でも、心の底では、あんたがどれだけ勇気があるか、よくわかっていた。（中略）あんたがいたから、ウルグアイは勝てた。あんたみたいな勇敢な男がいなかったから、セレソンは負けた。（中略）セレソンが負けて、俺は本当に悔しいし情けないよ。でも、あんたは本当に立派だった。おめでとう」

バレーラは若者と握手し、強く抱擁します。若者はバレーラの背でおえつしていました。

やがて他の客も立って次々とバレーラの席を訪れ、優勝を祝福します。バレーラは彼らの席に移り交流は明け方近くまで続いたと、沢田さんは書いています。

バレーラが禁を犯して夜の街に出てみようと思い立ったのは、試合後の一光景が頭に残っていたからでした。優勝のジュール・リメ杯を手にしたバレーラ主将を先頭にウルグアイの選手たちが場内を一周したとき、ブラジルの観衆は涙を流しながらも拍手を送ってくれたのです。ウルグアイの選手たちを野次る人はいませんでした。

20年という歳月をかけて南米各地や欧州を巡り、ありとあらゆる資料を集めてこの本を書いた沢田さん。最初の動機は、「半世紀という年月を経ても語り継がれ、思いが新たにされている『悲劇』の本質、ブラジル人とは何かを探ることでしたが、次々と出てくる新事実やエピソードに魅せられ、「この物語を通じて、日本の人びとにフットボールの素晴らしさと残酷さの一端を知ってほしい」と思い、本の執筆にかかったといいます。

バレーラとブラジル人ファンの話はそのほんの一部です。しかしこんな素敵なエピソードを私たちに届けてくれた沢田さんに、私は深く感謝したいと思うのです。

1950年7月16日、FIFAワールドカップの優勝を懸けた舞台は20万近くの観客で埋め尽くされた。自国ブラジルが逆転負けで優勝を逃したこの一戦は、会場に訪れた観客のみならず、全国民に大きなショックと悲しみを与える出来事となった。

写真：AP/アフロ

いつも心にリスペクトのバックナンバーはこちら ▷▷▷ https://www.jfa.jp/respect/heart/

日本サッカーミュージアム

〒113-8311 東京都文京区サッカー通り（本郷3-10-15）
Tel：050-2018-1990

■営業時間　火～金曜日　12:00～17:00（最終入場16:30）
　　　　　　土・日・祝日　10:00～17:00（最終入場16:30）
　　　　　　特別営業期間 10:00～17:00（最終入場16:30）
■休館日　月曜日（祝日の場合は翌火曜日）
　　　　　年2回のメンテナンス期間
■入場料　一般大人：550円、小中学生：300円、幼児：無料
　　　　　団体（20名様以上）・障がい者の方：
　　　　　大人450円、小中学生200円
　　　　　※割引については、入場ゲートスタッフまでお問い合わせください。
■URL　https://www.jfa.jp/football_museum/
※臨時休館をしている場合もございますので、JFA公式ウェブサイトで最新の開館情報をご確認の上ご来館ください。

春休み特別開館「キーワードラリーイベント」を開催

日本サッカーミュージアムは3月26日から4月4日、春休み期間の春季特別営業に合わせて「キーワードラリーイベント」を実施した。参加者は館内に展示されている物にちなんだキーワードを集め、そこから最終キーワードを導き出していくというもの。参加後にはガチャガチャイベントが用意され、カプセルの中の用紙に書かれた日本代表関連グッズがプレゼントされた。中には、森保一監督のサイン入り色紙や、川口能活さん、内田篤人さん、阿部勇樹さんの直筆サイン入りのADカードなど貴重な品も。うれしいサプライズも飛び出し、大盛況のイベントとなった。

FIFAワールドカップへ、日本代表の挑戦の始まり

SAMURAI BLUE（日本代表）はFIFAワールドカップカタール2022のアジア最終予選（Road to Qatar）でグループBを2位通過し、7大会連続でFIFAワールドカップ出場権を獲得した。

日本代表は1998年のフランス大会から連続でこの世界最高峰の舞台に立っているが、本大会出場への道のりは決して平たんなものではなかった。

日本サッカーミュージアムでは、日本代表初の予選参加となった1954年のFIFAワールドカップスイス大会予選にまつわる収蔵品を常設展示している。

日本蹴球協会（現、日本サッカー協会）が50年に国際サッカー連盟（FIFA）に再加盟（※）した4年後、日本代表のFIFAワールドカップ挑戦が始まった。このスイス大会の出場チーム数は16チームで、アジアの出場枠はわずか1。韓国との一騎打ちとなったアジア予選は1分け1敗の結果に終わり、日本代表は出場を逃した。

その後、93年に行われたFIFAワールドカップアジア地区最終予選の「ドーハの悲劇」を乗り越えた日本代表は、97年のFIFAワールドカップアジア地区第3代表決定戦で勝利を挙げて予選を突破。翌98年のフランス大会でついに長年の悲願だった本大会出場を果たしたのだった。

11月21日に開幕するFIFAワールドカップカタール2022に向けて、これまでの歴史を振り返る展示となっている。

※第2次世界大戦後の1945年に日本蹴球協会がFIFAより除名され、1950年に再加盟が承認された。

ゴールデンウイーク特別営業のお知らせ

日本サッカーミュージアムは、4月29日（金祝）から5月8日（日）までゴールデンウイーク特別営業となります。期間中は無休で、毎日10：00から17：00（最終入場は16：30）まで開館いたします。

※5月10日（火）より通常営業（9日は休館）。新型コロナウイルス感染拡大の状況などにより、営業時間が急きょ変更になる場合があります。お越しになる前にJFA.jpをご確認ください。

日本サッカーミュージアムを支援いただいている企業（五十音順）　※2022年4月1日現在

株式会社ADKマーケティング・ソリューションズ
アスカ美装株式会社
カルテック株式会社
キリンビール株式会社
キリンビバレッジ株式会社
KDDI株式会社
広友物産株式会社
株式会社Jリーグ
株式会社ジエブ
株式会社シミズオクト
株式会社ジャミング
株式会社スケール
ソニーネットワークコミュニケーションズ株式会社
株式会社テレビ東京
株式会社電通
株式会社電通ライブ
西鉄旅行株式会社
株式会社野村総合研究所
ぴあ株式会社
ホテル東京ガーデンパレス
マッシュコーポレーション株式会社
株式会社ムラヤマ
株式会社モルテン
ヤマザキビスケット株式会社

SAMURAI BLUE アジア最終予選（Road to Qatar）

7大会連続7度目の本大会出場が決定！

アジア最終予選（Road to Qatar）

アジア2次予選を勝ち抜いた12チームが参加。6チームずつ2グループに分かれ、ホーム&アウェイの2回戦総当たりを行う。各グループ上位2チームの計4チームが本大会出場権獲得。3位同士によるプレーオフ勝者が南米予選5位チームとの大陸間プレーオフを戦い、その勝者が本大会に出場する。

グループA：イラン、韓国、UAE、イラク、シリア、レバノン
グループB：日本、オーストラリア、サウジアラビア、中国、オマーン、ベトナム

アジア最終予選（Road to Qatar）は3月24日にマッチデー9、同29日にマッチデー10が行われ、約7カ月にわたる戦いが幕を閉じた。森保一監督率いるSAMURAI BLUE（日本代表）は、24日にアウェイでオーストラリア代表と、29日に埼玉スタジアム2002でベトナム代表と戦い、グループBの2位でFIFAワールドカップカタール2022の出場権を獲得した。

※SAMURAI BLUEメンバー、公式記録は42〜43ページに掲載　※選手の所属は試合時

オーストラリア戦、三笘は約10分間の出場で2得点し、勝利の立役者となった

ライバルにアウェイで勝利 本大会出場権を獲得

グループB3位のオーストラリアと勝ち点3差で2位につけるサムライブルー（日本代表）は、3月24日の直接対決に勝利すれば、その時点で7大会連続7度目のFIFAワールドカップ出場が決まる。しかし、敗れれば3位に転落。ワールドカップ出場への道は厳しくなる。

森保一監督は16日、この大一番と最終節のベトナム戦に向けて27人のメンバーを発表。19日には、けがで不参加となった大迫勇也（神戸）と酒井宏樹（浦和）に代わって林大地（シントトロイデン）と中谷進之介（名古屋）が招集され、21日には前田大然（セルティック）がコンディション不良により不参加となった。選手は22日までに全員がオーストラリアにそろい、23日の公式練習を経て試合に臨んだ。

朝からの雨でピッチコンディションは決して良好ではなかったが、「引き分けでもいいという気持ちで臨まないことが大事。しっかり勝って、2連勝で予選を終える」という吉田麻也（サンプドリア）の言葉通り、日本は序盤から積極的な姿勢を見せる。

山根は吉田と共に2試合連続フル出場。オーストラリア戦では決勝点を演出した

4-3-3の布陣のワントップに入った浅野拓磨（ボーフム）や右サイドの伊東純也（ヘンク）のスピードを生かして相手ディフェンスラインの裏を狙っていくと、12分、23分と浅野が抜け出して好機をつくる。左サイドの南野拓実（リバプール）も28分、31分、37分とゴールに迫るが、シュートは2度クロスバーをたたくなど得点には至らない。

一方のオーストラリアもセットプレーやカウンターアタックからチャンスをつくり、試合はオープンな展開となるが、互いに得点できぬまま前半を終えた。

後半は一転、日本はペースを抑え、ボールを保持しながら得点の機会をうかがう。遠藤航（シュツットガルト）、守田英正（サンタ・クララ）、田中碧（デュッセルドル

フ）の中盤の3人を中心に攻撃を組み立て、相手を押し込んでいく。

パスワークで勝る日本は、63分に上田綺世（鹿島）と中山雄太（ズヴォレ）、84分には原口元気（ウニオン・ベルリン）と三笘薫（サンジロワーズ）を投入して攻撃に変化を加える。

すると89分、守田との連係で右サイドを突破した山根視来（川崎F）のパスを三笘が蹴り込んで日本が先制点を奪った。さらにアディショナルタイム、三笘は左サイドからドリブルで切り込み、相手選手を次々とかわして追加点を挙げた。

試合は2-0で終了。日本はスタートの3試合を1勝2敗とした後、6連勝、5試合連続無失点でカタール行きの切符を手にした。また、同日の試合でサウジアラビアが中国と引き分けたため、日本がグループBの首位に立った。

相手を圧倒するも引き分けグループ2位で終える

サムライブルーはオーストラリア戦の翌日に帰国し、中4日で最終節のベトナム戦を迎えた。既にワールドカップの出場権を獲得しているが、森保監督は「しっかり勝ってグループ首位を確定させるとともに、ワールドカップでの戦いにつなげていきたい」と、この一戦の位置づけを明確にしつつ、選手には「これまでやってきたことを表現し、より高い目標と基準を持ってそれぞれの特長を発揮してほしい」と、強い姿勢で戦うことを求めた。

日本は、前節の先発メンバーから吉田と山根以外の9人を変更して最終戦に臨んだ。GKは昨年6月のアジア2次予選以来の出場となる川島永嗣（ストラスブール）、中盤には国際Aマッチ初出場となる旗手怜央（セルティック）を起用。前線には右から久保建英（マジョルカ）、上田、三笘と、東京オリンピックに出場した3選手を並べた。

キャプテンとしてチームをけん引してきた吉田。ベトナム戦では同点ゴールを決めた

先発した選手たちは、チームの勝利、そしてポジション確保に向けて気迫を見せるが、大幅なメンバー変更によりうまく連係することができない。パスミスからカウンターアタックを受ける場面も見られた。

攻守両面で息を合わせられずにいると、20分にCKからヘディングシュートで先制を許してしまう。これがこの試合で唯一のベトナムのシュートだった。

日本は、守備時には5-4-1の布陣で中央を固めるベトナムの守備に手を焼き、前線の選手を中心に次々とシュートを放つが、得点には結びつけられない。

ベトナム戦で国際Aマッチデビューを果たした旗手。インサイドハーフとして45分間プレー

後半スタートからは旗手に代えて伊東をピッチに送り、久保を中央に据えて4-2-3-1の布陣に変更する。攻撃に厚みが増すと54分、原口のシュートを相手GKがはじいたところに吉田が詰めて同点とした。

61分には南野、守田、田中を同時に投入。試合を完全に支配し、幾度となく相手ゴールに迫る。70分には田中のシュートが決まったかに見えたが、VAR（ビデオアシスタントレフェリー）の判定により、直前に味方選手にハンドの反則があったとして取り消しとなった。

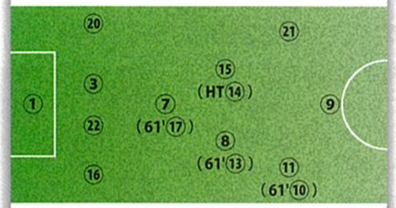
なおも攻勢をかける日本だったが、追加点は奪えず、1-1の引き分けで終えた。同日の試合でサウジアラビアがオーストラリアに勝利したため、1試合で首位の座を明け渡すことになった。

なお、この試合は、新型コロナウイルスの感染拡大による観客の人数制限が撤廃され、4万4600人の観客が見守る中で行われた。

■アジア最終予選（Road to Qatar）

2022年3月29日　19：35
埼玉／埼玉スタジアム2002

日本	1-1	ベトナム
54' 吉田 麻也	0-1 1-0	20' グエン・タイン・ビン



GK	①	川島 永嗣
DF	③	谷口 彰悟
	⑯	山根 視来
	⑳	中山 雄太
	㉒	吉田 麻也
MF	⑦	柴崎 岳 →61' ⑰田中 碧
	⑧	原口 元気 →61' ⑬守田 英正
MF	⑪	久保 建英 →61' ⑩南野 拓実
	⑮	旗手 怜央 →HT ⑭伊東 純也
	㉑	三笘 薫
FW	⑨	上田 綺世

森保一監督コメント（要約）

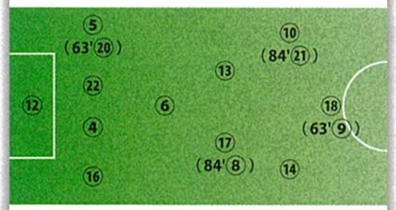
ベトナム戦後

選手は試合に向けて意欲的に準備し、積極的にプレーしてくれたが、互いのプレーのイメージを合わせることができず、苦しい状況が続いた。後半に入ると、これまで先発で出場してきた選手たちが違いを見せてくれた。出場時間の少ない選手たちにとっては難しい部分もあったと思うが、チーム全体で、誰が出ても相手に隙を突かれないように、自分たちがやろうとすることをよりスムーズに発揮できるよう、選手層も含めてレベルアップしていかなければならない。本大会でベスト8以上の結果を出せるように、どのような相手と戦っても勝利できるように強化を続けていく。

■アジア最終予選（Road to Qatar）

2022年3月24日　20：10
シドニー（オーストラリア）／Stadium Australia

日本	2-0	オーストラリア
89' 90+4' 三笘 薫	0-0 2-0	



GK	⑫	権田 修一
DF	⑤	長友 佑都 →63' ⑳中山 雄太
	⑯	山根 視来
	㉒	吉田 麻也
MF	④	板倉 滉
	⑥	遠藤 航
	⑩	南野 拓実 →84' ㉑三笘 薫
MF	⑬	守田 英正
	⑭	伊東 純也
	⑰	田中 碧 →84' ⑧原口 元気
FW	⑱	浅野 拓磨 →63' ⑨上田 綺世

森保一監督コメント（要約）

オーストラリア戦後

コンディショニングに苦労したが、選手たちは良い準備をし、スタッフも環境づくりに尽力してくれた結果、全員の努力が勝利となってワールドカップの出場権をつかむことができた。選手は守り勝つのではなく、前に出ていくという気持ちを見せてくれ、その姿勢が2-0の勝利につながった。しかし、最終目標はワールドカップでのベスト8以上。世界とはまだまだ差があることも事実なので、そこを基準にしてこれからも目の前の一戦に全力を尽くしていく。次のベトナム戦も勝利し、日本の皆さんとワールドカップ出場の喜びを分かち合いたい。

©2022 FIFA

SAMURAI BLUE
FIFAワールドカップカタール2022 組み合わせが決定
日本はスペイン、ドイツと同グループに

今年11月に開幕するFIFAワールドカップカタール2022の組み合わせ抽選会が4月1日、カタールのドーハで行われ、第3ポットの日本は、スペイン、大陸間プレーオフ勝者(コスタリカまたはニュージーランド)、ドイツと同じグループEに入った。グループステージは32チームが4チームずつ8つのグループに分かれて総当たりリーグを行い、各グループ上位2チームがノックアウトステージに進出する。

【グループステージ組み合わせ】

グループA:カタール、エクアドル、セネガル、オランダ
グループB:イングランド、イラン、アメリカ、ヨーロッパ予選プレーオフ勝者(スコットランド対ウクライナの勝者とウェールズが対戦)
グループC:アルゼンチン、サウジアラビア、メキシコ、ポーランド
グループD:フランス、大陸間プレーオフ勝者(オーストラリア対UAEの勝者とペルーが対戦)、デンマーク、チュニジア
グループE:スペイン、大陸間プレーオフ勝者(コスタリカ対ニュージーランドの勝者)、ドイツ、日本
グループF:ベルギー、カナダ、モロッコ、クロアチア
グループG:ブラジル、セルビア、スイス、カメルーン
グループH:ポルトガル、ガーナ、ウルグアイ、韓国

【日本の試合日程(会場)】※日時は全て現地時間

●グループステージ

第1戦　11月23日(水) 16:00 対ドイツ(Khalifa International Stadium)
第2戦　11月27日(日) 13:00 対大陸間プレーオフ勝者(Ahmad Bin Ali Stadium)
第3戦　12月1日(木)　22:00 対スペイン(Khalifa International Stadium)

●ノックアウトステージ

ラウンド16	12月5日(月)	18:00	(Al Janoub Stadium)※1位通過時
	12月6日(火)	18:00	(Education City Stadium)※2位通過時
準々決勝	12月9日(金)	18:00	(Education City Stadium)※1位通過時
	12月10日(土)	18:00	(Al Thumama Stadium)※2位通過時
準決勝	12月13日(火)	22:00	(Lusail Stadium)※1位通過時
	12月14日(水)	22:00	(Al Bayt Stadium)※2位通過時
3/4位決定戦	12月17日(土)	18:00	(Khalifa International Stadium)
決勝	12月18日(日)	18:00	(Lusail Stadium)

■森保一SAMURAI BLUE監督コメント

スペイン、ドイツはワールドカップで優勝した経験を持つチームであり、大陸間プレーオフの結果はまだ出ていませんが、コスタリカ、ニュージーランドはいずれも世界で戦える力を持ったチームです。対戦が楽しみです。

スペインとは昨年の東京オリンピックでも対戦しています。日本が世界に追いつき、追い越すことを考えたときに、スペインは日本にとって良い相手です。われわれはベスト8以上を目指していますから、強豪相手に勝ち進んで、その目標を達成したいと思います。

ベスト8に入るということは世界のトップに入るということです。そこを見据えてやっていかなければなりません。自分たちの持っているものをしっかり出せるように良い準備をしていきたいと思います。

●渋谷・原宿をサッカー日本代表オフィシャルバスが走行

日本サッカー協会(JFA)は3月20日と21日、22日の3日間、サッカー日本代表オフィシャルチームバスを活用した「#ともに戦おう アジア最終予選バスプロモーション」を東京都内の渋谷・原宿近郊で行った。

日本代表オフィシャルバスは、2021年9月に発表したもので、JFAブルーを基調に三本足の鳥の羽をモチーフにしたサブグラフィック、日本代表エムブレムが描かれている。窓の部分には日本代表が大切にすべき共通の価値観「日本代表アイデンティティ」5つのキーワードが記されている。

日本代表オフィシャルバスを活用したプロモーション活動はこれが初となった。

●ファン・サポーターの声がスタジアムに!! 屋外デジタル広告を活用したプロモーション

3月23日から31日には、首都圏(東京都、神奈川県、千葉県)と愛知県名古屋市、大阪府大阪市、福岡県福岡市において、屋外デジタル広告を配信した(一部で屋内)。

プロモーションで使用した動画は、今年1月から2月にかけて行われたアジア最終予選(Road to Qatar)の期間中にJFA公式SNSで募集した応援メッセージを活用したもの。スタジアムがファン・サポーターの"声援"であふれている様子を表現した。

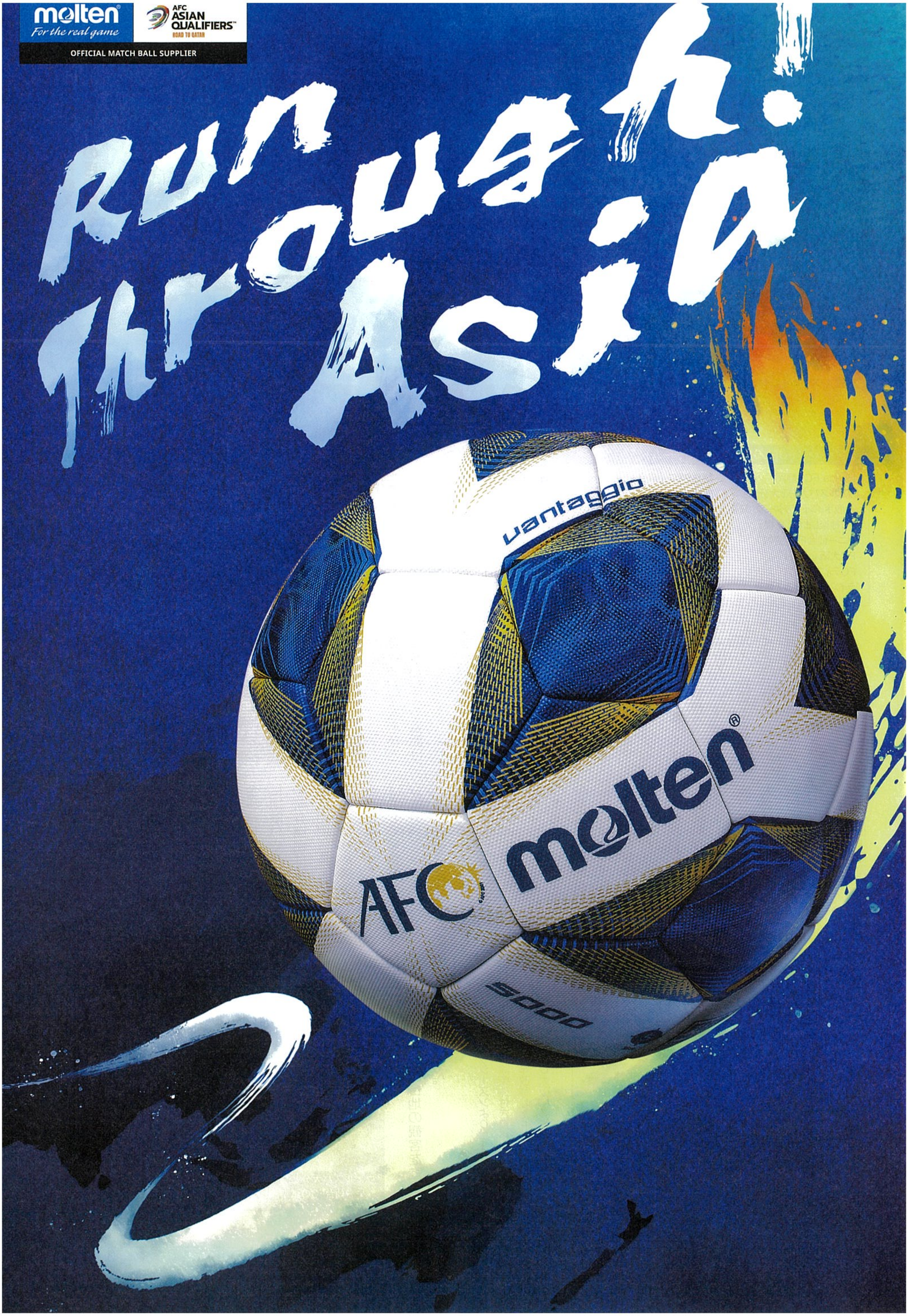
●東京タワーがSAMURAI BLUEにライトアップ

3月24日と29日に開催されるアジア最終予選(Road to Qatar)に合わせて、東京タワーがSAMURAI BLUEにライトアップされた。東京タワー(株式会社TOKYO TOWER)の協力によって実施されたもので、青と白の特別ライトアップが7度目のFIFAワールドカップ出場を目指すSAMURAI BLUEを後押しした。

【東京タワー SAMURAI BLUEライトアップ概要】

点灯日時　:2022年3月24日、29日日没~24:00
主催　:公益財団法人日本サッカー協会
協力　:株式会社TOKYO TOWER
照明デザイン　:株式会社石井幹子デザイン事務所

写真はイメージ


molten
For the real game
AFC
ASIAN
QUALIFIERS™
ROAD TO QATAR
OFFICIAL MATCH BALL SUPPLIER
Run Through Asia!
vantaggio
molten®
AFC
molten
5000

JFL JAPAN FOOTBALL LEAGUE 第24回 日本フットボールリーグ 開幕

クリアソン新宿が初参入 全16チームでしのぎを削る

第24回日本フットボールリーグ（JFL）は、J3リーグに参入したいわきFCと東海リーグ1部に降格したFC刈谷に代わり、クリアソン新宿が新たに入会。全16チームで第30節までの2回戦総当たりリーグを戦う。

開幕戦は3月13日に行われた。2020年に続き、コロナ禍の影響を受けた昨シーズンは、開幕戦8会場の総観客数が7068人だったのに対し、今シーズン7会場に訪れたのは1万2523人（FC神楽しまね（※1）対FCマルヤス岡崎戦は5月4日に延期）。横浜FCから期限付き移籍で三浦知良を迎えた鈴鹿ポイントゲッターズ（※2）のホームゲームには、4620人の観客が来場した。多くの人々がJFLの新シーズンとスタジアムに足を運べる日常を心待ちにしていた様子がうかがえる幕開けとなった。

鈴鹿の三浦知良は開幕戦でスタメン出場。JFL最年長出場記録を更新した

優勝争いと共に注目が集まるのはJリーグへの参入争いだ。Jリーグ百年構想クラブがJ3クラブライセンスの交付を受け、最終順位などの条件を満たせば、Jリーグ参入が認められる。昨シーズンに引き続きJ3入りを目指すラインメール青森、ヴィアティン三重、FC大阪（※3）、奈良クラブ、鈴鹿、ヴェルスパ大分、新宿と高知ユナイテッドSCも名乗りを上げた。今シーズンは8クラブが最大2枠を争う。

決定力を見せたFC大阪がクリアソン新宿に逆転勝ちを収めた（第1節）

JFL参加チーム（16チーム）

Honda FC（静岡）	奈良クラブ（奈良）
ヴェルスパ大分（大分）	ヴィアティン三重（三重）
鈴鹿ポイントゲッターズ（三重）	MIOびわこ滋賀（滋賀）
FC神楽しまね（島根）	高知ユナイテッドSC（高知）
ソニー仙台FC（宮城）	FCマルヤス岡崎（愛知）
FC大阪（大阪）	東京武蔵野ユナイテッドFC（東京）
FCティアモ枚方（大阪）	ホンダロックSC（宮崎）
ラインメール青森（青森）	クリアソン新宿（東京）

全国で熱戦を展開

若手選手の台頭もJFLの見どころの一つだ。17年から19年までHonda FCに在籍した遠野大弥は20年から川崎フロンターレに、19年から3年間、青森でプレーした榊原彗悟は横浜F・マリノスにそれぞれ完全移籍した（榊原は今シーズン、青森に期限付き移籍）。FCティアモ枚方の新井晴樹は昨年夏からセレッソ大阪に期限付きで加入するなど、JFLで力をつけた選手たちが続々とプロへの扉を開いている。今シーズンも、JFLで頭角を表す若い才能に期待したい。

昨年の天皇杯JFA全日本サッカー選手権大会では、2019シーズンJ1王者の横浜FMを破ったHondaを筆頭に、JFL勢が鮮烈なインパクトを残した。天皇杯での躍進は、リーグ戦や日々の練習で積み重ねたものの結果にほかならない。アマチュア最高峰のリーグ戦では、企業チームやJリーグ参入を目指すチームなど、それぞれがカラーを生かしながらハイレベルな熱戦を繰り広げている。第24回大会に掲げられた「ひと味違うプレーで魅せろ！」のキャッチフレーズ通り、今年もJFLは数多くの鮮やかなプレーで青森から宮崎まで全国各地の観客を魅了してくれるはずだ。

ヴェルスパ大分とソニー仙台FCの試合は接戦の末、V大分が1点を守り切り勝利（第1節）

※1 今シーズンより松江シティFCから改称
※2 解除条件付き資格停止中
※3 昨年改称したF.C.大阪から今シーズンFC大阪に名称を戻した

【第24回日本フットボールリーグ 大会概要】

主　催：公益財団法人 日本サッカー協会、一般社団法人 日本フットボールリーグ

開催方式：16チームによる2回戦総当たりリーグ方式（ホーム&アウェイ方式）

開催期間：3月13日(日) ～11月20日(日)全30節

<JFL・地域サッカーリーグチームの入れ替え>

入会チームは、JFLへの入会を希望し、入会条件を満たすチームの中から、全国地域サッカーチャンピオンズリーグの1位、2位チームを自動昇格とする。JFL15位、16位チームは地域リーグへ自動降格する。ただし、J3入会チーム数が決定し、1チームの入会が決定した場合は、JFL16位チームのみが地域リーグへ自動降格する。2チームの入会が決定した場合は、降格チームはなしとする。

Plenus なでしこリーグ Nadeshiko League

2022プレナスなでしこリーグ（1部・2部）開幕

なでしこリーグ1部

新たな始まりを迎えるアマチュア最高峰リーグ

昨シーズン女王の伊賀FCくノ一三重は開幕2連勝を飾り、好スタートを切った

2022プレナスなでしこリーグ1部は3月19日、20日に開幕した。12チームが参加してホーム&アウェイ方式による2回戦総当たりのリーグ戦（全22節）で行われる。

昨シーズン優勝の伊賀FCくノ一三重は、主力の杉田亜未（ノジマステラ神奈川相模原に移籍）などが相次いでWEリーグのクラブに移籍したが、今シーズン開幕までに川崎咲耶など実績ある選手を獲得。草木克洋監督を新たに迎え、初戦はASハリマアルビオンと対戦した。伊賀FCはCKから先制点を挙げるが、昨シーズンのベストイレブンの千葉園子がゴールを決めてAハリマが同点とする。しかし後半、韓国から3年ぶりに伊賀FCに復帰した下條彩が勝ち越し弾を決めて、2-1と勝利した。群馬県から初めてなでしこ1部に参入したバニーズ群馬FCホワイトスターとの第2節も、川崎など新戦力が活躍して1-2と逆転し、唯一の開幕2連勝を飾った。草木監督は「逆転勝利は良かったが、ゲームの締めくくりは課題が残るので修正したい」と、リーグ連覇に向けてチーム力を高めていくとした。

大阪ダービーとなった第2節のセレッソ大阪堺レディース（白）vs スペランツァ大阪（青）は引き分けに

皇后杯 JFA 第43回全日本女子サッカー選手権大会でWEリーグのチームを破り、ベスト4に躍進したセレッソ大阪堺レディースは、アンジュヴィオレ広島との開幕戦で試合終了間際に15歳の栗本悠加が劇的な決勝点を決めた。しかし、第2節のスペランツァ大阪との大阪ダービーは2点リードから引き分けとされる。スペ大阪は今シーズン加入のベテラン深澤里沙が勝ち点1をもたらした。昨シーズン9得点でチームをけん引したC大阪堺の小山史乃観は「もう1点取りにいくスイッチの入れ直しができなかった」と連勝を逃したことを悔しがった。

昨シーズン準優勝のスフィーダ世田谷FCは、開幕戦で黒星を喫したが、第2節でオルカ鴨川FCに0-1の勝利。リーグ150試合目の出場となった長崎茜がメモリアルゲームで今シーズン初勝利をもたらした。チーム創立10年目のニッパツ横浜FCシーガルズは第2節まで無敗を守り、南條里緒、奈良美沙季など新戦力が活躍。1部2年目のシーズンで上々の滑り出しを見せた。

開幕5日前の3月14日に行われた開幕記者会見で、日本女子サッカーリーグの奥田泰久専務理事は「プロリーグ（WEリーグ）とは一味違った魅力的なリーグに取り組んでいく」とし、なでしこリーグの存在価値を高めるため、（なでしこリーグからの）皇后杯優勝、日本代表選手輩出、異議ゼロ、独自のレギュレーション作成を進めていくとした。1部は今シーズンから優勝トロフィーとメダルを一新（25ページ参照）。選手へのメダルが集まって完成する斬新なトロフィーが披露され、日本女子サッカーのアマチュア最高峰リーグとして、新たな歴史の始まりを予感させた。

昨年準優勝のスフィーダ世田谷FCは第2節でオルカ鴨川FCに競り勝ち初白星

なでしこリーグ2部

JFAアカデミー福島が2連覇へ好スタートを切る

3月26日、27日に開幕した2022プレナスなでしこリーグ2部は、ホーム&アウェイ方式による2回戦総当たりのリーグ戦（全18節）で行われる。昨年11月に行われた2021プレナスなでしこリーグ2部入替戦で、1位のディアヴォロッソ広島と3位のヴィアティン三重レディースがなでしこリーグに初参入し、2部は昨シーズンから2チーム増の10チームで優勝を争う。

昨シーズン2部で初優勝したJFAアカデミー福島は、最優秀選手賞と得点王をダブル受賞した松窪真心が高校3年生となり、開幕戦のDR広島戦で初得点を挙げた。共にU-19日本女子代表候補の林愛花も得点し、2-0の開幕戦勝利に貢献。acの福島の山口隆文監督は「相手のビルドアップを阻止するため、高い位置から積極的に奪う守備で相手を苦しめた」と評価し、キャプテンの林も「最初からパワーを持っていけたのが早い時間帯の先制につながった」と、目標に掲げる2連覇に向け勝利を喜んだ。

昨シーズン3位と惜しくも1部昇格を逃した静岡SSUボニータは、本田美登里監督に代わって小川貴史監督が就任し、開幕戦ではノルディーア北海道を3-1で下して勝ち点3を獲得。ベテランの渡辺彩香、キャプテンの藤原加奈、そして2021年度の皇后杯から静岡でプレーしている三好茜が得点を重ねた。小川監督は「リーグ戦初出場の選手も練習の成果を感じさせてくれるプレーで今後に期待が持てる」と手応えを口にした。

JFAアカデミー福島は昨年大活躍の松窪真心が開幕戦でゴールを挙げ、2連覇へ向けて好発進

岡山湯郷ベルとV三重の開幕戦は、昨年10月に行われた2部入替戦の再戦となり、2-2の引き分け。V三重の森周三監督は「勝ち点3を取れなかったことは非常に残念だが、初めてなでしこリーグで戦うわれわれにとっては大きな意味を持つ勝ち点1」と初戦を振り返った。

その他、昨シーズン1部から2部に降格した大和シルフィードは、2-0でつくばFCレディースに勝利。福岡J・アンクラスと吉備国際大学Charme岡山高梁の開幕戦は、吉国大Cが終始攻め続けたが1-1の引き分けとなった。

10月下旬から11月上旬に予定している2022プレナスなでしこリーグ1部・2部入替戦には、なでしこ1部11位チームと同2部2位チームが出場する。今シーズンも1部昇格を懸けた争いはさらに激しさを増しそうだ。

初参入のヴィアティン三重レディースは岡山湯郷ベルとの初戦に引き分け、勝ち点を獲得した

■2022プレナスなでしこリーグ1部

日程：3月19日（土）～10月16日（日）
12チームによる2回戦総当たり（22節）

チーム名
バニーズ群馬FCホワイトスター（昇格）
オルカ鴨川FC
スフィーダ世田谷FC
日体大SMG横浜（チーム名変更）
ニッパツ横浜FCシーガルズ
朝日インテック・ラブリッジ名古屋（チーム名変更）
伊賀FCくノ一三重
スペランツァ大阪（チーム名変更）
セレッソ大阪堺レディース
ASハリマアルビオン
アンジュヴィオレ広島
愛媛FCレディース

■2022プレナスなでしこリーグ2部

日程：3月26日（土）～10月9日（日）
10チームによる2回戦総当たり（18節）

チーム名
ノルディーア北海道
つくばFCレディース
大和シルフィード（降格）
JFAアカデミー福島
静岡SSUボニータ（チーム名変更）
ヴィアティン三重レディース（新規参入）
岡山湯郷Belle
吉備国際大学Charme岡山高梁
ディアヴォロッソ広島（新規参入）
福岡J・アンクラス

JFA 第33回O-40女子サッカーオープン大会

JFA O-40 WOMEN'S OPEN TOURNAMENT

[大会概要]
3月25日～27日、Jヴィレッジ（福島県）で開催。18チームが3チームずつ6グループに分かれてリーグ戦（1次ラウンド）を戦った後、2次ラウンドを戦う。2次ラウンドでは、上位トーナメントがノックアウト方式（3位決定戦を行う）で、中位・下位においては変則的なリーグ戦で順位を決定する。試合は8人制、40分（20分ハーフ）で実施。

3年ぶりの大会で 東京アルテミスSCが優勝

準決勝までの3試合全てで1点差のゲームをものにしたFeminino（ユニフォーム黄色）。決勝でも諦めない姿勢を見せた

1次ラウンドでは4チームが連勝を飾った。その中で最高成績を残したのが千葉・ベイサワーズ（関東／千葉県）。2試合連続で3得点し、6得点無失点で上位トーナメントに進出した。

そのベイサワーズを上位トーナメント初戦で破ったのが、Feminino（東北／宮城県）だった。連勝でグループAを突破したが、ベイサワーズとは対照的に2試合とも1-0の接戦だった。だが、粘り強さを武器にベイサワーズに2-1で競り勝つと、準決勝では4得点で快勝し、決勝へと駒を進めた。

一方、1次ラウンドを突破できなかったチームも、中位・下位リーグなどで最終日まで全力でプレーした。大会2日目は強い風雨にさらされたが、「誰一人プレーをやめなかった」と、大会運営者は選手たちの熱意あふれる戦いぶりに感嘆した。

岩手選抜O-40（東北／岩手県）は、今回が念願の初出場だった。2年前の新型コロナウイルス感染拡大による大会中止によって競技から離れてしまった選手もいたという。それでも今回の出場を前に声を掛けると「20人ほど集まってくれた」と庭千栄子キャプテン。初戦では全国大会初勝利を挙げ、「今回参加できなかったメンバーも加われば、2勝、3勝することも可能だと思う」と手応えを語った。

決勝では、Feminino と東京アルテミスSC（関東／東京都）が顔を合わせた。Femininoは球際に強いサッカーで懸命に戦ったが、序盤から押していたアルテミスの笠嶋由恵が輝きを放つ。元日本女子代表DFは中盤からうまく顔を出し、開始8分の先制点を含めてハットトリックを達成。チーム全員によるパスワークで相手の粘守を攻略しつつ、3-0での優勝決定に大きく貢献した。

O-30の常連でもあるチームの優勝の立役者は「やはり全国大会という響きが良い」（笠嶋）と笑顔。「昔、本格的にやっていた人も、第二のサッカー人生としてやっている。今は仕事や家庭を大事にしながら、集まれる時は真剣にサッカーを楽しんでいる。O-30とこの大会の両方にまた出たい」と、サッカーへの情熱を燃やしていた。

上位トーナメント3位決定戦ではLa Belle Equipe（ユニフォーム灰色）が接戦を制した

新型コロナウイルスの影響により3年ぶりの開催となった本大会はJヴィレッジで開催された

表彰式では佐々木則夫JFA女子委員長が登場し、選手たちに表彰状を授与した

JFA 第27回全日本フットサル選手権大会

【大会概要】
1・2回戦は浜松アリーナ(静岡県)、岸和田市総合体育館(大阪府)、グリーンアリーナ神戸(兵庫県)の3会場で行い、準々決勝からは駒沢オリンピック公園総合運動場 屋内球技場で開催。32チームがノックアウト方式で優勝を争う(3位決定戦は行わない)。

立川・府中アスレティックFCが初優勝

立川・府中が3度目の決勝進出で念願の初優勝を果たした

JFA 第27回全日本フットサル選手権大会が、3月12日から21日にかけて行われた。

今大会も32チームが出場して日本一を争う予定だったが、大会前に新型コロナウイルスの陽性者が認められたためエスポラーダ北海道(F1／北海道)が出場を辞退。同チームと1回戦で対戦する予定だったR.D/ディノ(九州2／福岡)が2回戦に進出した。

1回戦、最大の注目となったのは、前回大会の決勝の再現となったフウガドールすみだ(F1／東京)としながわシティ(F2／東京、前回はトルエーラ柏として出場)の一戦だった。1週間前に行われたFリーグディビジョン1・2入替戦に敗れたしながわは、その敗戦を引きずることなく、29分に野村啓介のゴールで先制する。試合終盤にすみだにパワープレーを仕掛けられるが、しのいで得点を許さず1-0で勝利。前回大会の雪辱を期して臨んだすみだに競り勝った。

2回戦でしながわシティと対戦したのは、F1リーグ5連覇を果たした名古屋オーシャンズ。名古屋は、ガブリエル・ペネジオの得点で先手を取ると、点の取り合いとなった試合を7-4で制して前回大会のリベンジを果たした。

準々決勝には、F1の7クラブとF2のデウソン神戸が勝ち上がった。その中で決勝に駒を進めたのは、準々決勝でシュライカー大阪、準決勝でバサジィ大分を下した立川・府中アスレティックFCと、3大会ぶりの優勝を目指す名古屋だった。

第24回大会の決勝で対戦した両チーム。当時は0-6の大差で敗れた立川・府中だが、この試合では4分に皆本晃のキックインからオウンゴールを誘発して先制に成功する。立川・府中はその後、名古屋に48本ものシュートを打たれながらもGK黒本ギレルメを中心に粘り強く守り、1-0で勝利。3度目の決勝進出で初優勝を果たした。

大会最優秀選手には、立川・府中の黒本が選出された。名古屋を完封した決勝をはじめ、大会を通じて攻守に活躍を見せた黒本は「最高です。みんないつも以上に頑張っていましたし、今まで見たことのないアスレでした」と、初優勝を喜んだ。

名古屋は3大会ぶりに決勝に進出。長年、日本フットサル界をけん引してきた星翔太(写真)は大会終了後に引退した

1回戦で前回大会の決勝カードが再現。しながわ(ピンク)がすみだ(エンジ)に再び勝利した

今大会は4会場で開催され、連日、白熱した戦いが展開された

JFA 第18回全日本女子フットサル選手権大会

JFA WOMEN'S FUTSAL CHAMPIONSHIP

［大会概要］
3月4日〜6日、北海道のよつ葉アリーナ十勝で開催され、全国9地域の16チームが参加。
ノックアウト形式で行う（3位決定戦を実施）。

バルドラール浦安ラス・ボニータスが2度目の優勝を飾る

安定した強さを見せた浦安が2度目の優勝に輝き、女子Fリーグとの2冠を達成した

JFA 第18回全日本女子フットサル選手権大会が、3月4日から6日にかけて北海道のよつ葉アリーナ十勝で開催された。

決勝に勝ち上がったのは、過去5度の優勝を誇るアルコ神戸（関西2／兵庫）と2019年大会を制したバルドラール浦安ラス・ボニータス（関東2／千葉）の2チームだった。1回戦から、同じく日本女子フットサルリーグに所属する立川・府中アスレティックFCレディース（関東3／東京）と対戦した神戸は、チーム内に新型コロナウイルス陽性者が出たため、大会前の調整が全くできていない状態だった。不安を抱えながら大会に臨んだ神戸だったが、立川・府中に4-3で勝利。「奇跡の勝利」と喜んだ選手たちは勢いに乗り、準々決勝で高知ユナイテッドSCレディース（四国／高知）を5-2で、準決勝では、今シーズンの公式戦を全勝していた関東女子フットサルリーグのシュートアニージャ（関東1／神奈川）を2-0で破るなど底力を見せた。

一方の浦安は、初戦でビボルガールフットサルクラブ（九州／長崎）に8-0で大勝すると、2回戦では福井丸岡ラック（北信越／福井）と対戦。開始早々に先制された浦安は、後半4分までに2点をリードされる展開となる。それでも、倉持杏子のゴールで追いつくと、千田日向子のゴールで逆転し、4-3で競り勝った。続く準決勝は、前回大会の決勝と同じSWHレディース西宮（関西1／兵庫）と対戦。前回大会はPK戦の末にタイトルを逃した浦安だったが、再びPK戦にもつれたこの試合ではGK杉山藍子が活躍を見せて4-2で勝利した。

決勝では、ここまで少ない人数で戦ってきた神戸が気力を振り絞って戦ったものの、浦安が6-1で試合を制し、2大会ぶり2度目の優勝を果たした。この試合を最後に現役を退く加藤正美、平井佑果がそろって古巣からゴールを挙げてキャリアの最後に花を添えた。

女子リーグチームと地域リーグのチームの対戦も全日本女子フットサル選手権大会の醍醐味の一つ。今大会では、1回戦でゴリラシズオカ（東海2／静岡）が西宮と3-2の接戦を演じ、4強入りしたシュートアニージャも神戸、西宮という女子リーグ上位チームと互角に渡り合い、日本の女子フットサルのポテンシャルを示した。

過去5回の優勝を誇る神戸は少ない人数ながら決勝まで進出した

ベスト4に進んだ地域リーグのシュートアニージャ。女子Fリーグのチーム相手にも堂々と渡り合った

日本女子フットサルの頂点を決する大会は今年も北の大地で行われ、熱戦が繰り広げられた

REPORT

JFAフットサルGKプロジェクト

内山慶太郎プロジェクトリーダーに聞く

2021年11月、日本サッカー協会（JFA）フットサルGKプロジェクトが発足した。同プロジェクトではフットサルGKコーチライセンスの新設を含め、「代表強化」「育成」「指導者養成」「普及」「分析」という五つの柱で日本フットサルの底上げを図っている。プロジェクト発足の経緯やビジョンについて内山慶太郎プロジェクトリーダーに聞いた。

○オンライン取材日：2022年3月18日

フットサルにおいてGKは重要なポジション

フットサルの日本代表、U-20代表および女子代表の3カテゴリーのGKコーチを務める内山慶太郎プロジェクトリーダーは、プロジェクト発足の理由について「フットサルのGKに関する知識を有している指導者がまだまだ少ない。GKコーチの養成はもちろん、フットサルのGKに必要な考え方やテクニックの構成要素などを、なるべく早く指導者の方々に周知したい。また、より若い選手たちの発掘・育成についても、全国レベルで網を張って活動したいと考えていた。これら二つの側面について取り組むことで日本代表の強化につなげていきたい」と説明する。

フットサルはピッチが狭く、人数が少ないこともあって、GKがプレーに関わる頻度は高い。ボールが飛んできたり、味方からパスを受けたりする回数は圧倒的に多く、攻守両面でスコアに直結するプレーも多い。内山プロジェクトリーダーは「近年はGKに求められる役割が大きく変わってきており、"5人目のフィールドプレーヤー"として積極的にシュートを打ったり、味方のゴールをアシストする機会が増えている。そういった部分が11人制サッカーのGKとの大きな違いであり、フットサルGKのやりがいでもある」と語る。

役割の変化とともに、GKの特徴も多様化している。昨年のFIFAフットサルワールドカップリトアニア2021で優勝

各カテゴリーでGKコーチを務める内山慶太郎プロジェクトリーダー（中央）

したポルトガル代表の正GKベベは、身長174センチと小柄ではあるが、シュートストップの能力において特筆すべきものがある。また、内山プロジェクトリーダーが「フットサル界におけるGK大国」と語るブラジルの場合、代表クラスのGKは全員がフィールドプレーヤーと遜色ない足元の技術を備えているという。「何か大きな武器を備えたGKのいるチームが大会の上位に進出する。逆に言うと、そういったタレント力を生かしたチームづくりや戦い方を目指すことが必要」（内山プロジェクトリーダー）なのだ。

日本人GKの特徴については次のように解説する。

「非常に繊細で、一つ一つのアクションにこだわって練習から取り組むことができる。そういった緻密さがストロングポイントだと思う。何かができない、苦手なプレーがある、といったことは少ない。半面、ストロングポイントが見えにくいという傾向もある。あらゆる能力がそろってはいても、世界レベルの突出した長所を持つまでには至っていない」

フットサルGKプロジェクトの目的の一つは、こうした課題を解決すること。内山プロジェクトリーダーは5年にわたってプロジェクトの草案を練り、川俣則幸JFA GKプロジェクトリーダーと連携しながら準備を進めてスタートにこぎつけた。現在プロジェクトに携わるのは内山プロジェクトリーダーほか5人。いずれもFリーグクラブの現役GKコーチやGKコーチの経験者だ。

五つの柱を軸にプロジェクトを進行

プロジェクトの柱は「代表強化」「育成」「指導者養成」「普及」「分析」の五つ。代表強化については、各代表のGKコーチを兼務する内山プロジェクトリーダーが中心となり、各国の代表チームと戦う中で世界の動向を把握して代表のGKと共有しつつ、プロジェクトメンバーや各チームの指導者にもフィードバックしていく。

GKの育成は、2018年から年2回、20歳以下の選手を対象に実施している「JFAフットサルGKキャンプ」を継続していく予定だ。このキャンプの参加者からFリーグのピッチに立つ選手も出てきており、「以前から取り組んできた成果が少しずつ形になってきた」と手応えを感じている。Jクラブのアカデミーから参加する選手もおり、そうした選手にもチャレンジできる場を設け、11人制サッカーのGKからフットサルのGKに転向する流れを増やしていきたいとも考えている。

「サッカーをやめた選手のその後をたどってみると、『フットサルに転向するという選択肢があればプレーを続けていたかもしれない』というケースが意外と多い。われわれが至らなかった部分でもあるが、フットサルGKプロジェクトを通じてそういった選択肢があることを指導者の皆さんにも知ってもらい、フットサル転向への流れを促していきたい」（内山プロジェクトリーダー）

普及については、今年から本格的に活動をスタートさせる予定だ。各地域のサッカー協会と連携して地域の子どもたちにGKの指導をしたり、指導者を対象とした講習会を実施することを計画している。

分析は代表強化にも関連するが、世界のフットサルGKのトレンドを分析してその潮流をつかみ、日本代表や日本人GKのあるべき姿をプロジェクトメンバー全員で追求していく。

GKのレベル向上へライセンス制度を導入

指導者養成では「フットサルGKコーチライセンス」を新設した。2021年11月18日の第13回理事会で設立が承認され、22年から指導者養成講習会を実施していく。当面はC級ライセンスの講習会を開講することにしており、22年は夏以降に2コースを実施、合計40人ほどが受講する予定だ。

フットサルの指導者養成講習会は08年にC級、11年にB級が付加ライセンスとして開設された。15年にはその両方が本ライセンスとなり、17年にはA級を開設した。これらのコーチライセンスの講習会にはGKに関する講義や実技も含まれているが、選手に対して専門性の高い指導をするには不足する部分も多かった。また、Fリーグ所属チームですらGKコーチがいないクラブもあり、内山プロジェクトリーダーは「5人しかピッチに立たないフット

FIFAフットサルワールドカップリトアニア2021に臨んだフットサル日本代表のGK陣。惜しくもベスト16の壁を破ることはできなかった

ゴールを守るだけではなく、足元の技術などGKに求められる要素も増えてきている。写真はJFA 第27回全日本フットサル選手権大会より

サルという競技において、GKは攻守両面でキープレーヤーになる可能性が非常に高い。重要度の高い選手に対して的確な指導ができる環境を整えていくためには、GK指導者ライセンスをつくらなければならないという思いがあった」とライセンス創設の経緯を説明する。

講習会は、アジアサッカー連盟（AFC）のフットサルGKレベル1のライセンスを取得しており、AFCではフットサルGKインストラクターを務める内山プロジェクトリーダーがインストラクターを務め、他のプロジェクトメンバーがサポートに入る形で進めている。「インストラクターも自ら研さんを積み、レベルアップしていってほしい」と内山プロジェクトリーダー。講習会のプログラム自体も世界のトレンドや指導論を反映させながら柔軟にモデルチェンジ、バージョンアップをしていく方針だ。

なお、フットサルGKコーチライセンスは27年にB級、32年にA級の指導者養成講習会の立ち上げを目指しており、将来的にはAFCフットサルGKコーチライセンスとの互換性を持たせたいとしている。

ライセンスの取得者が増えていけば、FリーグのクラブがGKコーチを雇用するケースも増えていくだろう。幸いにしてトップレベルの指導者の間ではフットサルGKプロジェクトに対する理解は得られており、今後はライセンスを持つGKコーチの雇用が制度化されていく可能性もある。内山プロジェクトリーダーは「ライセンス取得が高いハードルにならないよう、まずは普及に努め、しかるべきタイミングでライセンス保有を義務化させることで、Fリーグを通じた全体的な強化につなげていきたい」と期待を寄せている。

ワールドカップ優勝へ 環境整備を進める

今はまだプロジェクトを立ち上げたばかりでメンバーが少ないこともあり、プロジェクトの活動が限定的になっている。「マンパワー不足を補い、全国規模の活動へと拡大させるためにスピード感を持って取り組んでいきたい」と内山プロジェクトリーダーは語る。全国各地を視察する際に各地の指導者や育成年代の選手とコミュニケーションを取り、現状の把握や情報収集に取り組む予定だ。現時点では、北信越や四国、九州などの地域においてGKコーチの人数が不足しているという課題がある。その改善が当面のテーマであり、そこから各地域での活動も推進していく。

まずは9地域にGKコーチのリーダー的な役割を担える人材を配置し、将来的にはそれを47都道府県に広げていく。フットサルGKキャンプについても、各地域でGKキャンプを行い、その中で選抜された選手がナショナルフットサルGKキャンプに集まるようなシステムをつくる。指導者養成講習会については、年2回のコースだけでなく、各プロジェクトメンバーが各地域のサッカー協会と協力して実施できるよう整備していく。

内山プロジェクトリーダーは「性別、年齢、レベルを問わず、全ての人々にとって有益なものをつくりたい」とし、先に挙げた五つの柱を過不足なく成長させることを目指す。その先にあるのは、日本のフットサル界全体が掲げている2036年FIFAフットサルワールドカップでの優勝という大きな目標だ。

「GKの活躍なくして、2036年の目標を成し遂げることは難しい。そのためにも世界で活躍できるGKを育てていきたい。それには、われわれ指導者自身が世界に通用するレベルになること。このプロジェクト、そして指導者養成講習会が世界に誇れるものになるよう、志を高く持って取り組んでいきたい」と内山プロジェクトリーダー。高校生の頃にフットサルを始め、草創期のFリーグでもプレーした同氏は、現役時代、スペインリーグにも挑戦した経験がある。そのときに、世界で活躍することの難しさを、身をもって知った。「スペインには育成年代から大人まで、どのチームでもGKの練習がしっかりできる環境があり、監督やコーチもGKのことをよく知っていた。そうした環境にリアルに触れ、そこを目標にして進めてきた」と力を込める。

目指すのは「GKの環境を良くすること、GKコーチを育てること、監督やコーチの方々にGKのことを知ってもらうこと」。五つの柱を軸にフットサルGKの環境を整備し、魅力を伝えることが、これからのフットサルGKプロジェクトの使命となる。

指導のレベルが向上すればGKのレベルアップも期待できる。写真はJFA 第27回全日本U-15フットサル選手権大会より

サッカーファミリー広場

アタックZERO Presents 届けようユニフォームプロジェクトを実施
～着なくなったユニフォームがつなぐ、日本とカンボジアの絆

「届けようユニフォームプロジェクト」は、全国の小学生サッカーチームから回収した、着る機会のなくなったユニフォームを、JFA 全日本U-12サッカー選手権大会の協賛社である花王のアタック ZERO で洗濯および検品した上でカンボジアの小学校や児童施設に届けるという取り組みだ。

日本の家庭で捨てられる服は年間約 48 万トン――。大会や公式戦が終わって着る機会がなくなってしまったユニフォームも、海外に届けることで誰かにとって必要なものになる。頑張った自分のユニフォームへの「想い」も、世界の誰かにつなぐことができる。一枚のユニフォームを通じて、未来を担う子どもたちに海外の仲間とのつながりや環境問題への気付きといった広い視野を育んでほしい、という思いからこのプロジェクトは生まれた。

2021 年 10 月 14 日から約 3 週間、全国の小学生サッカーチームからユニフォームや練習着を募集。計 312 チームから 4,729 枚のユニフォームが集まり、2022 年 1 月から 2 月にかけてカンボジアの小学校や児童施設 11 カ所に届けられた。

●ユニフォームを送った参加者コメント

・自分が着ていたものをカンボジアで着てくれるのがすごい！世界とつながっている感じがする。
・動きやすいから、たくさん走ったりできる。これを着て（サッカーを）楽しんでもらえたらいいな。
・将来、もし試合ができる機会があれば、お互い全力で試合をしましょう。

●ユニフォームを受け取ったカンボジアの小学生コメント

・サッカーの練習をがんばりたい。
・生地が良くて、洗剤の良い匂いがする。

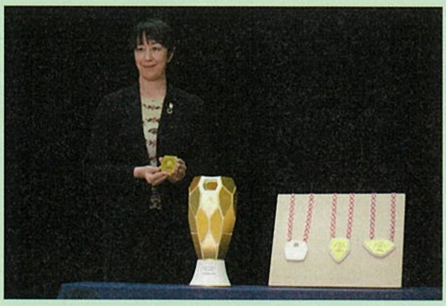
●参加者の保護者およびチームコーチコメント

・親も子もすごく思い入れがあるユニフォームなので、また使ってもらえ、役に立つことがすごくうれしいです。（保護者）
・大事にユニフォームを使ったことで、カンボジアの子どもたち、仲間がユニフォームを着てサッカーをより楽しむことができる。だれが着ても大丈夫なように、これからもユニフォームは大事に使ってほしい。（サッカーチームコーチ）

▶アタック ZERO Presents 届けようユニフォームプロジェクト プロモーション動画
https://youtu.be/g8TC2TQIOcw

2022プレナスなでしこリーグ、新たな優勝トロフィーとメダルが完成
～公式テーマソングはZILLION「One Day」に

日本女子サッカーリーグは 3 月 14 日、2022 シーズンの開幕記者会見をオンラインで開催した。会見には岩上和道理事長、奥田泰久専務理事、ヨーコ・ゼッターランド理事、北澤豪理事ほか、1 部・2 部各チームの代表選手らが登壇した。また、会見ではなでしこリーグ1部の新優勝トロフィーとメダル、2022 シーズンのテーマソングが発表された（24 ～ 25 ページに関連情報あり）。



ヨーコ・ゼッターランド理事が 1 部優勝トロフィーとメダルを紹介

▶新トロフィーとメダル プロモーション動画
https://youtu.be/wwagKBqYJOQ

▶公式テーマソング ZILLION「One Day」
https://youtu.be/HblkCPY52I4

サッカーファミリー復興支援金

日本サッカー協会（JFA）は、東日本大震災で被災した地域のサッカーファミリーが、これまで通り、サッカーを楽しむことができるよう、サッカー環境の復興を目的に「サッカーファミリー復興支援金」口座を開設しています。集まった復興支援金は、運用細則に基づいて運用されます。

銀行口座　三菱UFJ銀行（0005）　渋谷支店（135）
普通預金　口座番号0290451　公益財団法人日本サッカー協会
サッカーファミリー復興支援金口
※ご利用金融機関が設定する振込手数料はご負担願います。

「暴力等根絶相談窓口」を設置しています

日本サッカー協会（JFA）は、サッカーの活動現場で生じた暴力行為に関する通報を受け付ける窓口として「暴力等根絶相談窓口」を設置しています。
利用方法：
【電話】03-5276-8838
【FAX】廃止
【フォーム】https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSd0TvrvO-Leh64Nomkz4YOCQAVouVhhmWtVs3EGjIW_ZdkU5w/viewform?usp=sf_link
利用時間：平日12：00～18：00（土日祝、年末年始等除く）

読者プレゼント

応募締切：2022年5月16日（月）当日消印有効

アディダス ジャパン（株）提供

日本代表のオフィシャルサプライヤーであるアディダス ジャパン（株）より、「CONDIVO21 トラックジャケット（チームネイビーブルー／ホワイト、Lサイズ））」を1名様にプレゼント。

JFA STORE 提供

「JFA STORE」は日本代表のグッズなどがそろうJFAのオフィシャルeコマースサイトです。さまざまなシーン、目的に合わせてグッズを確認できるページに加え、特集ページも用意しました。
今号では「ウエストポーチ」を1名様にプレゼント。

https://official-store.jfa.jp/

JFA STORE

プレゼント応募方法

■Web

プレゼント応募URL
https://forms.gle/ggum4zb163XSKPu5A

上記URLもしくはQRコードよりアクセスしてご応募ください。

■はがき

〒113-8311
東京都文京区サッカー通り（本郷3丁目10番15号）JFAハウス
公益財団法人日本サッカー協会・広報部
「JFAnews プレゼント応募」係

①名前、②郵便番号・住所、③電話番号、④希望プレゼント名、⑤JFAnewsのご感想・ご意見などを明記の上、郵送でお送りください。

当選者の発表は発送をもってかえさせていただきます。発送は2022年5月下旬の予定ですが新型コロナウイルスの感染拡大対策の影響により、お届けに大幅な遅れが生じる場合があります。予め、ご了承ください。
※収集した個人情報は厳重に管理し、他の目的には使用いたしません。また、お送りいただいた葉書は返却いたしません。

公益財団法人日本サッカー協会機関誌

JFAnews

発行人　：須原清貴
発行所　：公益財団法人日本サッカー協会
〒113-8311
東京都文京区サッカー通り（本郷3-10-15）JFAハウス
TEL.050-2018-1990（代）／FAX.03-3830-2005
URL https://www.jfa.jp
監　修　：公益財団法人日本サッカー協会 広報部
編　集　：編集長 加藤秀樹
JFAnews編集部／（株）ウォールニクス
印　刷　：サンメッセ（株）
定　価　：600円／本体545円

日本サッカー協会（JFA）は現在、主にウェブ会議システム等を用いて会議や会見、取材等を実施しています。本誌の取材につきましてもウェブ会議システムや電話、書面による取材で皆さまに変わらぬ情報を届けてまいります。

JFAはこうした取り組みが新型コロナウイルス感染拡大を抑止し、一日も早い終息に寄与するとともに、働き方改革の推進などより良い社会の実現に向けた仕組みづくりの一助になればと考えております。

次号2022年5月情報号は、2022年5月23日発売予定

［特集］
日常におけるフィジカル強化

※特集テーマ・内容は変更となる場合があります

ご購読のお知らせ

・インターネットからのご購入
日本サッカー協会　Official Online Shop
https://webshop.jfa.jp/fs/jfagoods/c/top
※クレジットカード決済のみ。
上記サイトでは本誌のほかJFA関連発行物の購入が可能です。

・年間購読
JFAnewsの年間購読料は、送料・税込みで1年間（12冊）5,000円で、年間2,200円お得です。
ご希望の方は上記インターネットよりお申し込みください。

・チーム登録をされているご購読者さまへ
JFAnews発送における住所変更、名義変更を希望される場合は、JFA公式ウェブサイトの「JFAへの登録」よりJFA IDシステムにログインしていただき、変更をお願いします。

KIRIN

iMUSE

プラズマ乳酸菌

機能性表示食品

さぁ、免疫ケアで健康管理！

健康な人の免疫機能の維持をサポート
［プラズマ乳酸菌の研究報告］

果汁1%

【届出表示】本品には、プラズマ乳酸菌（*L. lactis* strain Plasma）が含まれます。プラズマ乳酸菌はpDC（プラズマサイトイド樹状細胞）に働きかけ、健康な人の免疫機能の維持に役立つことが報告されています。

●食生活は、主食、主菜、副菜を基本に、食事のバランスを。●本品は、国の許可を受けたものではありません。●本品は、疾病の診断、治療、予防を目的としたものではありません。

免疫のひみつ スペシャルムービー

声優に花江夏樹さん、竹達彩奈さんらを起用。「免疫のひみつ」について楽しく学ぶことができます。

詳しくはこちら！

キリンホールディングス株式会社
〈お客様相談室〉 0120-770-502
受付時間10:00～16:00（土日祝日除く）

iMUSE https://www.imuse-p.jp/
のんだあとはリサイクル。

JFA news 2022.4 NO.456

特集 女子U-15年代の環境整備

発行人 須原清貴
発行所 公益財団法人日本サッカー協会
〒113-8311
東京都文京区サッカー通り(本郷3丁目10番15号)JFAハウス
電話050(2018)1990(代)

JFA DREAM
夢があるから強くなる

CARBON OFF SET

VEGETABLE OIL INK

FSC
www.fsc.org
ミックス
責任ある木質資源を
使用した紙
FSC® C014969

アスパス!

定価600円(本体545円)